

官報 號外

大正十年三月六日 日曜日

印刷局

第四十四回衆議院議事速記録第二十二號

大正十年三月五日(土曜日)午後一時二十四分開議

議事日程 第二十一號 大正十年三月五日

午後一時開議

- 第一 陸軍軍法會議法案(政府提出貴族院送付) 第一讀會
- 第二 朝鮮軍軍法會議ニ關スル法律案(政府提出貴族院送付) 第一讀會
- 第三 臺灣軍軍法會議ニ關スル法律案(政府提出貴族院送付) 第一讀會
- 第四 關東軍軍法會議ニ關スル法律案(政府提出貴族院送付) 第一讀會
- 第五 海軍軍法會議法案(政府提出貴族院送付) 第一讀會
- 第六 陸海軍軍法會議私訴裁判強制執行法廢止法律案(政府提出貴族院送付) 第一讀會
- 第七 刑事交涉案(政府提出貴族院送付) 第一讀會
- 第八 陸軍法務官及海軍法務官ノ恩給及遺族扶助ニ關スル法律案(政府提出貴族院送付) 第一讀會
- 第九 明治三十五年法律第二十九號中改正法律案(政府提出貴族院送付) 第一讀會
- 第十 明治四十四年法律第六十一號中改正法律案(政府提出貴族院送付) 第一讀會
- 第十一 巡查看守退隱料及遺族扶助料法中改正法律案(政府提出貴族院送付) 第一讀會
- 第十二 明治四十三年法律第三十號中改正法律案(政府提出貴族院送付) 第一讀會
- 第十三 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十四 日本勸業銀行及農工銀行ノ合併ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十五 日本勸業銀行法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十六 農工銀行法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十七 農工銀行補助法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

- 第十八 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十九 戶籍法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第二十 大正九年法律第五十三號中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第二十一 特許法改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第二十二 實用新案法改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第二十三 意匠法改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第二十四 商標法改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第二十五 辦理士法案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第二十六 米穀法案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第二十七 米穀需給調節特別會計法案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第二十八 罹災救助基金法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第二十九 國有土地森林原野下戻ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第三十 決議案(齋藤總督ノ朝鮮統治ニ關スル件)(三木武吉君提出) 第一讀會
- 第三十一 刑事訴訟法中改正法律案(齋苗代君提出) 第一讀會
- 第三十二 刑法中改正法律案(齋苗代君提出) 第一讀會
- 第三十三 刑法中改正法律案(宮古啓三郎君外七名提出) 第一讀會
- 第三十四 未成年者飲酒禁止法案(根本正君外五名提出) 第一讀會
- 第三十五 非役壯丁稅法案(荒川五郎君外六名提出) 第一讀會
- 第三十六 辯護士法改正法律案(鷗澤總明君外九名提出) 第一讀會
- 第三十七 所得稅法中改正法律案(岩本平藏君外九名提出) 第一讀會

- 第三十八 明治三十四年法律第三十號中改正法律案(齋藤總督外六名提出) 第一讀會
 - 第三十九 地方學事通則中改正法律案(骨上藤次郎君提出) 第一讀會
 - 第四十 沒祿者給與法案(熊谷直太君外八名提出) 第一讀會
- 議長(奧繁三郎君) 諸般ノ報告ヲ致シマス
〔原田書記官朗讀〕
- 一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
 - 日本勸業銀行及農工銀行ノ合併ニ關スル法律案
 - 農工銀行法中改正法律案
 - 農工銀行補助法中改正法律案
- (以上三月二日提出)
- (第二號) 大正九年度歲入歳出總豫算追加案
 - (特第一號) 大正九年度各特別會計歳入歳出豫算ノ追加案
 - (追第一號) 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件
 - (追第二號) 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件
- (以上三月四日提出)
- 一 去一日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案左ノ如シ
 - 陸軍軍法會議法案
 - 朝鮮軍軍法會議ニ關スル法律案
 - 臺灣軍軍法會議ニ關スル法律案
 - 關東軍軍法會議ニ關スル法律案
 - 海軍軍法會議法案
 - 陸海軍軍法會議私訴裁判強制執行法廢止法律案
 - 刑事交涉案
 - 陸軍法務官及海軍法務官ノ恩給及遺族扶助ニ關スル法律案
 - 巡查看守退隱料及遺族扶助料法中改正法律案
 - 明治三十五年法律第二十九號中改正法律案
 - 明治四十四年法律第六十一號中改正法律案
 - 明治四十三年法律第三十號中改正法律案

官報號外

大正十年三月六日(三月三十一日第三種郵便物認可)

衆議院議事速記録第二十二號 議長ノ報告

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

三國港築港ニ關スル建議案
提出者 野村勘左衛門君 山本桑太郎君
柳原九兵衛君 高島七郎右衛門君
河崎 清君

北海道鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 松實喜代太郎君 木下成太郎君
東 武君 黒住 成章君
中西六三郎君 伊藤 廣幾君
栗林 五朔君 岡田伊太郎君

養蠶業並絹絲工業調査會設置ニ關スル建議案

提出者 飯塚春太郎君 永井柳太郎君
清水留三郎君 出口 直吉君
春日 俊文君

水産銀行設置ニ關スル建議案

提出者 鶴澤 宇八君 小池 仁郎君
鈴木富士彌君 高草美代藏君
佐々木平次郎君

縣社乃木神社昇格ニ關スル建議案

提出者 松岡 俊三君 植竹龍三郎君

斐伊川治水工事速成ニ關スル建議案

提出者 原 夫次郎君 櫻内 幸雄君
佐野 正雄君 平田民之助君
島田 俊雄君 若林 德懋君

長崎五島佐世保間交通運輸ノ設備ニ關スル建議案

提出者 牧山 耕藏君 中倉万次郎君
横山寅一郎君 向井 俊雄君

大甕茂木間鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 石井 三郎君 友常毅三郎君
鈴木 錠藏君 根本 正君

米穀法案ニ對スル修正案

提出者 齋藤宇一郎君 内藤 濱治君
荒川 五郎君 石井 研二君
古賀三千人君 田中 萬逸君

罹災救助基金法中改正法律案ニ對スル修正案

提出者 齋藤宇一郎君 内藤 濱治君
荒川 五郎君 古賀三千人君
田中 萬逸君 阿由葉勝作君

社寺境内敷地無償下付ニ關スル建議案

提出者 鶴澤 總明君 改野 耕三君

廣岡宇一郎君 清水市太郎君
宮古啓三郎君 (以上三月四日提出)

兵庫縣福崎間鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者 木下甚三郎君 (以上三月五日提出)

一昨四日提出者ヨリ撤回シタル議案左ノ如シ

南滿洲鐵道株式會社社庫清ニ關スル建議案

提出者 橋本 喜造君

一去一日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ議案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

函館控訴院ノ移轉ニ關スル法律案(政府提出)

大正二年法律第九號中改正法律案(政府提出)

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

第四師團射的場ノ流彈ニ關スル質問主意書

提出者 木村權右衛門君 上島益三郎君

大井浦鹽派遣軍司令官ノ責任ニ關スル質問主意書

提出者 田中 武雄君 (以上三月二日提出)

言論自由ノ抑壓ニ關スル質問主意書

提出者 横山勝太郎君 八並 武治君 (以上三月四日提出)

一去二日內閣總理大臣ヨリ議長宛左ノ通發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

司法省所管事務政府委員被仰付 (左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

一去一日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

南部支那ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル法律案

花岡 次郎君 吉野小一郎君 廣瀬 爲久君
加藤久米四郎君 井坂 豊光君 一宮房治郎君
加藤 定吉君 松井 鉄夫君 松下 禎二君

公有水面理立法案

小山田信藏君 土屋 興君 栗林 五朔君
高橋長七郎君 廣瀬 鎮之君 樋口伊之助君
松山常次郎君 毛里保太郎君 高木第四郎君
磯田泰三郎君 吉原祐太郎君 淺石 惠八君
高木 正年君 岡本 幹輔君 吉川吉郎兵衛君
淺野 順平君 高柳覺太郎君 南 鼎三君

明治三十八年法律第十七號中改正法律案

櫻内 幸雄君 今泉嘉一郎君 高橋金治郎君
海原 清平君 古林 與六君 定行 八郎君
津原 武君 山邊 常重君 鮎川 盛貞君

戶籍法中改正法律案

岩本 平藏君 高橋善五郎君 石川 玄三君
益谷 秀次君 佐々木志賀二君 禱 苗代君
藤井 啓一君 作間 耕逸君 長場龍太郎君

地方鐵道法中改正法律案外一件

米田 稔君 本多貞次郎君 岡田伊太郎君
榊田清兵衛君 匹田 銳吉君 八木 逸郎君
河相 三郎君 青柳郁次郎君 柿原政一郎君
大石 大君 下出 民義君 鶴澤 宇八君
森山儀文治君 鈴木久次郎君 野尻彌重郎君
植原悦二郎君 湯淺 凡平君 佐々木平次郎君

大正九年法律第五十三號中改正法律案

三善 清之君 友常毅三郎君 佐野 正雄君
蓮井 藤吉君 樋渡次右衛門君 松實喜代太郎君
高田 稔平君 佐藤 啓君 高草美代藏君

一去一日小學校教員俸給國庫負擔額增加ニ關スル建議案外一件委員中川幸太郎君守屋松之助君辭任ニ付其ノ補闕トシテ砂田重政君松下禎二君ヲ執レモ議長ニ於テ選定セリ

一去二日大正八年度豫備金支出ノ件外七件委員渡邊修君辭任ニ付其ノ補闕トシテ水野吉太郎君ヲ貯蓄銀行法案外一件委員磯貝浩君辭任ニ付其ノ補闕トシテ武內作平君ヲ、小學校教員俸給國庫負擔額增加ニ關スル建議案外一件委員河上哲太君辭任ニ付其ノ補闕トシテ野村勘左衛門君ヲ、地方鐵道法中改正法律案外一件委員榊田清兵衛君辭任ニ付其ノ補闕トシテ久慈貫一君ヲ執レモ議長ニ於テ選定セリ

一去四日地方鐵道法中改正法律案外一件委員八木逸郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ久下豐忠君ヲ議長ニ於テ選定セリ

一去一日理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ

米穀法案外二件

理事 阿由葉勝作君(理事横山勝太郎君補闕)

一去二日理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ

小學校教員俸給國庫負擔額增加ニ關スル建議案外一件

理事 砂田重政君(理事中川幸太郎君補闕)

一昨四日委員長及理事補選結果左ノ如シ
大正八年度豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)
委員長 熊合直太君(委員長渡邊修君補選)
貯蓄銀行法案外一件委員
理事 武内作平君(理事磯貝造君補選)

去二日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ
南部支那ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル法律案委員
委員長 花岡 次郎君 理事 加藤 定吉君
公有水面埋立法案委員

委員長 小山田信藏君 理事 高柳覺太郎君
南 鼎三君
明治三十八年法律第十七號中改正法律案委員
委員長 櫻内 幸雄君 理事 山邊 常重君
戶籍法中改正法律案委員
委員長 岩本 平藏君 理事 馬場龍太郎君
地方鐵道法中改正法律案外一件委員

委員長 米田 稔君 理事 大石 大君
大正九年法律第五十三號中改正法律案委員
委員長 三善 清之君 理事 高草美代藏君

○議長(與繁三郎君) 會議ヲ開キマス、諮問事項ガアリ
マス、議員高木第四郎君事故ニ付三月四日ヨリ九日間、
議員丸山嵯峨一郎君病氣ニ付三月四日ヨリ九日間、何レ
モ請假ノ申出ガアリマス、許可スルニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(與繁三郎君) 御異議ガ無イト認メマス、仍テ之
ヲ許可致シマス、横田千之助君ヨリ一身上ノ件ニ關シテ、
辯明ノ必要ガアルト云フ發言ノ通告ガアリマス、此場合之
ヲ許シマス、横田君

〔横田千之助君登壇、拍手〕
○横田千之助君 諸君、去ル二日ノ議場ニ於テ、憲政會
ノ代議士橋本喜造君ヨリ滿鐵問題ニ對スル質問ノ說明
中、私ノ一身上ニ就テノ政治的德操ニ就テ、疑ヲ挿ムガ如
キ言語ガアツタノデアリマス、殊ニ其ノ質問ノ筆頭ニ掲ゲラ
レタル人ハ、適當ノ置位ニ在リト云ヒナガラ、多年長キ親
交ヲ辱クシテ居ル早速整爾君デアリマス、質問ノ說明ハ橋
本君ニ依テ行ハレト雖モ、恐クハ質問ノ筆頭ニ名ヲ掲ゲ
テ居ル所ノ憲政會總務早速整爾君モ、之ニ同意ヲ表サレ
タモノト思フ、一言ナキヲ得ナイノデアリマス、私ノ身上ニ關
スル件ハ三點アル、第一ハ内田第一ハ内田汽船會社ノ船

ヲ大連汽船會社ニ賣ル場合ニ於テ、私ガ内田氏ノ依頼ヲ
受ケテ、原首相ニ請願シタト云フコトデアアル、第二ハ藤本、ビ
ルブローカー銀行ノ株、及朝日海上保險株式會社ノ株ハ、
内田氏ノ物ヲ私ノ名義ニシテ居ルカ、若クハ私ノ家族ノ名
義ニシテ居ル、然ラズンバ内田氏ヨリ贈與ヲ受ケタモノデア
ルト云フガ如キ言葉ヲ用テ居ル、此三點ニ就テ、第一
點ハ内田氏ヨリ其問題ニ就テ原首相ニ請願ヲ頼マレタコ
トモ無ケレバ、頼シタコトモ絕對ニ無イト云フコトヲ、天地ニ
誓ヒテ明言スルノデアアル(拍手起ル)第二ハ藤本銀行及朝日
海上株デアリマス、藤本銀行ト云フノハ、私ガ辯護士ノ職務
ニ從事中、多年法律顧問ノ位置ニ在リタノデアリマス、數年
前之ガ増資ヲ行フ場合ニ於テ、其事務取締役タル谷村一
太郎君ノ要求ニ依テ、特ニ其關係ニ於テ百株ダケ所有シ
テ吳レト言ウテ、私ガ引受ケタニ相違ナイ、現ニ私ノ手ニ所
有シテ居ルノデアリマス、第二ハ朝日海上ノ株、是ハ抑、數
年前大阪ノ私ノ親友、今ハ故人トナリマシタ高倉藤平ト云
フ人ガ中心トナリテ創立ヲ圖リ、私ハ法律家トシテ此計畫ニ
就テ、顧問ノ位置ニ在リタノデアリマス、業半途ニシテ此人
ハ亡クナリタノデアアル、之ガ爲メニ此周圍ニ在ル人々ガ集テ、
別ニ窪田四郎君ヲ擁シテ、神戶ノ船舶業者ヲ集メタノデア
リマス、此場合私ハ法律家トシテマダ株ノ募集ガ十分デア
イ場合ニ、發企人同様ノ位置ニ立テシテ居ル、株ヲ持テ
吳レト云フノデ、餘儀ナク持シテ關係ニシテ居ル、第一回ノ
拂込、此拂込ニ就テハ、私ノ顧問ヲシテ居ル銀行ノ藤
本銀行ニ取扱ハセテ、第一回ノ拂込ヨリ私ノ計算ニ依テ
金ヲ借り、利子ヲ拂ヒ、配當ヲ取テ居ルコトハ、藤本銀行ヲ
東京支店ニ御出シナレバ、早速君ト同道シテ何時ニデモ私
ハ證明スルコトガ出來ル、(ドウダ)ト呼フ者アリ(拍手起ル)
諸君、凡ソ政治家ニ對スル人身上ノ攻撃ハ、名ヲ風説ニ藉
テ、根據ナキ資料ニ基クベキモノデハナカラウト思フノデア
ル、(良心ニ問ヒ給ヘ)默シテ居レト呼フ者アリ)我レガ政
治上ニ立ツ上ニ於テ、十年間友人ヨリ遅レテ出タノハ、自ラ
決スル所ガアツテ出テ居ルノデアアル、資本家ニ頭ヲ下ゲテ政
治上ノ資料ヲ求ムルト云フサモシキ量見ナラバ、私ハ友人ヨ
リ十年遅レテハ政界ニ出ナイノデアアル、(拍手起ル)橋本君
ヤ早速君ニ告ゲテ置クガ、私ノ資産ハ此株バカリデハナイ、
數十萬ノ借金モアルガ、之ヲ完済シテ、向フ十年ヤ二十年
人ノ助ヲ借ラズ、政治的活動ガ出來ルダケノ用意ヲシテ
出テ來タノデアアル、(拍手起ル)但シ言テ置クガ、此資産ハ私
ノ政治上ニ出ナイ前カラ、所有シテ居ルモノデアルト云フ
コトヲ言ウテ置ク、早速君ハ今此席ニ居ラスカ知ラスガ、私
トハ長イ親友デアアル、彼ガ政治上ノ奇禍ヲ被テ其冤罪ガ晴

レテ祝福ノ祝宴ヲ開ク時、親友三名ト共ニ敵黨ナガラ特ニ
私ヲ呼ンデ、貴様モ俺ノ政治的生命ノ將來ヲ喜ンデ吳レト
言フテ、杯ヲ舉ゲテ祝シタ一人デアアル、早速君ト私トノ間ニ
ハ、切ツテモ切レナイ共通ノ三名ノ親友ガアルノデアアル、若シ
モ私ニ政治上ノ德操ニ疑フベキ點ガアツタラバ、此政黨改
派ニ關係ナク、三名ノ親友ヲ介シテ、私ノ政界隱退ヲ促シ
テ宜シイノデアアル、然ルニ名ヲ風説ニ藉リテ、濫リニ政治家
ノ人格ヲ傷ケントスルガ如キ質問ノ筆頭ニ名ヲ署スルト云
フニ至ッテハ、私ハ早速君ノ人格ニ對シテ疑ハザルヲ得ナイ
ノデアアル、(拍手起ル)諸君、我モ昔々大隈内閣ノ時代ニ於
テ、種々ノ攻撃ノ資料ハ、政友會ノ幹事トシテ百何通ヲ受
ケタコトガアル、當時ノ幹事長小川平吉君ト我モ、只ダ道
聽途説ノ新聞ノ記事ヲ探テ一人ノ身ヲ攻撃スベキモノデナ
イト言フテ、之ヲ政友會本部ノ「ストロブ」ニ投ジタコトハ、今
日知ル人ハ知ッテ居ル、(拍手起ル)只ダ當時ノ某大臣ノ行
爲ニ對シテ、事ハ豫審記録ノ調書ニ上リ、公判廷ニ於テ衆
人環視ノ間ニ公ニサレタルガ爲メニ、之ヲモ庇護スルコトハ、
當時ノ國民黨ノ諸君ト共ニ手ヲ携ヘテ、問責ノ壇上ニ
起ッタノデアアル、政治家ノ覺悟ハ此ニナケレバナラス、諸君、諸
君ノ今年ノ議會ニ於ケル行動ヲ見ルニ、司法大臣ニ對スル
馬事件以來何事デアアル、諸君ノ行動ハ根據アル材料ヲ持
タズ、只ダ議會ノ言論ノ自由ニ藉口シテ、人ノ人格ヲ傷ケテ
快心ノ叫ヲ爲サントスルガ如キ心持デアハ、議會内ノ第二黨
トシテ、次ノ時代ニ天下ノ重キニ任ズベキ諸君ノ威信ヲ、中
外ニ發揮スルモノデナイト云フコトヲ警告シテ置ク、(ヒヤ
ヒヤ)「拍手起ル」諸君、内田君ノ行爲ニ就テ或内閣ノ時代
ニ——原内閣デアリマセヌヨ——或内閣ノ時代、何レノ時
カニ内田君ト其内閣トノ間ニ惡因縁ガアツタト假定シテ、此
假定ガアルカラ此内閣モサウグラウト云フ當推量デ來ルト、
大間違ヲ致シマス、(ヒヤヒヤ)「拍手起ル」事件ノ發展スル
所、傷クモノハ政友會デアアルカ何所デアアルカト云フコトヲ、
十分諸君ノ心ノ反省ヲ求メテ私ハ此辯明ヲ終ラウトスル、
(拍手起ル)早速君ニ言フコトガアレバ、謹シク早速君ノ言
モ聽カウト思フ、サウシテ今議案編輯ノ時代、私ノ此辯明ニ
對シテ長ク御清聴ヲ煩シタル所ノ議長閣下、及同僚諸君
ノ寛大ニ對シテ、深ク感謝ノ意ヲ表シマス(拍手起ル)

○議長(與繁三郎君) 日程二入リマス、日程第一乃至第
十二ハ、同種又ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括シテ議題
ニ供シ、其第一議案ヲ開キマス

大正十年三月六日 衆議院議事速記第二十二號 議長ノ報告 五〇七

第一 陸軍軍法會議法案(政府提出、貴族院送附) 第一讀會

第二 朝鮮軍法會議ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送附) 第一讀會

第三 臺灣軍法會議ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送附) 第一讀會

第四 關東軍法會議ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送附) 第一讀會

第五 海軍軍法會議法案(政府提出、貴族院送附) 第一讀會

第六 陸海軍軍法會議私訴裁判強制執行法廢止法律案(政府提出、貴族院送附) 第一讀會

第七 刑事交渉法案(政府提出、貴族院送附) 第一讀會

第八 陸軍法務官及海軍法務官ノ恩給及遺族扶助ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送附) 第一讀會

陸軍法務官及海軍法務官ノ恩給及遺族扶助ニ關スル法律案

陸軍法務官又ハ海軍法務官退職シタルトキハ官吏恩給及官吏遺族扶助ニ關スル法令ノ適用ニ付テハ退官シタルモノト看做シ退職者現職ニ復シタルトキハ再任官シタルモノト看做ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
明治二十九年法律第三號ハ之ヲ廢止ス

第九 明治三十五年法律第二十九號中改正法律案(政府提出、貴族院送附) 第一讀會

明治三十五年法律第二十九號中改正法律案
第一條乃至第三條中「陸軍警守」ヲ「陸軍警査」ニ改ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
從前ノ陸軍警守ハ明治三十五年法律第二十九號ノ適用ニ付テハ之ヲ陸軍警査ト看做ス

第十 明治四十四年法律第六十一號中改正法律案(政府提出、貴族院送附) 第一讀會

明治四十四年法律第六十一號中改正法律案
「陸軍警守」ヲ「陸軍警査」ニ改ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
從前ノ陸軍警守ハ明治四十四年法律第六十一號ノ適用ニ付テハ之ヲ陸軍警査ト看做ス

第十一 巡査看守退隱料及遺族扶助料中改正法律案(政府提出、貴族院送附) 第一讀會

巡査看守退隱料及遺族扶助料法中改正法律案
第二十六條及第二十八條中「陸軍警守」ヲ「陸軍警査」ニ改ム

第二十六條ノ二 巡査及判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ノ勤績年數ハ相互ニ之ヲ通算シ其ノ交互ノ轉職ハ第六條ノ規定ニ拘ラス之ヲ勤績ト看做ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第二十六條ノ二ノ改正規定ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス從前ノ陸軍警守及其ノ遺族ハ巡査看守退隱料及遺族扶助料法ノ適用ニ付テハ之ヲ陸軍警査及其ノ遺族ト看做ス

第十二 明治四十三年法律第三十號中改正法律案(政府提出、貴族院送附) 第一讀會

明治四十三年法律第三十號中改正法律案
「警部補又ハ巡査」ヲ「警部補、巡査又ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手」ニ、「巡査警部補」ヲ「巡査若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手警部補」ニ、「警部補巡査」ヲ「警部補巡査若ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手」ニ改ム

本法ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
「第一乃至第七ノ法案ハ二月三日官報號外貴族院議事速記錄附錄ニ掲載ノモノト同文ナルヲ以テ之ヲ略ス」

○武藤金吉君 是ヨリ豫算委員會ヲ開キタイト思ヒマスカヲ御許シテ願ヒマス

○議長(奧繁三郎君) 許可致シマス
○武藤金吉君 豫算委員ノ諸君ハ御參集ヲ願ヒマス

○議長(奧繁三郎君) 第一乃至第四ニ對シテ、山梨陸軍次官ヨリ辯明ガアリマス

〔政府委員山梨半造君登壇、拍手起ル〕

○政府委員(山梨半造君) 陸軍軍法會議法案ノ提出ノ理由ヲ先ヅ申上ゲマス、現行陸軍治罪法ハ明治二十一年ノ制定ニ係リマシテ、其規定ガ概シテ單簡ニ過ギマシテ、時勢ノ要求ニ伴ハザルモノガ頗ル多クアリマス、之ガ爲メニ夙ニ改正ノ議ガアツタ次第アリマス、仍テ陸軍ニ在リマシテハ、十數年前其改正ニ著手致シマシテ、大正三年ニ至テ其案ガ脱稿致シマシテ、仍テ陸海軍並ニ部外ノ人ト以テ此調査委員ヲ設ケマシテ、其調査委員ノ會議ニ於キマシテ數年審議ヲ致シテ、漸ク大正八年ニ至リマシテ、此陸軍軍法會議法案ガ脱稿致シタノアリマス、本案ノ現行陸軍治罪法ト異ニテ居ル主要ノ點ハ、現行法ニ無イ所ノ審判ノ公開、辯論、上奏等ノ制ヲ設ケタノアリマス、又現行陸軍治罪法ニ、豫審、公判、總テ長官ノ命ニ依リマシテ著手スル制ニナツテ居ルノヲ改メマシテ、本案ニハ檢察官ノ要求ト起訴トヲ以テ著手スルコトニ改正ヲ致シマシテ、其他裁判ノ獨立、保障及人權保護ニ關スル規定ヲ設ケテ、軍事ノ利益ト相反セザル限リ、裁判手續ヲ成ベク普通ノ刑事裁判ノ手續ト同ジヤウニサセヤウト致シマシテ、此改正案ヲ提出シタ次第アリマス、次ニ朝鮮、臺灣、關東軍軍法會議ノ法律案提出ニ就キマシテ理由ヲ申上ゲマス、此朝鮮、臺灣及關東州ニ於キマシテハ、特別ノ事情ニ鑑ミマシテ、陸軍軍法會議ノ適用上、特例ヲ設ケルノ必要ガアリマス、此三案ヲ提出シタ次第アリマス、共ニ御審議ノ上、御協賛アラシコトヲ切望スル次第アリマス(拍手起ル)

○議長(奧繁三郎君) 次ニ日程第五乃至第八ハ海軍大臣ヨリ説明ガアリマス、海軍大臣

〔國務大臣男爵加藤友三郎君登壇、拍手起ル〕

○國務大臣(男爵加藤友三郎君) 日程第五ノ海軍軍法會議法案ニ就キマシテハ、只今陸軍次官ガ陸軍軍法會議法案ニ就テ説明ヲ爲サレマシト、大體ニ於テ同様ノ意旨ニ於テ提案致シタ次第アリマス、日程第六ノ陸軍軍法會議私訴裁判強制執行法廢止法律案ハ、現行ノ陸軍治罪法ニ依リマス、官憲若クハ軍人ノ損害ニ關スル私訴ノ事柄ヲ、軍法會議ニ於テ審議致スコトニ相成シテ居ラデアリマス、今回軍法會議法案ヲ改正致シマスル結

果トシテ、是等私訴ニ關スル事ハ、軍法會議ニ於テハ致サ
ナイコトニ相成テ居ルノデアリマス、其爲ニ是レマデノ執
行法案ヲ廢止スルノ必要ヲ感ジマシテ、本案ヲ提案致シタ
次第デゾガイマス、日程第七ノ刑事交渉法案、裁軍法會
議ノ裁判權ニ屬シタル事件ト、普通裁判所ノ裁判權ニ屬
シタル事件トノ交渉ニ關スル事柄ガ、明治十八年太政官
令ヲ以テ發布サレテ居ルノデアリマス、此規定ニハ不備ノ點
ガ多クアリマス、今回軍法會議法案ヲ改正致シマスル機
會ニ於テ、其不備ノ點ヲ補ヒマシテ、本案ヲ提出致シタ
次第デアリマス、日程第八陸軍法務官及海軍法務官ノ恩
給及遺族扶助ニ關スル法律案、現行治罪法ニ於キマシテ
ハ主理ニ就テハ特別ノ分限令ガ設ケテゾガイマセヌ、一
般文官分限令ニ依テ制裁ヲ受ケテ居ルノデアリマス、今回
軍法會議法案ノ改正ニ就キマシテ、普通裁判官ト同様ニ、退
職ノ制ヲ設ケルコトニ相成テ居リマス、爲ニ是等主理ガ退
職等ヲ致シマシタ際ニ、恩給法ニ文官恩給法ヲ適用致シマ
ス必要ガアリマス、此規定ヲ提案致シタ次第デアリマス、
何卒是等ノ諸法案ニ就キマシテ、御審議ノ上御協賛アラン
コトヲ希望致シマス(拍手起ル)

○議長(與繁三郎君) 日程第九及第十、山梨陸軍次官
ヨリ説明ガアリマス—陸軍次官

〔政府委員山梨半造君登壇、拍手起ル〕
○政府委員(山梨半造君) 日程第九第十ノ兩案ノ提出
ニ就キマシテ説明ヲ申上デマス、陸軍治罪法ニアル所ノ陸
軍警守ニ相當スル所ノモノヲ、今回ノ陸軍ノ軍法會議法案
ニハ、陸軍警守ト稱スルコトニナク、デアリマス、隨テ陸軍
警守ノ爲メニ定メテアル所ノ在勤年加算等ニ就テノ規定
中ニ、陸軍警守トアルノハ總テ之ヲ陸軍警守ト改メル必要
ガ起テ、此兩案ヲ提出シタ次第デアリマス、是ハ自然ノ結
果デ出來タノデアリマシテ、極メテ簡單ナモノデアリマス、
ウカ御審議ノ上御協賛アランコトヲ切望シマス

○議長(與繁三郎君) 日程第十一及十二、床次内務大
臣ヨリ説明ガアリマス—内務大臣

〔國務大臣床次竹二郎君登壇、拍手起ル〕
○國務大臣(床次竹二郎君) 此兩案ハ警部補、ソレカラ
巡查、並ニ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手、互ニ相通算致シ
マシタ、退隱料遺族扶助料ヲ給與致シタイト云フ法案デ
ゾガイマス、ドウ宜シク—(拍手起ル)

○議長(與繁三郎君) 日程第十三、右各案ノ審査ヲ付
託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ニ致シマス

第十三 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員
ノ選舉
○岩崎勳君 日程第一乃至第十二ニ掲ゲタル十二案ヲ
一括シテ、委員ノ數ヲ特ニ二十八名トシ議長ニ於テ指名アラ
ンコトヲ望ミマス
〔贊成(贊成)ノ聲起ル〕
○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌ
カ

〔異議ナシ(異議ナシ)ノ聲起ル〕
○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ異議
ノ如ク決シマシタ、日程第十四乃至第十七ニ關聯セル議案
ナルニ依リ一括議題ニ致シマス—日程第十四及第十七
迄一括シテ其一讀會ヲ開キマス、高橋大藏大臣

第十四 日本勸業銀行及農工銀行ノ合併
ニ關スル法律案(政府提出)
第一讀會

日本勸業銀行及農工銀行ノ合併ニ關スル法
律案
第一條 農工銀行ハ日本勸業銀行ニ合併ヲ爲スコト
ヲ得

第二條 合併ニ因リテ消滅シタル農工銀行ノ農工債券
ハ之ヲ勸業債券ト看做ス

第三條 日本勸業銀行及農工銀行カ合併ノ決議ヲ爲
シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項ノ規定ニ依
リテ爲スヘキ催告ハ預金者、保護預金人並記名ノ勸
業債券及農工債券ノ所有者ニ對シテハ之ヲ爲スコト
ヲ要セス

第四條 日本勸業銀行及農工銀行カ合併ノ決議ヲ爲
シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間
ハ一月迄之ヲ下スコトヲ得合併ニ因ル株式併合ノ場
合ニ於テ商法第二百一十條ノ二但書ノ期間ニ付亦
同シ

第五條 日本勸業銀行ハ農工銀行ト合併ヲ爲シタル
トキハ當該農工銀行ノ本店及支店ノ所在地ニ支店
ヲ設クヘシ但シ日本勸業銀行ノ本店又ハ支店ノ所在
地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十五 日本勸業銀行法中改正法律案
第一讀會

日本勸業銀行法中改正法律案
第一條 日本勸業銀行法中左ノ通改正ス
第三條中二百圓ヲ五十圓ニ改ム
第五條ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ニ規定スルモノノ外農工銀行ノ存在セザル府縣
毎ニ地方參與二人以上ヲ置ク
第六條中「分掌ス」ヲ「分掌シ又ハ之ニ參與ス」ニ改メ同
條ニ左ノ一項ヲ加フ
地方參與ハ定款ノ定ムル所ニ依リ當該府縣内ニ於ケ
ル日本勸業銀行ノ業務ニ參與ス
第七條中「百株」ヲ「四百株三、五十株」ヲ「二百株三、
三十株」ヲ「二十株」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ
地方參與ハ當該府縣内ニ住所ヲ有シ百株以上ヲ所
有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ三箇年ト
ス但シ其ノ任期滿限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得
第八條中「理事」ヲ「日本勸業銀行ノ業務ヲ分掌スル理
事」ニ改ム
第十五條ニ左ノ一項ヲ加フ
農工銀行ノ存在セザル府縣内ニ於テ八十人以上ノ農
業者又ハ工業者申合セ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出
タルトキハ其ノ信用ノ確實ナルモノニ限リ五箇年以内
ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコト
ヲ得

第十五條ノ二 日本勸業銀行ハ割増金附勸業債券ノ
發行ニ依リテ得タル資金ハ田、畑、鹽田、山林、牧場、
養魚池又ハ漁業權ヲ抵當トスル貸付、第十五條各項
ノ貸付及農工債券ノ引受ノ外之ヲ使用スルコトヲ得
ス但シ大藏大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス
第三十一條ノ二但書ヲ左ノ如ク改ム
但シ定期預り金及第三十二條ノ二ニ依リ取扱ヒタル
金錢ニシテ運用ヲ許サントル公金預り金以外ノ預り
金ノ總額ハ拂込資本金額ヲ超過スルコトヲ得ス
第三十二條ニ左ノ一號ヲ加フ
四 公共團體ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト
同條ニ左ノ一項ヲ加フ
定期預り金ハ前項ノ外第十四條第二項ノ定期償還
貸付ニ之ヲ使用スルコトヲ得
第三十二條ノ二 日本勸業銀行ハ府縣郡市ノ爲ニ其
ノ金錢出納ノ取扱ヲ爲スコトヲ得
第五十三條ニ左ノ一項ヲ加フ
大藏大臣ハ農工銀行ノ存在セザル府縣ニ日本勸業
銀行地方監理官ヲ置キ當該府縣内ニ於ケル日本勸

右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
日本勸業銀行及農工銀行ノ合併ニ關スル法律案外三件 第一讀會

官報號外 大正十年三月六日 衆議院議事速記録第二十二號

五〇九

業銀行ノ業務ヲ監視セシム

第五十四條第一項及第二項中「日本勸業銀行監理官」ヲ「日本勸業銀行監理官及日本勸業銀行地方監理官」ニ改ム

第五十六條中「又ハ第十四條ノ二」ヲ「第十四條ノ二又ハ第十五條ノ二」ニ改ム

第十六 農工銀行法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

農工銀行法中改正法律案

農工銀行法中左ノ通改正ス

第七條ノ四 農工銀行ハ日本勸業銀行カ割増金附勸業債券ノ發行ニ依リテ得タル資金ヲ以テ引受ケタル

農工債券ニ依ル資金ヲ田、畑、鹽田、山林、牧場、養魚池又ハ漁業權ヲ抵當トスル貸付並第六條第三號

乃至第五號第七條ノ二及第七條ノ三ノ貸付ノ外使用スルコトヲ得ス但シ大藏大臣ノ認可ヲ得タルトキハ

此ノ限ニ在ラス

第四十六條中「及第七條」ヲ「第七條又ハ第七條ノ四」ニ改ム

第十七 農工銀行補助法中改正法律案

(政府提出)

第一讀會

農工銀行補助法中改正法律案

農工銀行補助法中左ノ通改正ス

第八條 前二條ノ規定ハ日本勸業銀行及農工銀行ノ合併ニ因リ府縣カ此ノ法律ニ依リ引受ケタル農工銀行ノ株式ニ對シ交付ヲ受ケタル日本勸業銀行ノ株式ニ付之ヲ準用ス

前項ノ合併ノ場合ニ於テ生シタル端數株ノ代金ハ之ヲ府縣ノ基本財産ニ繰入ルヘシ

〔國務大臣子爵高橋是清君登壇、拍手起ル〕
○國務大臣(子爵高橋是清君) 只今上程ニナリマシタル四案、即チ日本勸業銀行及農工銀行ノ合併ニ關シマシタル法律案、日本勸業銀行法中改正法律案、農工銀行法中改正法律案、及農工銀行補助法中改正法律案ニ就キマシテ、一括シテ之ガ説明ヲ致シマス、近時農工銀行中、農工債券ノ發行ガ容易ナラザル等ノ爲メ、資金ヲ得ルノニ困難ヲ致シマス、隨テ其貸付ノ普及ヲ圖リマシマス、上ニ不便ガアルノデアリマス、サウシテソレガ爲メニ日本勸業銀行ニ合併ヲ致シタイト希望スルモノガ、少カラズ現レテ參リマシタ、惟フニ勸業銀行ト農工銀行トガ二ツニ分レマシテ、即チ中央ト地方トニ各、其分野ヲ明カニシテ活動ヲ致シマスルコトハ、

兩銀行設立當初ノ事ニ屬シテ居リマシテ、爾來今ヤ二十年ヲ經テ來マシタ、當初斯ノ如キ勸業兩銀行ノ分野ヲ中央ト地方ニ分ケマシタノハ、中央集權ノ機關ガクデハ、地方ノ事情ニ精通ヲ缺ク、隨テ地方ノ農民ノ需要ニ應ジテ資本ヲ融通スルコトガ善ク行カナイト云フノガ、一ノ主ナル理由デアリタノデアリマス、然ルニ今日テハ設立以來二十年ノ星霜ヲ經マシテ、勸業銀行モ地方ノ事情ニハ十分通ズルヤウニナリマシテ、御承知ノ通り地方ニ於テハ、農工銀行ト勸業銀行トノ競リ合フヤウナ狀況ニナリマシテ、互ニ競争ヲ避クルト云フ必要ヲ感ジテ或ル條件ノ下ニ活動シテ居ルヤウナ狀況ニナテ來タノデアリマス、斯様ナ次第デ、最初中央集權ノ機關デアハ、地方ノ事情ニ精通シナイト云フ懸念ハ最早無クナテシマシタノデ、而シテ今日テハ農工銀行ノ中ニ於テ貸付資金ヲ得ルコトガ甚ダ困難デアアル云フ形勢ニナリマシタカラシテ、今日テハ斯様ナ貸付資金ノ調査ヲ困難トスルヤウナ農工銀行ガ勸業銀行ニ對シテ任意ノ合併ヲ致シタイト云フ希望ガアルモノニ對シテハ、ソレヲ合併ガセテ、サウシテ其勸業銀行ノ強大ナル資金ヲ以テ、低利且ツ長期ノ貸付ヲ努ムルコトニナリマシタナレバ、地方ノ農工金融ノ圓滑ナラシムル上ニ於テ、裨益スル所大ナルコト、考ヘルノデアアル、然ラバ濟ニ新タニ兩者ノ合併ヲ爲シ得ルノ途ヲ開クコトハ、我國經濟界ノ趨勢ニ照シテ、最も必要ナル事ト信ズルノデアリマス、而モ其合併ノ方法ハ、之ヲ強制ト致シマセズ、任意ト致シテ、農工銀行ニシテ自ラ十分ナル活動ヲ爲シ得ルモノハ、從來ノ通り矢張之ヲ存續セシメルノデアリマス、或ハ合併ノ結果トシテ資金ガ中央ニ集中シテ、却テ地方ニ資金ノ普及ヲ妨ゲルト云フヤウナ説モアリマス、ケレドモ、此懸念ニ對シテハ、先ヅ農工銀行ノ合併シタル場合ニ於キマシテハ、勸業銀行ヲシテ其合併シタル農工銀行ノ舊營業所ノ所在地ニ於テ、必ズ勸業銀行ノ支店ヲ設置スルノ義務ヲ負ハセマス、尙ホ日本勸業銀行ニハ左様ナ場合ニ於テ、地方參與ヲ置イテ府縣ニ於ケル貸付業務ニ參與セシメル、又政府ト致シマシテハ、地方管理者ヲ置キマシテ、而シテ勸業銀行支店ノ貸付金ノ分布公平ヲ期セシムル等、諸般ノ施設ニ周到ナル注意ヲ拂フノ外ニ、更ニ割増金付勸業債券ノ發行ニ依リテ得マシタ所ノ資金ニ就テハ、特ニ低利ヲ以テ主トシテ農業貸付、並ニ工業團體、各種組合、及十人以上連帶ノ諸貸付ニ向ケシメテ、以テ地方ニ於ケル貸付資金ノ潤澤ト普及トヲ圖ラントスルノデアリマス、斯クテ合併ヲ好マザル所ノ農工銀行ニ對シテハ、勸業銀行、農工銀行、此兩銀行ノ間ニ現在存在致シマス所ノ貸付金額ノ制限、即チ勸業銀行ハ農工銀行ノ在ル地ニ於テハ、一口三千圓以下ノ貸

付ニハ手ヲ出サスト云フ協定ニナテ居ル、左様ナ制限、ソレカラ農工債券ノ引受ニ關シマスル協定、即チ割増金ヲ以テ勸業銀行ガ集メタル所ノ金ハ、其半ヲ割イテ地方ノ農工銀行ノ債券ニ應ズルト云フコトニナテ居ル、左様ナ協定ノ如キハ、矢張依然トシテ從來ノ如ク之ヲ存續シテ行ク、サウシテ日本勸業銀行ガ其強大ナル力ヲ以テ、農工銀行ヲ壓迫スルト云フヤウナ説モアリマスガ、左様ナ事ハ必ズ起サシメナイノデアアル、只ダ農工債券ニ依ル資金ガ、割増金附ノ勸業債券ノ資金ニ依リテ應ゼラレマシタル場合ニ於テノミ、勸業銀行ト同様ニ、其貸付ハ專ラ農業方面ニ貸付ケルト云フ、或ハ團體ニ貸付ケルト云フ勸業銀行ト同様ナ金ノ使途ニ對シテ貸付ケルト云フコトニ致シテ置クルノデアリマス、其他合併ノ途ヲ開クニ關聯致シマシテ、農銀ノ株主タル府縣ガ新タニ勸銀ノ株主トナル場合ニ於テモ、依然其利權ヲ許サザルコト、致シタイトデアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協贊アラントヲ望ミマス(拍手起ル)

○議長(奧繁三郎君) 日程第十八右各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ニ供シマス

第十八 右各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉

○岩崎勳君 日程第十四乃至第十七ニ係リタル四條ヲ一括シテ、政府提出貯蓄銀行法案外一件ヲ委員ニ併セテ付託セラレントヲ望ミマス

○議長(奧繁三郎君) 岩崎君ノ動議ハ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(奧繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○熊谷直太君 大正八年度豫備金支出事後承諾外七件ノ委員會ヲ開キタイト思ヒマス、御許ヲ願ヒマス

○議長(奧繁三郎君) 熊谷君ヨリ請求ノ委員會開會ノ件ハ、之ヲ許可致シマス

○熊谷直太君 委員ノ方ハ御參集ヲ願ヒマス

○議長(奧繁三郎君) 日程第十九、戶籍法中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長岩本平藏君

第十九 戶籍法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 戶籍法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月二日

戶籍法中改正法律案委員長

岩本 平藏

衆議院議長與繁三郎殿

〔岩本平藏君登壇、拍手起ル〕

〔「簡單ニ願ヒマス」大ニ緩リヤリ給ヘ」ト呼フ者アリ〕

○岩本平藏君 只今日程ニ上リマシタル戶籍法ノ委員會ノ經過、及結果ヲ報告致シマス、此法律案ハ曩ニ提出ノ時ニ政府委員ヨリ説明アリマシタル如ク、朝鮮及臺灣人ト内地人トノ間ニ於ケル結婚、養子、縁組等ノ手續ハ、從來共通法第三條ノ實施ヲ保留サレテ居リマシタルガ爲メニ、此取扱ガ出來ナカッタノデアリマス、今回此共通法第三條ノ實施ニ伴ヒマシテ此戶籍法ノ四十二條ヲ斯ノ如ク改メル必要ガ起リマシタノデ提出シタコトハ、諸君ノ御存知ノ通りデアリマス、サウシテ委員會ハ唯ダ一回ノ委員會ノミデヤリマシテ、質問モ頗ル輕微ナル一二ノ質問ガアリマシタル、總テ原案ヲ贊成致シマシテ可決致シタノデアリマス、尙ホ此條文中ニ少シ文字ノ落チテ居ル所ガアリマシタコトヲ、政府委員ヨリ正誤ガアリマシタ、即チ此第一行ノ「三十四條及」ト云フ其下ニ片假名「ヒ」ノ字ガ附クノデス、第二行ノ下ノ「内地ノ家ヲ去リタル者及」此所ニモ矢張片假名「ヒ」ガ附クノデアリマス、第三條ノ「戶籍ノ記載ノ手續ニ付」此所ニ又片假名「キ」ノ字ガ加ハルノデアリマス、是ハ即チ印刷所ノ誤植デアリマスカラ、何卒諸君ノ御手許ニ於テ御訂正下サルコトニ御願致シマス、以上ヲ以テ此委員會ノ經過ノ御報告ヲ致シマス(拍手起ル)

○議長(與繁三郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス

〔「二讀會ヲ開クニ異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(與繁三郎君) 第二讀會ヲ開クニ御異議ナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○岩崎勳君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決確定セラレント望ミマス

〔贊成「贊成」ト呼フ者アリ〕

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ勳議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ第二讀會ヲ開キマス

戶籍法中改正法律案 第二讀會(確定議)

〔「異議ナシ」異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ハ委員長報告通り、可決確定致シマシタ、日程第二十次大正九年法律第五十三號中改正法律案ノ第一讀會ノ續リ開キマス、委員長三善清之君

第二十二 大正九年法律第五十三號中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)(確定議)

報告書

一大正九年法律第五十三號中改正法律案(政府提出) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月二日

大正九年法律第五十三號 中改正法律案委員長

三善 清之

衆議院議長與繁三郎殿

〔三善清之君登壇、拍手起ル〕

○三善清之君 委員會ノ經過ヲ報告致シマス、御承知ノ如ク朝鮮ニ於ケル關稅法及關稅定率法ハ、昨年ノ八月三十一日迄ハ併合以前ノ稅率ヲ用井マシタノデアリマス、御承知ノ通りニ併合當時ノ各國トノ協和ノ結果、十箇年ノ期間ヲ存ジマシテ、關稅等ノ改正ヲ行フコトハ出來ナカッタノデアリマス、而シテ昨年ノ八月一日—九月一日以後ガ全部朝鮮ニ於ケル關稅等ノ改正ガ、内地ノ關稅及關稅定率法ニ依リテ、一般ノ外國輸入品等ニ對シテ、定率ヲ附ケルコトニ相成リマシタコトデアリマス、(其際ニ特殊ノ事情ニ依リマス所ノ物品ニ對シテハ、特別法令ヲ置イタノデアリマス、ソレガ即チ大正九年法律第五十三號デアリマス、其第五十三號ニ特殊ノ稅率ヲ設ケマシタ種類ノモノガ、馬及綿羊、鹽、煙草、香油、「コークス」、是等フモノニ對シテ特別ノ稅率ヲ設ケタノデアリマス、中ニハ無稅ノ物デアリマス、多クノ物デアリマス、價若クハ一斤ニ就テ四割、是ハ内地ノ關稅定率法ニ依リマシヨリハ餘程低イノデアリマス、斯様ノ特別ノ法令ヲ設ケテ置キマシタノデアリマス、而シテ尙ホ今後モ此法律ヲ存置致シマスルノデアリマス、其中デ煙草ダケヲ此際改メタノデアリマス、煙草ノ種類ハ外國輸入ノ品デアリマシテ、葉煙草、葉卷煙草、紙卷煙草、總テ外國カラ參リマス所ノ煙草ニ對シマシテ、現在ノ定率ハ一割以上四割位迄ニナツテ居ルノ

第二十一 特許法改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一特許法改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月四日

特許法改正法律案委員長

島田 俊雄

衆議院議長與繁三郎殿

〔小字及——ハ委員會修正〕

特許法改正法律案中左ノ通修正ス 第十條 特許出願力特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲シ

タルモノナルニ因リ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ其ノ特許出願ノ後ニ爲シタル正當權利者ノ出願ハ其ノ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル特許出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ六十日ヲ出願公告アリタル場合ニ於テハ出願公告ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタル後ノ出願ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 特許カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ認シタル者ノ受ケタルモノナルニ因リ其ノ特許ヲ無効トスル審決確定シ又ハ判決アリタル場合ニ於テ其ノ特許ノ出願ノ後ニ爲シタル正當權利者ノ出願ハ其ノ無効ト爲リタル特許ノ出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ其ノ特許ノ出願公告ノ日ヨリ五年ヲ經過シタル後ノ出願又ハ其ノ審決確定シ若ハ判決アリタル日ヨリ後ノ出願ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シ爲シタル發明ニ付テハ性質上使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ノ業務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル行爲カ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ任務ニ屬スル場合ノモノヲ除クノ外豫メ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ヲシテ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ヲ承繼セシムルコトヲ定メタル契約又ハ勤務規程ノ條項ハ之ヲ無効トス

使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ハ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シ爲シタル發明ニシテ性質上使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ノ業務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル行爲カ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ任務ニ屬スル場合ノモノニ付其ノ被用者、法人ノ役員若ハ公務員カ特許ヲ受ケタルトキ又ハ其ノ者ノ特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル者カ特許ヲ受ケタルトキハ其ノ發明ニ付實施權ヲ有ス

被用者、法人ノ役員又ハ公務員ハ前項ノ發明ニ付テノ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ヲ豫メ定メタル契約又ハ勤務規程ニ依リ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ヲシテ承繼セシメタル場合ニ於テ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス前項ノ規定ニ依リ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者カ其ノ發明ヲ實施スル場合亦同シ

使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ニ於テ既ニ支拂ヒタル報酬アルトキハ裁判所ハ前項ノ補償金ヲ定ムルニ付之ヲ斟酌スルコトヲ得

本條ニ於テ法人ノ役員ト稱スルハ法人ノ業務ヲ執行スル役員ヲ謂ヒ公務員ト稱スルハ刑法第七條第一項ノ公務員ヲ謂フ

第十九條 特許局長ニ於テ特許ニ關スル代理人ヲ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得

特許局長。又ハ審判長ニ於テ當事者、參加人若ハ特許異議申立人又ハ其ノ代理人カ手續又ハ演述ヲ爲スノ能力ナシト認ムルトキハ辦理士ヲ以テ代理セシムヘキコトヲ命スルコトヲ得

前二項ニ規定スル命令アリタル後第一項ノ代理人又ハ前項ノ當事者、參加人、特許異議申立人若ハ代理人ノ特許局ニ對シ爲シタル行爲ハ之ヲ無効ト爲スコトヲ得

第二十三條 特許局長ハ外國又ハ遠隔若ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲テ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ特許局ニ對シ手續ヲ爲スヘキ法定ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第二十四條 出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シタル者之ニ關スル爾後ノ行爲ニ付指定ノ期間ヲ懈怠シタルトキ又ハ登錄ヲ受クル際納付スヘキ特許料ノ納付ヲ怠リタルトキハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外特許局長ハ其ノ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ無効ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ無効ト爲シタル場合ニ於テ其ノ期間ノ懈怠カ宥恕スヘキ障礙ニ因ルモノト認ムルトキハ其ノ障礙ノ止ミタル日ヨリ十四日以内ニシテ其ノ期間滿了後一年以内ノ請求ニ依リ特許局長ハ懈怠ノ結果ヲ免レシムルコトヲ得

第二十五條 天災其ノ他避クヘカサル事變ニ因リ法定ノ期間ヲ懈怠シタル場合ニ於テ其ノ障礙ノ止ミタル日ヨリ十四日以内ニシテ其ノ期間滿了後一年以内ノ請求ニ依リ特許局長。又ハ審判長ハ懈怠ノ結果ヲ免レシムルコトヲ得但シ第七十四條ニ規定スル特許異議ノ申立期間ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 特許ニ關シ證明、特許證ノ複本、書類ノ謄

本若ハ圖面ノ調製ヲ求メ又ハ書類ノ閱覽若ハ謄寫ヲ爲サムトスル者ハ特許局長ニ之ヲ申請スルコトヲ得但シ特許局長ニ於テ秘密ヲ要スト認ムルモノニ付テハ之ヲ許可セス

第三十六條 特許權ノ效力ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ及ハス

一 研究又ハ試驗ノ爲ニスル特許發明ノ實施

二 單ニ帝國内ヲ通過スルニ過キサル運輸具又ハ其ノ裝置

三 特許出願ノ際ヨリ帝國内ニ在ル物又ハ第一號ノ實施ニ依リ製作シタル物

第四十一條 特許アリタル後ニ於テ引續キ三年以上正當ノ理由ナクシテ其ノ發明カ帝國内ニ適當ニ實施セラレザル場合ニ於テ公益上必要アルトキハ特許局長ハ利害關係人ノ請求ニ依リ其ノ實施權ヲ許與シ若ハ其ノ特許ヲ取消シ又ハ職權ヲ以テ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

特許權者又ハ請求人ハ前項ノ規定ニ依ル實施權許與若ハ特許取消ノ處分又ハ前項ノ請求ノ却下ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ實施權ヲ許與スル場合ニ於テハ特許局長ハ補償金ニ付テモ亦之カ決定ヲ爲スヘシ

第四十二條 前條ノ規定ニ依リ實施權ヲ取得シタル者適當ニ其ノ特許發明ヲ實施セサル場合ニ於テハ特許局長ハ利害關係人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ實施權ヲ取消スコトヲ得

第六十條 特許カ取消サレ若ハ無効ト爲リ又ハ特許權カ消滅シタル場合ニ於テ追加ノ特許權アルトキハ其ノ追加ノ特許權ハ獨立ノ特許權ト爲ル第六十九條第二項ノ規定ニ依リ特許權カ消滅シタルトキハ同條第一項ニ規定スル追納期間ノ滿了ノ時獨立ノ特許權ト爲ル

前項ノ場合ニ於テ獨立ノ特許權ト爲リタルモノニ係ル追加ノ特許權アルトキハ其ノ追加ノ特許權ハ獨立ト爲リタル特許權ノ追加ノ特許權ト爲ル

第六十條 特許カ取消サレ若ハ無効ト爲リ又ハ特許權カ消滅シタル場合ニ於テ追加ノ特許權アルトキハ其ノ追加ノ特許權ハ獨立ノ特許權ト爲ル第六十九條第二項ノ規定ニ依リ特許權カ消滅シタルトキハ同條第一項ニ規定スル追納期間ノ滿了ノ時獨立ノ特許權ト爲ル

前項ノ場合ニ於テ獨立ノ特許權ト爲リタルモノニ係ル追加ノ特許權アルトキハ其ノ追加ノ特許權ハ獨立ト爲リタル特許權ノ追加ノ特許權ト爲ル

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月四日

意匠法改正法律案委員長

島田 俊雄

衆議院議長與繁三郎殿

(小字及一ハ委員會修正)

意匠法改正法律案中左ノ通修正ス

第二十四條 査定又ハ審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ査定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨ

リ六十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得但シ前條ノ規定ニ依ル補償金額ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 本法施行ノ際現ニ繫屬スル意匠登録ノ出願ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル

本法施行前送達ヲ受ケタル審決ニ對スル不服申立ノ期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル

報告書

一商標法改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月四日

商標法改正法律案委員長

島田 俊雄

衆議院議長與繁三郎殿

(小字及一ハ委員會修正)

商標法改正法律案中左ノ通修正ス

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ特許局長ハ利害關係人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ商標ノ登録ヲ取消スコトヲ得

一 商標權者正當ノ理由ナクシテ帝國内ニ於テ登録ノ日ヨリ一年間其ノ商標ヲ使用セザリシトキ又ハ引續キ三年間其ノ商標ノ使用ヲ中止シタルトキ但シ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品中其ノ一ニ使用シ又ハ聯合ノ商標中其ノ一ヲ使用シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 商標權ノ移轉アリタル場合ニ於テ其ノ相續ニ依

ルモノヲ除クノ外移轉アリタル日ヨリ一年以内ニ商標權移轉ノ登録ヲ申請セザルトキ

外國ノ登録商標トシテ登録ヲ受ケタル商標ニ付テハ前項第一號ノ規定ヲ適用セス

商標權者又ハ請求人ハ第一項ノ規定ニ依リ登録取消ノ處分又ハ第一項ノ請求ノ却下ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二十二條 審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ掲ケル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

○第十四條、又ハ第三十一條

一 第十五條ノ規定ニ依ル商標ノ登録ノ取消

二 第十六條ノ規定ニ依ル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録ノ無効

三 商標權ノ範圍ノ確認

前項第一號ノ取消ノ審判又ハ第二號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第二條第一項第五號第八號乃至第十號第三條若ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號若ハ第二項第二號ニ該當ストノ理由ニ依ル無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第三號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條 前條ノ規定ニ依リ團體標章ノ登録ヲ受ケムトスル法人ハ其ノ定款ニ於テ其ノ團體標章ノ使用ニ關スル事項ヲ定メ特許局長ノ認可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更スル場合亦同シ

第三十條 第二十七條ノ法人ノ合併又ハ分割ノ場合ニ於テ一ノ法人カ他ノ法人ニ團體標章ノ登録出願ヨリ生シタル權利又ハ團體標章權ヲ移轉セムトスルキハ特許局長ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第三十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ特許局長ハ利害關係人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ團體標章ノ登録ヲ取消スコトヲ得

一 法人カ團體員ヲシテ第二十八條又ハ前條ノ規定ニ依リ特許局長ノ認可ヲ受ケタル定款ノ規定ニ違反シテ團體標章ヲ使用セシメ又ハ其ノ使用ヲ放任シタルトキ

二 法人カ團體員ニ非サル者ヲシテ團體標章ヲ使用セシメ又ハ團體員ニ非サル者ノ使用ヲ放任シタルトキ

第十四條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前

第一項ノ規定ニ依リ團體標章ノ登録ヲ取消サレタル法人ハ取消アリタル日ヨリ五年間同一又ハ類似ノ商品ニ付同一又ハ類似ノ團體標章ノ登録ヲ受ケタルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ第十六條及第二十二條ノ規定ヲ準用ス

第四十一條 本法施行ノ際現ニ繫屬スル商標若ハ商標權存續期間更新ノ登録出願又ハ商標登録ノ取消ニ關スル事項ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル

本法施行前送達ヲ受ケタル審決ニ對スル不服申立ノ期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル

報告書

一 辨理士法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月四日

辨理士法案委員長

島田 俊雄

衆議院議長與繁三郎殿

(小字及一ハ委員會修正)

辨理士法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

辨理士法

第一條 辨理士ハ特許ノ實用新案、意匠又ハ商標ニ關シ特許局ニ對シ爲スヘキ事項ノ代理ヲ爲スコトヲ業トスルモノトス

第二條 左ノ條件ヲ具フル者ハ辨理士タル資格ヲ有ス

一 帝國臣民又ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依リ外國ノ國籍ヲ有スル者ニシテ私法上ノ能力者タルコト

二 帝國内ニ住所ヲ有スルコト

三 辨理士試験ニ合格シタルコト

辨理士試験ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條第一項第三號ニ規定スル條件ヲ要セスシテ辨理士タル資格ヲ有ス

一 辯護士法ニ依リ辯護士タル資格ヲ有スル者

二 高等試験ノ行政科試験若ハ司法科試験又ハ判事檢事登用試験ニ合格シタル者

170

三 特許局ニ於テ高等官ニ在職シテ二年以上審判

又ハ 若ハ審査ノ事務ニ從事シタル者又ハ判任以上ノ官
ニ在職シテ五年以上審査ノ事務ニ從事シタル者

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ 辨理士試験委員ノ銜
ニ依リ第二條第一項第三號ニ規定スル條件ヲ要セスシテ辨
理士タル資格ヲ有ス
一 學位ヲ有スル者
二 帝國大學ノ學部又ハ之ト學科程度同等以上ト認ムル内
外國ノ學校ニ於テ定規ノ課業ヲ卒ヘタル者
三 特許局ニ於テ判任以上ノ官ニ在職シテ五年以上審査ノ
事務ニ從事シタル者

第五條 左ニ掲クル者ハ 辨理士タルコトヲ得ス
一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ六年未滿ノ
懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ
終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ起算シ三
年ヲ經過シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

二 前號ニ該當スル者ヲ除クノ外第二十一條、特許
法第二百二十九條、第三百三十條、第三百三十三條若ハ
第三百三十五條、實用新案法第二十七條、第二十
八條、第三十一條若ハ第三十三條、意匠法第二十
十六條、第二十七條、第三十條若ハ第三十二條
又ハ商標法第三十四條、第三十五條若ハ第三十
八條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行
ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ起算シ
三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者
又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
四 業務停止ノ期間中業務ヲ廢止シ未タ其ノ期間
ノ經過サセル者又ハ業務禁止ノ處分アリタル日ヨ
リ起算シ三年ヲ經過セサル者

第六條 特許局ニ 辨理士登錄簿ヲ備ヘ 辨理士ニ關ス
ル事項ヲ登錄ス
辨理士タラントスル者ハ 辨理士登錄簿ニ登錄ヲ受ク
ルコトヲ要ス
辨理士ノ登錄ニ關スル事項ハ 命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 辨理士ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ 登錄料トシ
テ二十圓ヲ納付スヘシ
第八條 辨理士ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事件ニ付
其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

一 相手方ノ代理人トシテ取扱ヒタル事件
二 裁判所又ハ特許局ニ在職中取扱ヒタル事件

第九條 辨理士ハ特許、實用新案、意匠又ハ商標ニ關
スル事項ニ付裁判所ニ於テ本人ト共ニ出頭シテ本人
ノ爲演述ヲ爲スコトヲ得其ノ演述ハ本人即時ニ之ヲ
取消シ又ハ更正サセルトキニ限り本人自ラ之ヲ爲シタ
ルモノト看做ス
前項ノ規定ニ依リ帝國臣民ニ非サル辨理士出頭シテ
演述ヲ爲サムトスルトキハ裁判所ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 辨理士會ハ支部ヲ設クルコトヲ得
第十一條 辨理士會ハ農商務大臣之ヲ監督ス
第十二條 辨理士會ハ農商務大臣之ヲ監督ス
第十三條 辨理士會ハ會則ヲ設ケ役員ニ關スル事項、
會議ニ關スル事項辨理士ノ風紀保持ニ關スル事項、
謝金及手数料ニ關スル事項其ノ他會務ノ處理ニ必
要ナル事項ヲ規定スヘシ

第十四條 辨理士會ノ設立ノ手續、機關ノ組織及監督
ニ關シテハ 勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十五條 辨理士ハ 辨理士會ニ加入シタル後ニ非サル
ハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス
第十六條 辨理士本法又ハ 辨理士會ノ會則ニ違反ス
ル行爲アルトキハ 農商務大臣ハ 辨理士懲戒委員會
ノ議決ニ依リ之ヲ懲戒スルコトヲ得
第十七條 辨理士懲戒委員會ニ關スル事項ハ 勅令ヲ以テ之ヲ
定ム

第十八條 辨理士ノ懲戒處分ハ左ノ四種トス
一 譴責
二 五百圓以下ノ過料
三 一年以内業務ノ停止
四 業務ノ禁止

第十九條 農商務大臣ハ前條ノ規定ニ依リ辨理士會
ノ申告ニ依リ又ハ職權ヲ以テ 辨理士懲戒委員會ヲ
招集ス
第二十條 過料ヲ完納セサルトキハ 特許局長ノ命令
ヲ以テ之ヲ執行ス
第二十一條 非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ
依リ執行ニ付之ヲ準用ス

第二十二條 辨理士又ハ 辨理士タルシ者故ナク其ノ
業務上知得タル發明者、考案者、特許出願者又ハ登
録出願者ノ發明、考案又ハ事業上ノ秘密ヲ漏泄シ又
ハ竊用シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下
ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十三條 本法施行ノ期日ハ 勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第二十四條 本法ノ適用ニ付テハ 明治十三年第三十
六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年以
上ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

第二十五條 第四條第一號ニ該當スル者ヲ除クノ外
舊特許法第九十二條、第九十三條若ハ第九十七條、
舊實用新案法第二十二條、第二十三條若ハ第二十
七條、舊意匠法第二十四條、第二十五條若ハ第二十
九條又ハ舊商標法第二十三條、第二十四條若ハ第
二十八條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者ハ 辨理士タ
ルコトヲ得ス但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除
ヲ得タル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限
ニ在ラス

第二十六條 本法施行ノ際現ニ特許辨理士タル資格
ヲ有スル者ハ 辨理士タル資格ヲ有ス
第二十七條 本法施行ノ際現ニ特許辨理士タル者ハ
辨理士ト看做ス

第九條 辨理士會ハ 辨理士ニ對シ懲戒ノ必要アリ
ト認メタルトキハ 特許局長ノ 勅令ヲ以テ 農商務大臣ニ
申告スヘシ

第十條 農商務大臣ハ前條ノ規定ニ依リ辨理士會
ノ申告ニ依リ又ハ職權ヲ以テ 辨理士懲戒委員會ヲ
招集ス

第十一條 過料ヲ完納セサルトキハ 特許局長ノ命令
ヲ以テ之ヲ執行ス

第十二條 非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ
依リ執行ニ付之ヲ準用ス

第十三條 辨理士又ハ 辨理士タルシ者故ナク其ノ
業務上知得タル發明者、考案者、特許出願者又ハ登
録出願者ノ發明、考案又ハ事業上ノ秘密ヲ漏泄シ又
ハ竊用シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下
ノ罰金ニ處ス

第十四條 前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十五條 本法施行ノ期日ハ 勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 本法ノ適用ニ付テハ 明治十三年第三十
六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年以
上ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

第十七條 第四條第一號ニ該當スル者ヲ除クノ外
舊特許法第九十二條、第九十三條若ハ第九十七條、
舊實用新案法第二十二條、第二十三條若ハ第二十
七條、舊意匠法第二十四條、第二十五條若ハ第二十
九條又ハ舊商標法第二十三條、第二十四條若ハ第
二十八條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者ハ 辨理士タ
ルコトヲ得ス但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除
ヲ得タル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限
ニ在ラス

第十八條 本法施行ノ際現ニ特許辨理士タル資格
ヲ有スル者ハ 辨理士タル資格ヲ有ス
第十九條 本法施行ノ際現ニ特許辨理士タル者ハ
辨理士ト看做ス

第二十八條 特許辦理士登錄簿ハ、辦理士登錄簿ト看做ス

第三十條 第十五條ノ規定ハ、本法施行ノ日ヨリ起算シ六月間之ヲ適用セス

〔島田俊雄君登壇、拍手起ル〕

○島田俊雄君 特許法改正法律案外四件ノ委員會ノ經過、並ニ結果ヲ報告致シマス、特許法改正法律案外四件、即チ實用新案法、意匠法、商標法、並ニ辦理士法ハ、通計致シマシテ三百箇條ニ互ル長大ナル法律案デアリマス、恐ラク今期議會ニ提出セラレマシタル法律案中ノ、最大ニシテ又最も重要ナルモノ、一ツト考ヘルノデアリマス、而シテ其改正ノ趣意ハ、現行ノ特許制度ニ對シテ根本的ノ改正ヲ加ヘタ所ノモノデアリマシテ、其改正セラレマシタル所ノ箇所モ、極メテ多岐ニ互テ居ルノデアリマス、隨テ是等ノ諸點ニ就テ一々詳細ニ之ヲ述ブルト云フコトハ、非常ニ煩雜ニ互ルト考ヘマスガ、唯々其中ノ重要ナル點ニ就テハ、爰ニ報告ヲ申上グル必要ガアラウト考ヘルノデアリマス、此改正ノ法律案五ツヲ通ジマシテ、第一ニ最も注意ヲスベキ點ハ、特許ニ就テ從來最先發明ノ物ニ對シテ、許可スルト云フ主義ヲ執テ居リマシタノヲ改メテ、先願主義ニシタト云フ點デアリマス、即チ從來ハ一ツノ事柄ニ就テ二ツノ特許出願ノアリマシタ場合ニ、一番最初ニ發明シタ所ノモノヲ調ベテ、之ニ特許ヲスルト云フコトデアッタノデアル、之ヲ出願ノ前後ニ依テ特許ヲスルト云フコトニ改メタノデアリマシテ、即チ其趣意ハ、特許出願ニ關スル所ノ種々ナル紛争ヲ防グト云フ意味カラ來タモノデアリマシテ、是レ改正案ノ第一ノ眼目ノ一トスベキモノデアラウト思フノデアリマス、改正ノ第二ノ要點ハ、特許ト實用新案トノ區別ヲ明カニシタト云フコト、並ニ意匠ト云フ即チ意匠權ノ容體ヲ明カニシタト云フ點デアリマス、從來發明ト實用新案、此モノノ區別ニ就テハ、世間ニ往々誤解ガアリマシテ、實用新案ハ簡單ナル發明デアルカノ如クニ、了解セラレテ居ル向キガ多クデアリマス、又現行法ノ書方ニ就テ之ヲ見マシテモ、其點ニ就テ、聊カ疑ヲ挿ム所ノ餘地ガ存シテ居ラザラマシマス、此點ニ對シテ改正法ハ極メテ明瞭ナル定義ヲ下シマシテ即チ特許ハ自然力ヲ利用シ、之ヲ産業上ニ於テ效果ヲラシメル爲メニスル所ノ獨創ノ考案ニ對シテ、所謂發明ニ對スルモノデアッテ、實用新案ハ新規ノ考案ニ係ル所ノ物品ノ型アルト云フコトニ定義ヲ下シテ、其區域ヲ明確ニシタノデアリマス、意匠權ニ就テモ亦其通りデアリマシテ、從來ハ即チ現行法ニ於キマシテハ、意匠ノ權利ハ物ヲ離レテモ、或ハ存在スルカノ如ク

ニ解釋セラレタノデアリマスルガ、此點ニ對シテ、改正法ハ亦明瞭ナル定義ヲ與ヘテ、意匠ハ物ヲ離レテ存スルモノデアナイ、即チ法律ガ保護スル所ノ意匠權トシテ保護スル所ノモノハ、或物品ト關シテ意匠ヲ爲シタモノヲ保護スルノデアルト云フコトノ意味ヲ、明確ニ致シテ居ルノデアリマス、改正案ノ第三ノ注意スベキ要點ハ、特許法ニ商標ニ就テ所謂出願公告ノ制度ヲ採用シタト云フコトデアル、出願公告ノ制度ト云フハ、特許若クハ商標登錄ノ出願ノアリマシタ場合ニ、特許局ニ於テ審査ヲシテ、之ヲ拒絕スル所ノ理由ガ無イト見タ場合ニハ、所謂出願公告ト云フモノヲシテ、一般人ニ之ヲ示シテ、サウシテ一般世人ヲシテ、之ニ對シテ異議ノ申立ヲスル所ノ機會ヲ與ヘタモノデアリマシテ、學者ノ所謂公衆審査ト云フ制度デアリマス、是ハ申スマデモナク取扱ノ事務トシテハ、頗ル煩雜ニナルカモ知レマセヌケレドモ、ソレト同時ニ特許ヲ爲シ若クハ登錄出願ノ許可ヲ與ヘマシタ場合ハ、其後ニ於テテノ争ヲ防グト云フコトニ就テハ、非常ナル效力ノアル制度デアルト考ヘルノデアリマシテ、又此改正法律ノ一ツノ特徵デアルト謂ハネバナラヌノデアリマス、第四ノ點ハ、特許新案、意匠並ニ商標ニ就キマシテ之ヲ登錄セズ、若クハ特許セズト云フ意見ヲ特許局ニ於テ持テマス場合ニ於テ、先ヅ以テ其拒絕ノ理由ヲ出願人ニ示スノデアリマス、即チ拒絕ノ理由ヲ出願人ニ示シテ、是ノ事情ガアルカラ、或前ノ出願ハ之ヲ採用スルニ行カナイト云フコトヲ示ス、而シテ之ニ對シテ出願人ハ相當ノ意見ヲ申出ル所ノ機會ヲ與ヘルト同時ニ、他ノ方ニ於テハ現行制度ニ於テハ、同様ナル場合ニ再審査ヲ要求スル所ノ方法ヲ執テ居リマシタノヲ改メテ、直チニ報告審判ノ手續ヲ爲スコトガ出來ルト云フコトニ致シタノデアリマス、是ハ一面ニ於テハ出願人ヲシテ満足セシメ、自分ノ特許ハ如何ナル理由ニ依テ自分ノ登錄出願ハ如何ナル理由ニ依テ、拒絕セラレ、ノデアルカト云フコトヲ知ルコトガ出來ルト同様ニ、其拒絕ノ理由ニ對シテ、相當ナル意見ヲ述ベルコトガ出來テ、満足ヲ與ヘルコトガ出來ルト同時ニ、又他ノ一方ニ於テハ、從來ノ如ク一ツノ査定ニ對シテ再審査ヲ願ヒ、サウシテ多クノ時間ヲ費スコトヲ避ケテ、直チニ報告審判ノ手續ニ依テ、所謂特許ニ於ケル一種ノ裁判制度ニ依テ其願ノ許否ヲ決メルコトガ出來ルト云フ、事務簡捷ノ意味ニ於テモ利益ノアル制度デアリマシテ、此二ツハ相俟テ、又此改正法ノ一大特色ト謂フコトガ出來ルト思フノデアリマス、唯々此再審査要求ニ對スル報告審判ノ制度ニ對シテ、政府提出原案ハ其審査ノ期間ヲ六十日ト致シテ居ル、審判請求ノ期間ヲ六十日ト致シテ居リマシタノヲ、委員會ニ於テハ是ヲ三十

日ト改メタト云フコトハ、後ニ御話ヲスル積リデアリマスガ、兎ニ角改正案ニ於テハ、斯ノ如キ場合ニ於テ一方ニハ出願人ヲシテ異議ヲ申立ツルコトノ出來ル機會ヲ與ヘ、他ノ一方ニ於テハ再審査ト云フガ如キ煩雜ナル手續ヲ要セズシテ直チニ報告審判ヲ爲スコトノ出來ルコトニシタノハ、一大進歩ト謂ハナケレバナラヌト思フノデアリマス、改正法ノ第五ノ特徵トシテハ、爰ニ紹介スベキモノハ、特許新案及意匠ニ就テ、使用人即チ會社ト役人ハ或ハ契約ニ依テ人ノ仕事ヲシテ居ルト云フヤウナ場合ニ於テ、其使ハレル所ノ人ガ發明ヲ爲シタ場合ニ、此被用者ガ職務ヲ執行スル場合ニ於テ發明ヲシタ、此發明權ト云フモノニ就テ特許ヲ得ル、其權利ハ誰ニ歸屬スルカト云フコトニ就テ、明瞭ナル原則ヲ定メタト云フコトデアリマス、現行法ニ於テモ、固ヨリ此點ニ就テ規定ヲ爲シテ居ルノデアリマスガ、改正法ハ此點ニ就テ極メテ明カナル原則ヲ定メ、職務執行ノ場合ニ於テモ又契約ニ於テモ、人ノ仕事ヲスル場合ニ於テモ、其使ハレル所ノ人ガ發明ヲ爲シタ場合ニ於テハ、其發明ニ就テ特許ヲ受クルノ權利ハ、特約ノアル場合ノ外、原則トシテ使ハレル人間、即チ發明者自身ニ之ヲ與ヘルコトニナシテ居ルノデアリマス、唯々斯ノ如キ場合ニ於テ使用者即チ使フ所ノ人、主人側ノ利益ヲ保護スルト云フ意味ヲ以テ、其特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼スルコトノ出來ルヤウニ、又或場合ニ於テハ之ヲ實施スルコトノ出來ル所ノ權能ヲ使用者ノ側ニ認メタト云フ點ニ於テ、兩者ヲ公平ニ保護シテ居ルコトニナシテ居ルノデアリマシテ、此點モ亦改正法ノ特徵ノ一ツデアルト謂ハナケレバナラヌト思フノデアリマス、原案ハ使用者ガ被用者ノ發明ヲ實施スル場合ニ於テ、何等補償金ヲ與ヘルト云フ制度ヲ設ケテ居ナカッタノデアリマスガ、委員會ニ於テハ發明者タル所ノ被用者、用キラル、所ノ人ノ地位ヲ保護シ、其權利ヲ伸張スル意味ヲ以テ、使用者ガ被用者ノ發明權ヲ實施スル場合ニ於テハ、相當ノ補償金ヲ與ヘルト云フコトノ修正ヲ加ヘタト云フコトハ、是亦後ニ一言スル所デアリマス、以上ノ五ツノ點ハ改正法律ヲ通ジテ、最も特筆スベキ所ノ點デアルト思フノデアリマスガ、其他此商標ニ就テハ、商標ノ保護ノ範圍ヲ擴メテ、現行法ニ於テハ、唯々一ノ商品ニ對シテ保護ヲスルト云フコトニナシテ居リマス點ヲ、同一ノ類似ノ商品ニハ商標ノ保護ガ及ブコト、致シテ居ル點、又取引者ノ間或ハ購買者ノ間ニ於テ、極メテ明カニ普通ニ認メラル、ヤウニナシテ居ル所ノ商標ニ就テハ、假令後ニ商標登錄ヲ受クル者ガアリマシテモ、其前カラ之ヲ使用シテ居ル所ノ商標使用者ハ相當ノ保護ヲ受ケルコトガ出來ルヤウニシタ點デアル、又同業者間、又地方ニ於テ團體トシテ共通ノ商標ヲ使フ

場合ニ於テ、所謂團體商標ノ制度ヲ認め、團體トシテ一ツノ商標ヲ與ヘルコトガ出來ルヤウニシタ點、是ハ主トシテ商標法ニ關スルモノデアリマスガ、其等ノ點、並ニ特許、實用新案、及意匠ニ就テ、或場合ニ於テ所謂強制實施ノ制度ヲ認メタルコト、一ツノ他ノ人ノ發明シタル所ノ特許若クハ他ノ人ノ持テ居ル所ノ新案權、或他ノ人ノ登錄シテ居ル所ノ意匠ヲ用井ルニ非ザレバ、自己ノ特許若クハ新案、意匠ヲ實施スルコトハ出來ナイト云フ場合ニ於テ、強制的ニ他人ノ特許ノ新案、又ハ意匠ヲ利用スルコトノ出來ルコトノ途ヲ開イタ、強制實施ノ制度ノ如キ、並ニ特許或ハ新案其他ニ就テ、特許若クハ此登錄ノ無効ノ請求ヲ爲スコトニ就テ、一定ノ制限ヲ加ヘテ、或期間ヲ經過シタ場合ニ於テハ、無効ノ審判若クハ無効ノ訴ヲ起スト云フガ如キコトノ出來ナイヤウニスル、是ハ從來屢、アリマシタ所ノ、何年ガ後ニナテ思掛ケナイ時ニ、知ラナイ人カラ無効ノ審判ヲ要求セラルルト云フガ如キ事ガアツテ、權利ノ安定ヲ害スルヤウナコトガアル、所謂不正競争ト云フガ如キ弊害ヲ防グガ爲メニ、現行法ニ一ツノ救済法ヲ規定シタト云フガ如キ、尙又審判ノ制度ニ就テ、從來即チ現行法ニ在ラザリシ所ノ審判官ノ或身上ノ關係ニ就テ、排斥ノ制度ヲ設ケタト云フガ如キ、其外民事訴訟ノ手續ニ微ヒマシテ、或場合ニ於テ再審ノ制度ヲ設ケタルガ如キ、何レモ主要ナル改正トシテ、愛ニ紹介スル價值ノアルモノデアアルデアリマス、尙ホ最後ニ審理士ニ就テ之ヲ申シマスレバ、從來審理士ニ關スル規定ハ、審理士令トシテ、勅令ヲ以テ之ヲ定メラレタデアリマスガ、此形式ヲ改メマシテ、今回辯護士法其他ト同ジク、審理士ニ就テモ矢張法律ヲ以テ其資格要件ヲ定メルコトニ相成リマシテ、即チ從來勅令デアリマシタモノヲ改メテ、法律ヲ以テ之ヲ定メルコトニ致シタデアリマス、尙又實質上ノ關係カラ之ヲ申シマスレバ、審理士會ト云フモノヲ設ケルコトニ致シマシテ、此審理士會ハ之ヲ法人トシ、又隨テ此審理士ノ懲戒委員會ノ組織ヲ認メルト云フガ如キ、凡ソ此等ハ何レモ重要ナル改正ノ點デアリマシテ、此度ノ三百箇條ニ互ル所ノ改正法律案ニ合マレテ「居ル改正ノ、重大ナル點ト信ズルデアリマス、尙ホ此外ニ細カナル手續等ノ點ニ就テ、改正ヲセラレタモノモ澤山アルデアリマスガ、是ハ政府ヨリ委員ニ向テ供給致シテ居リマスル、改正理由書」ト云フ改正ノ要點ヲ記シテ居ル所ノモノガアリマスカラ、何レ許可ヲ得テ之ヲ官報ニ掲載ヲ願ヒマシテ、諸君ノ御覽ヲ願フコトニ致シマシテ、爰ニ說明スルコトヲ略シマス、是等ノ重要ナル改正ヲ含ム五ツノ法律案ニ就テ、委員會ハ前後五回之ヲ開キマシテ、詳細ニ質問應答ヲ致シマシタル結果、此案ニ對スル修

正ノ原案ヲ得ル爲メニ、小委員會ヲ設ケルコトニ相成リマシタ、即チ五名ノ小委員ヲ指名致シマシテ、此小委員ハ更ニ前後二回ト有ニ二時間ニ互リ秘密會ヲ開キマシテ、此會合ニ於テ又詳細討論ヲ致シマシタ結果一ツノ修正ノ原案ヲ得テ、之ヲ委員會ニ報告シタデアリマス、此修正案ニ對シマシテハ、唯ダ一箇所ニ就テ一員ノ反對ガアリマシタケレドモ、其他ノ部分ニ就テハ、全體即チ全會一致ヲ以テ之ニ贊成ヲシタト云フヤウナ次第デアリマス、而シテ政府モ亦此修正ニ對シテ同意ヲ表シテ居リマシテ、即チ今日諸君ノ手許ニ配付セラレテ居ル所ノ諸點ハ、修正案ノ要領デアリマス、此事ニ就テ是亦詳細ニ之ヲ申上ゲルト云フコトハ、長時間ヲ要シ煩雜ニ涉ルト考ヘマスガ、修正ノ重ナル點ニ關シマシテハ爰ニ報告セザルヲ得ナイト思フデアリマス、先ツ第一ニ委員會ニ於ケル修正ノ方針ニ就テ一言致シテ置キタイト思フデアリマス、修正ノ方針ハ二ツニ分ケテ之ヲ述ベナケレバナラス、一ツハ法文ノ字句ニ關スル修正ノ點デアリマス、一ツハ法文ノ内容ニ涉ル修正ノ點デアリマス、法文ノ字句ニ就テハ、委員會ハ成ベク原案ヲ保存スル所ノ主義ニ據ルデアリマス、即チ意味不明瞭、或ハ甚シク異ナル意義ニ解釋セラルベキヤウナ文字ガ用井ラレテ居リマスル場合ノ外、出來ルダケ原案ヲ保存シテ、之ニ向テ修正ヲ加ヘナイト云フ所ノ方針ヲ執ラタデアリマス、蓋シ原案即チ政府提出ノ原案ノ中ニ就テ、諸君ガ御覽下サイマシレバ直チニ相分リマス通り、隨分體裁ノ惡イ、或ハ法文トシレバ、如何デアラウカト云フヤウナ文字ヲ使ハレテ居ルモノモ澤山アルデアリマス、今其一一二ノ例ニ就テ爰ニ之ヲ紹介致シマスレバ、特許法ニ就テ之ヲ申シマスレバ同法案第十條「冒認」ト云フ文字ガ用井テアリマス、是ハ舊キ我國ノ法律ニハ用井ラレタ文字デアリマスケレドモ、舊刑法ノ時代ニ於テ用井ラレタ文字デアリマス、今日ハ普通ニ法文トシテハ用井ラレナイヤウナ文字デアリマス、又特許法第十二條ノ規定ヲ御覽ニ相成リマスルト云フト、「特許ノ權利ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス」ト云フ文字カ書イテアル、擔保ニ供スルト云フコトハ、通俗ニ申ス言葉デアリマスケレドモ、法文ノ用語トシテハ、甚ダ穩當デアルト云フコトハ出來ナイデアリマス、又政府ノ說明ニ依テモ擔保ニ供スルト云フコトハ、即チ實權ヲ設定スルト云フ意味ニ主ニ使テ居リマシテ、其意味ハ所謂不明瞭デアルト云ヘバ不明瞭デアルト云フコトガ出來ルデアリマス、其他第十六條ニ於テ「又ハ」ト云フ假名ヲ使テ居リマス、即チ何々ノ場合ニ「又ハ」ト云フ假名ヲ使テ居リマス、即チ新シキ文字ヲ使テ居ルデアリマス、政府ノ說明スル所

ニ依レバ、是ハ近頃法制局ガ流行スル用方デアルト言ハレマスケレドモ、吾々ガ法文ニ於テ從來言付ケテ居ル例デアリナクデアリマス、抑、法律文モ或ハ口語體ニナルト云フ形式ヲ、是等ノ點カラ示スノカモ知レマセヌケレドモ、兔ニ角法律ヲ以テ立テ居ル者ノ眼カラ見レバ、可笑シイ書方デアルト云フコトヲ謂ハナケレバナラス、其外特許法第十七條ヲ見マスルト云フト「特許局ニ屆出タルニ非ザレバ」之ヲ以テ特許局ニ對抗スルコトヲ得ス」ト云フコトガ書イテアル、是等モ甚ダ通常ニ謂フコトノ出來ナイ注文デアルト思フデアリマス、登記ヲシナケレバ第三者ニ對抗スルコトハ出來ナイト云フコトハ、能ク見ル所デアリマスケレドモ、特許局ニ屆出ラザレバ特許局ニ對抗スルコトガ出來ナイト云フコトハ、文章トシテハ決シテ歡迎スベキモノデアナカラウト思フデアリマス、其外特許證ノ所持者或ハ特許者ト云フ代リニ、「特許證主」ト云フガ如キ文字ヲ用井テ居ルトカ、或ハ工業法等ニ於テアルト云フコトデアリマスケレドモ、特許法第三百三十條ニ於テ「詐偽」ト云フ文字ノ偽ト云フ所「人」ト云フ字ヲ用井テ居ラザル、刑法其他ニ用井テ居ル「欺」ト云フ字「其」ト云フ屬「欠」ト云フ字ヲ用井テ居ラナイ、尙ホ特許法第四百十六條ノ書方ノ如キモ、廻リ譯イ書方デアツテ、普通ニ之ヲ讀ンダ者デハ、到底其意味ヲ一讀シテ了解スルコトガ出來ナイヤウナ書方ガアツテ、何レモ法文ト致シマシテハ、其體ヲ成シテ居ルト云フコトハ、出來難イモノガアルデアリマス、尙又法文ノ意味ニ關シテ之ヲ申シマスレバ、特許法第三十七條第三十八條ニ於テ「又ハ事業設備」ト云フ文字ガアルデアリマス、即チ第三十七條ニ「特許出願ノ際現ニ善意ニ帝國内ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者」ハ云々ト云フコトガアリマス、此事業設備ト云フ意味ハ、果シテ如何ナル意義デアルカ、政府委員ノ說明サル、所ニ依リ、又吾々ノ應答ニ於テ理解シテ居ル所ニ依リマス、當該發明ノ問題タル所ノ發明ノ實施ニ就テ、必要ナル設備ヲ爲シテ居ルト云フ意味ニ解釋スル外ハ無イデアリマス、併ナガラ此法文ニ現レテ居ル所ノ「又ハ事業設備」ト云フ文字ヲ、果シテ斯ノ如キ限定的ノ意味ニ解釋スルノガ至當デアルカドウカト云フコトハ、必ズシモ明瞭裁トカ體裁ト云フ問題デナクシテ、法文ノ意義ニ就テ、幾分カ疑ノ餘地ヲ容ル、コトノ出來ルヤウナ點デアラウト思フデアリマス、又商標法ニ就テ之ヲ御覽ニ相成リマス、商標法第二條ノ商標登錄ヲスベカラザルモノ、中デ、其第十一號ニ於テ「商品ノ誤認又ハ混同」云々ト云フ

コトが書イテアル、此商標ノ誤認又ハ混同ト云フコトハ、是レ亦政府委員ノ説明スル所ニ依リ、又吾々ノ理解シタ所ニ依リマスト云フト、商品ノ産地、或ハ品質、又ハ其商品製造者等ニ關シテ、商品ノ誤認、又ハ混同ヲ來タスト云フ意味ニ解釋スルノガ當然デアリマシテ、又左様解釋シナケレバナラヌデアリマスルガ、果シテ單純ニ此書下サレタル所ノ商品ノ誤認、又ハ混同云々ト云フコトヲ以テ、此意味ニ解釋スルコトガ出來ルカト云フコトハ、一應ノ辯明説明ヲ聽カナケレバ、理解スルコトガ出來難イ點デアルガ如ク思ハレルノデアリマス、凡ソ是等ハ法文ノ體裁又ハ其意義ヲ明瞭スルト云フ上カラ考ヘマスレバ、相當ノ修正ヲ加ヘテ、然ルベキ點デアルカモ知レマセト思フノデアリマスレドモ、先刻御報告申上テタ如ク、法文ノ字句ニ對シテハ、極端ナモノヲ除クノ外、成ベク原案ヲ尊重シ、原案ヲ保存スルト云フ意味ヲ以テ、委員會ハ是等ニ就テノレトノ論究ヲ致シマシタケレドモ、修正ヲ加ヘルコトハ致サナカクデアリマス、第二ニ法文ノ内容即チ規定ノ内容ニ對シテ、修正ニ關スル所ノ要領ヲ申シマスレバ、是ハ亦特許制度ニ關スル事柄ハ、言フマデモナク我國ノ法曹界、又實際當業者ノ間ニ於テ、既ニ多年ノ間ノ問題トナシテ居ル所デアリマシテ、非常ニ議論サレテ居ル所デアリマス、委員會ニ於テハ此點ニ就テモ深ク鑑ミル所ガアリマシテ、徒ラニ理論ニ拘泥シ、理窟ニ流レテ多クノ修正ヲ加ヘルト云フガ如キ事ハ成ベク之ヲ避ケ、必要已ムヲ得ザルモノ、又實際ニ於テ其效能極メテ著シキモノト認メタルモノ、或ハ明カニ法文ノ脱漏デアル、抜ケテ居ルト考ヘテ居ルヤウナモノニ就テハ、已ヲ得ズ修正ヲ加ヘル、又其等ノ修正ノ結果トシテ、法文整理ノ意味ヲ以テ爲サル、所ノ修正ニ就テハ、是ハ已ムヲ得ナイモノトシテ之ヲ爲スケレドモ、其以外ノモノニ就テハ、是亦成ベク原案ヲ尊重シテ、手ヲ觸レナイ所ノ方針ヲ執ツテデアリマス、即チ委員會ニ於テ斯ノ如キ方針ノ下ニ、又斯ノ如キ趣意ニ依リテ、此修正原案ヲ作成シテ少ナクサルト云フコトノ意味ヲ以テ、此修正原案ヲ作成シテ次第デアリマス、斯ノ如キ趣意ニ於テ修正シタ所ノ要點、即チ今日御配付シテアリマス所ノ修正案ニ就テ、特ニ注意ヲシテ戴キタイ點ニ就テ、茲ニ其一二ヲ申上ゲマスレバ、其第一ハ前ニ一言致シタ如ク、特許出願或ハ特許其他ニ關シテ抗告審判ヲ請求シ、又ハ裁判所ニ出訴シ、或ハ再審ノ要求ヲ爲スト云フ場合ニ於テ、其期間ヲ原案ハ六十日ト致シテ居リマス點ニ就テ、之ヲ改メテ三十日トシタ所ノ點ガ其一ツデアリマス、此點ニ就テハ日本特許辨理士會、其他實施ニ當ル所ノ人々ノ間ニ於テ、既ニ輿論トシテ認メラレテ居ルヤウナ點デアリマスカラ、私ハ爰ニ詳シク其理由ヲ述ベル必

要ハナイト思フノデアリマスガ、詰リ事務簡捷、從來我國ノ特許局ガ審査事務ニ就テ爲シテ居ル所ノ成績ニ鑑ミテ其事務簡捷ヲ圖リ、成ベク簡便ニ、早ク審査ノ事務ヲ了ラセルト云フ意味ヲ以テ、此六十日ノ期間ヲ三十日ニ短縮スル所ノ修正ヲ加ヘタ次第デアリマス、即チ特許法ニ就テ言ヘバ特許法第十條、又百十五條、百十六條、又百二十二條ノ如キ而シテ之ヲ準用シテ居ル所ノ新案法或ハ意匠法、商標法等ニ就テモ、各六十日ノ期間ヲ三十日ニ短縮スル所ノ修正ヲ可決シタノデアリマス、修正ノ第二ノ點ニ就テ特ニ御注意ヲ願ヒマス點ハ、前ニ申シマシタル出願公告制度、即チ公衆ノ審査ノ制度ヲ、原案ニ於テハ特許及商標ニ於テノミ之ヲ認メテ居タノデアリマスガ、委員會ニ於テハ多クノ討論ヲ爲シ、多クノ研究ヲ爲シタル結果、此出願公告制度ハ之ヲ實用新案ニモ應用スルニ於テ、最モ其效能顯著ナルノデアルト云フコトヲ認マシテ、即チ多少ノ經費ノ増加等ガアルト云フコトヲ言ハレマシタニ拘ラズ、實用新案ニ就テ、特許若クハ商標トシテ、出願公告ノ制度ヲ採用スルト云フコトヲ致シタノデアリマス、即チ實用新案ニ就テモ、特許局ニ於テ審査ノ結果別段拒絕スベキ理由ナキモノト見タモノハ、先ツ之ヲ公告シテ一般公衆ニ示シテ、異議申立ノ機會ヲ與ヘルト云フ所ノ制度ヲ實用新案ニ應用スルト云フ點ニ就テ、修正ヲ加ヘタルノデアリマス、是等ハ修正案ノ中ノ最モ顯著ナル一ツデアリマス、尙ホ修正第三ノ要點ハ、是亦前ニ一言致シマシタガ、會社ノ被用人トシテ、或ハ契約シ依テ仕事ヲ爲ス所ノ者ガ發明ヲ致シマシタ場合ニ、其發明ニ就テ特許ヲ受ケルノ權利ハ被用者ガ改正法ノ規定ニ依リテ特許權ヲ使用者、即チ法人即チ主人ニ之ヲ承繼セシメタル場合、又改正法ノ規定ニ依リテ主人ガ其發明權ノ實施權利ヲ得テ、之ヲ實施スルト云フ場合ニ於テ、權利ヲ承繼セシメタル場合ニ於テハ、補償金ガアルケレドモ、權利ヲ實施スル場合ニハ、補償金ノ制度ガ定メテナイノデアリマス、此點ニ就テ又一ツノ修正ヲ加ヘマシテ、權利ヲ實施スル場合ニ於テモ、亦相當ノ保證金ヲ與フルト云フコトニ致シタノデアリマス、是ハ發明者即チ被用者トシテ發明ヲ爲シタル所ノ者ヲ保護シ其人格ヲ認メルト云フ點ニ於テ、意味深長ナル修正案デアルト云フコトヲ吾々ハ信ジテ居ルノデアリマス、尙ホ修正案ニ就テ第四ニ特ニ御注意ヲ願フベキ點ハ、辨理士法ニ就テノ修正デアリマス、即チ政府提出ノ原案ニ於テハ、現行辨理士、今ニ於テ認メテ居ル所ノ辨理士タル資格ニ就テ、銓衡ヲ以テ無試験ニシテ、辨理士タル資格ヲ與ヘルト云フ所

ノ銓衡制度ヲ採用シテ居ラヌノデアリマス、此點ニ就テハ又政府ノ説明ニ依リマスレバ、政府ハ法律ニ於テ之ヲ認メテ居ラヌケレドモ、技術家其他高等教育ヲ受ケタ所ノ或人々ニ對シテハ、現行辨理士ニ於ケルガ如ク、銓衡等ノ方法ニ依リテ、辨理士タル資格ヲ得セルム所ノ途ヲ開ク積リデアリマスト云フコトデアリマシタ、併ナガラ爰ニ法律ヲ定メテ辨理士タル者ノ資格ヲ定メルニ當リテ、此現行法ノ銓衡制度ヲ採用スル所ト云フコトハ、特許或ハ實用其他ニ就テ、最モ深ク關係スル所ト云フコトハ、特許家ノ地位ヲ認メルト云フコトニ於テ極メテ必要デアルト云フコトヲ信ジマシテ、委員會ハ即チ全會一致ヲ以テ現行辨理士法ニ於ケル銓衡程度ヲ、大體ニ於テ其儘之ヲ採用シテ、即チ辨理士法第四條ニ之ヲ規定スルト云フコトニ致シタノデアリマス、以上ハ修正ノ主ナル點デアリマスルガ、此他特許法ニ於テ第十一條、又第三十六條、第六十條ノ修正ノ如キ、何レモ特許權ノ内容ニ關係スル所ノ重要ナル修正デアリマス、又第百十四條ノ修正ハ、是ハ法文ノ脱漏ヲ補足スル意味ヲ以テ修正ヲ加ヘタモノデアリマシテ、是亦重要ナル修正一已ムヲ得ザル重要ナル修正ト考ヘテ居ルノデアリマス、其他商標法ニ於テ第十一條、第三十一條ノ修正ハ、是亦極メテ重要ナル意義ヲ含シテ居ルモノデアリマシテ、即チ原案ニ於テハ、特許局長ヲシテ此權限ヲ握ラシメテ居タモノヲ移シテ、審判ニ依リテ之ヲ決スト云フコトニ致シタモノデアリマシテ、其意味ニ於テハ實務家及當業者ノ、或意味ニ於テ輿論ヲ参照シタト云フコトヲ認メテ戴キタイト思フノデアリマス、尙ホ最後ニ一言致シテ置キタイ事ハ、政府ノ説明スル所ニ依リマス、此改正法律案通過ノ場合、即チ此法律案ガ法律トシテ發布セラレ、場合ニ於テハ、特許局ノ規模ヲ擴大シ、又其擴大ノ爲メニ既ニ追加豫算ヲ要求スル所ノ手順ニ定メラレテ居ルト云フコトデアリマスルガ、左様ニシテ特許局ハ其規模ヲ大キクセラレ、隨テ特許局ノ長官ハ、現ニ特許局長ト稱シテ居リマスケレドモ、其待遇ト云フコトニ就テモ、官制ノ改正等ヲシナケレバナラヌ、又現ニ其案ガ既ニ出來テ居ルカノ如キ意味ノ言明ガアリマシタ、ソレガ爲メニ此法律ニ於テ左様ナル箇條ニ於テアリマス所ノ「特許局長」ト云フ文字ニ對シテ、其下ニ「官」ノ字ヲ加ヘテ、即チ「特許局長官」ト云フ文字ニ致シマシテ、將來改正セラルベキ一規模ヲ擴大セラレタ特許局ノ機關ニ之ヲ直ニ應用スルコトノ出來ル途ヲ開ク意味ニ於テ長官ノ「官」ノ字ヲ一ツ加ヘタト云フ修正モ、亦特ニ御注意ヲ願フベキ筈デアラウト思フノデアリマス、此以外ノ修正ハ固ヨリ必要已ムベカラザル修正デアリマスケレドモ、

多クハ法文ノ整理ノ關係カラ、即チ只今紹介致シマシタ多クノ修正ノ結果トシテ、法文整理ノ意味ヲ以テ爲シタ所ノ修正アリマシテ、是ハ特ニ愛ニ説明スルノ必要ハ無カラウト考ヘルノアリマス、以上ノ順序ニ依リマシテ、委員會ハ慎重審議ノ上、小委員會ガ定メタ所ノ修正案ヲ原案トシテ、議題ニ供シ討論ヲ致シマシタ結果、實用新案ニ就テ出願公告ノ制度ヲ用キルト云フ此一點ニ就テ、委員森下龜太郎君ノ反對ガアリマシタ以外、其他ノ點ニ就テハ、十八名ノ委員悉ク全會一致ヲ以テ之ヲ可決致シマシタ、政府ハ又之ニ對シテ其修正案ニ同意スル旨ヲ答ヘタ次第アリマス、斯様ナ次第ヲ以テ委員會ヲ經過致シタヤウナ關係ガアリマス、何卒御審議ノ上、委員會ノ修正ニ滿場一致ヲ以テ、同意セラレ、コトヲ希望スル次第アリマス(拍手起ル)

〔參照〕

特許法改正ノ要點

一 先願者特許主義ヲ採用シタルコト(第八條)

現行法ニ依レハ同一發明ニ付特許ヲ出願シタル者二人以上アルトキハ最先發明者ニ特許ヲ與フヘキモノトシ二以上ノ出願ニ付先ツ抵觸査定ヲ爲シ其査定ニ對シ再審査及抗告審判ノ請求ヲ爲スヲ得セシメ抵觸査定確定ノ後其ノ發明完成ノ前後ヲ審理スルカ爲權利確定ノ審査及抗告審判ヲ經テ大審院ニ出訴スルコトヲ得セシム從テ特許出願ノ日ヨリ特許ノ許否ノ確定ニ至ル迄ニ多クノ日數ヲ要ス又權利確定ニ關スル困難ノ實例ニ徴スレハ發明完成ノ日ノ立證ハ頗ル困難ニシテ結局先願者ニ特許ヲ與ヘタル場合甚多シ難之先願主義ヲ採用スレハ發明者ヲシテ可成速ニ特許ヲ出願セシムルコトナリ早ク社會ヲシテ發明ノ恩澤ニ浴セシムルノ利益アリト認マラル

二 特許前ニ出願ヲ公告シ公衆ヲシテ特許ニ對シ異議申立ヲ爲スコトヲ意セシムルノ制度ヲ採用シタルコト(第七十二條、第七十四條)

審査官特許出願ニ對シ特許ヲ拒絕スヘキ理由ヲ發見スルニ至ラサルトキハ出願ノ内容ヲ公告シ一般公衆ヲシテ特許附與ニ對シ異議ヲ申立ツルノ機會ヲ得セシメテ異議ノ査定ヲ爲スト同時ニ出願ニ對スル特許ノ許否ヲ決スルノ制度ヲ採用セリ是レ審査ノ公正ヲ期シ且特許後ニ於ケル爭議ヲ事前ニ減少セムトスルノ趣旨ニ出ツ而シテ一方出願人ノ利益ノ爲右出願ノ公告ト同時ニ其ノ出願ニ付假保證ヲ與フルコトト爲セリ

三 特許拒絕ノ理由ヲ出願人ニ示シ意見申出ノ機會ヲ與ヘタルコト(第七十二條)

審査官特許出願ニ付拒絕スヘキ理由ヲ發見シタルトキハ出願人ニ對シ豫メ其ノ理由ヲ示シ期間ヲ指定シテ意見書ヲ差出サシムルノ制度ヲ採用シ以テ出願人ト審査官トノ間ニ於ケル意思ノ疏通ヲ圖リ審査ノ鄭重ヲ期スルト共ニ出願人ヲシテ無用ノ不服ヲ爲スノ煩ヲ避ケシムルコトスルモノナリ

重ヲ期スルト共ニ出願人ヲシテ無用ノ不服ヲ爲スノ煩ヲ避ケシムルコトスルモノナリ

四 特許出願ニ對スル再審査ノ制度ヲ廢止シ直接抗告審判ヲ請求スルコトヲ得セシメ更ニ最終ノ許否決定ノ爲大審院ニ出訴シ得ルコトト爲シタルコト(第九條、第百十五條)

現行法ニ依レハ特許出願ノ拒絕ニ對シ再審査ノ請求ヲ許シ之ニ不服アル場合ニ於テハ最終ノ許否決定ノ爲抗告審判ノ請求ヲ認ム然ルニ特許ノ許否ノ最終ノ決定ヲ特許局ニ於テ爲スハ審判系統ニ於ケル最終ノ機關タル大審院ニ於テ爲ス上審判系統ニ於ケル最終ノ機關アリ依テ再審査ヲ廢シ査定ニ對シ直ニ抗告審判ヲ經テ更ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得セシムル制度ヲ採用シタリ況ンヤ前項ニ拘ケル如ク特許拒絕ノ理由ヲ出願人ニ示シ意見申出ノ機會ヲ與フル以上ハ特許局ニ於ケル事實審理ノ上ニ遺憾ナカルヘキニ於テオヤ

五 職務上又ハ契約上爲シタル發明ニ付特許ヲ受クルノ權利ノ歸屬規定ヲ改正シタルコト(第十四條)

現行法ニ依レハ職務上又ハ契約上爲シタル發明ニ付テハ原則トシテ使用者ニ特許ヲ受クルノ權利ヲ歸屬セシメタルモ改正法律案ニ於テハ原則トシテ被用者ニ特許ヲ受クルノ權利ヲ有セシメ一面使用者ノ利益ヲ顧慮シ特定ノ場合ニ於テハ使用者ニ對シ其ノ特許發明者カ特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル場合ニ於テハ相當ノ補償金ヲ被用者ニ支拂ハシムル等使用者ト被用者トノ關係ノ調和ヲ圖リタリ

六 特許又ハ許可ノ無効ノ審判ハ特許又ハ許可アリタル後五年間ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得サラシメタルコト(第八十五條)

現行法ニ依レハ特許又ハ許可ノ無効審判請求ノ時期ニ付テハ何等ノ制限ヲ設ケサルカ故ニ特許權ハ常ニ不安定ナルヲ免レス是レ投資ヲ爲ス者ノ最も憂アル所ニシテ延イテ特許發明ノ實施ヲ困難ナラシムルニ至ル依テ特許又ハ許可アリタル後五年ヲ經過シタルトキハ其ノ無効審判ノ請求ヲ爲スコトヲ得サラシメ如上ノ弊害ヲ除去シ特許業者ヲ保護セリ

七 強制實施許諾ノ規定ヲ設ケタルコト(第四十一條)

特許アリタル後ニ於テ引續キ三年以上正當ノ理由ナクシテ其ノ發明カ帝國内ニ於テ適當ニ實施セラレサル場合ニ於テ公益上必要アルトキハ其ノ特許權者ノ意思如何ニ拘ラズ利益關係人ヲシテ其ノ發明ヲ實施スルコトヲ得セシムルノ途ヲ新ニ開キ獨占權ノ弊害ヲ矯メ國內産業ノ發達ニ資セリ

八 特許權ノ改訂又ハ分割ノ規定ヲ改正シタルコト(第五十三條、第五十四條)

現行法ニ依レハ特許發明細書ヲ訂正シ又ハ特許權ヲ分割スル場合ニ於テハ審査手續ニ依リタルモ改

正法律案ニ於テハ其ノ手續ヲ鄭重ナラシメ審判手續ニ依ラシムルコト、セリ

九 特許無効ノ審判ハ原則トシテ口頭審理ニ依ルコトト爲シタルコト(第九十七條)

現行法ニ依レハ特許無効ノ審判モ亦原則トシテ書面審理ニ依リ唯審判長ハ職權ヲ以テ又ハ當事者ノ申立ニ依リ口頭審理ヲ爲スコトヲ得ルニ過キス然ルニ特許權範圍確認審判カ特許發明細書ノ解釋及技術上ノ問題ヲ主トシテ口頭審理ヲ必要トスル場合多カラサルニ反シ特許無効ノ審判ハ事實ニ關スル争點ヲ主トスルカ故ニ事實ノ真相ヲ闡明スルニハ書面審理ニ依ルヨリモ口頭審理ニ依ルルヲ便トスルヲ以テ無効審判ニ限リ原則トシテ口頭審理ニ依ルコト、爲セリ

十 審査官除斥ノ規定ヲ新設シ審判官除斥ノ規定ヲ擴充シ尚審判官ニ付テハ忌避ノ規定ヲ新設シタルコト(第七十一條、第九十一條乃至第九十六條、第一百條)

現行法ニ依レハ審査ニ干與シタル者ハ同一事件ニ付審判ニ干與スルコトヲ得ス審判ニ干與シタル者ハ同一事件ニ付抗告審判ニ干與スルコトヲ得サル旨ヲ規定スルモ大審院ニ於テ被毀差戻ト爲リタル事件ニ付前抗告審判ニ干與シタル者カ其ノ事件ニ干與スルコトヲ妨ケス然ルニ一度事件ニ干與シタル者ハ勢ヒ前審決ヲ維持セムトスル傾向ヲ有スト爲シ此ノ場合ニ於テモ異リタル審判官ノ審理ヲ要求スルノ聲アリ又審判官ニ付テハ現行法ニ依レハ當事者ト親族關係等ヲ有スル者ヲ除斥スルノ規定アルモ審査官ニ付テハ之ヲ缺如セルヲ以テ之ヲ補充スルコト、爲シ尚審判官ニ付テハ民事訴訟法ニ依ヒ忌避ノ規定ヲ設ケタリ

十一 民事訴訟法ニ依ヒ審判、抗告審判又ハ出訴ニ關シ再審ノ制度ヲ設ケタルコト(第二百一十一條乃至第二百二十八條)

確定ノ審決又ハ判決ヲ以テ終結シタル審判、抗告審判又ハ出訴ニ對シ法定ノ事由アルトキハ取消ノ請求又ハ原狀回復ノ請求ニ依リ之ヲ再審スルノ制度ヲ設ケ再審請求ノ事由等ニ至テハ多ク民事訴訟法ノ規定ニ準據セリ

〔參照〕

實用新案法改正ノ要點

一 實用新案ト發明トノ區別ヲ明ニシタルコト(第一條) 發明ハ廣ク自無カラ利用シ産業上ノ效果ヲ發生セシムヘキ創案ナルニ對シ實用新案ハ單ニ案出ニ係ル工業的物ニ付實用アル新規ノ型ニ止マルモノナリト雖其間往々ニシテ發明ト實用新案トハ性質同ウシ且其ノ程度ヲ異ニスル大發明ト小發明トノ別アルニ過キストノ論アルヲ以テ改正法律案ニ於テハ此ノ疑義ヲ明ニシ發明ト實用新案トハ其性質ヲ異ニシ後者ハ物品

ノ形狀、構造又ハ組合ハセニ條々實用アル新規ノ型ニ止マルモノナルコトヲ明ニセリ

二 登錄拒絕ノ理由ヲ出願人ニ示シ意見申出ノ機會ヲ與ヘタルコト(第二十六條、特許法改正法律案第七十二條、特許法(三)ノ趣旨ニ同シ)

三 登錄出願ニ對スル再審査ノ制度ヲ廢止シ直接抗告審判ヲ請求スルコトヲ得セシメ更ニ最終ノ許否決定ノ爲大審院ニ出訴シ得ルコトヲ爲シタルコト(第二十五條、第二十六條、特許法改正法律案第一百五條、特許法(四)ノ趣旨ニ同シ)

四 職務上又ハ契約上爲シタル實用新案ニ付登錄ヲ受クルノ權利ノ歸屬規定ヲ改正シタルコト(第二十六條、特許法改正法律案第十四條、特許法(五)ノ趣旨ニ同シ)

五 登錄又ハ許可ノ無効審判ハ登錄又ハ許可アリタル後三年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得サラシメタルコト(第二十三條、特許法(六)ノ趣旨ニ同シ)

六 登錄無効ノ審判ハ原則トシテ口頭審理ニ依ルコトト爲シタルコト(第二十六條、特許法改正法律案第九十七條、特許法(九)ノ趣旨ニ同シ)

七 審査官除斥ノ規定ヲ新設シ審判官除斥ノ規定ヲ擴充シ尚審判官ニ付テハ忌避ノ規定ヲ新設シタルコト(第二十六條、特許法改正法律案第七十一條、第九十一條乃至第九十六條、特許法(十)ノ趣旨ニ同シ)

八 強制實施許諾ノ規定ヲ設ケタルコト(第十一條、第十二條、特許法(七)ノ趣旨ニ同シ)

九 登錄實用新案ノ圖面又ハ說明書ノ訂正ノ規定ヲ新設ケタルコト(第十四條、第十五條)

十 是レ特許法改正法律案第五十三條第一項、第三項及第五十四條ノ規定ニ依リテ規定ナシト雖此制於テハ實用新案權ノ改訂ニ關スル規定ナシト雖此制於テハ權利者並ニ世人ニ於テ非常ニ便宜ヲ得ルモノナラフ以テ一面權利ノ實質ニ増減變更ヲ來シ爲メニ社會ヲシテ不測ノ損害ヲ蒙ラシメサル點ニ特ニ留意シ訂正ヲ許スヘキ場合ヲ明定シ且審判手續ニ依リ鄭重ニ審理セシムルコトト爲シ其ノ弊害ノ除去ニ努メタリ

十一 實用新案權ノ存續期間ヲ十年ト爲シ料金ヲ特許權ニ依リテ年金制度ニ改メタルコト(第十條、第二十條) 現行法ニ依リテ實用新案權ノ存續期間ハ合計十年ト爲シ得ルモ原則トシテハ三年ト爲シ後更ニ三年、四年、五年、十年ノ延長制度ヲ採リタルモノ不便多キヲ以テ、一律ニ最初ヨリ十年ト爲シ料金ヲ年金制度ニ改メタリ

十二 民事訴訟ニ依リテ審判、抗告審判又ハ出訴ニ關シ再審ノ制度ヲ設ケタルコト(第二十六條、特許法改正法律案第二百一十一條乃至第二百二十八條、特許法(十一)ノ趣旨ニ同シ)

〔參照〕

一 意匠權ノ客體ヲ明ニシタルコト(第一條)

二 意匠權ノ權限ハ其ノ第一條ニ於テ「物品ニ應用スヘキ形狀、模様色彩又ハ其ノ結合ニ係ル新規ナル工業的意匠ヲ案出シタル者云々」ト規定シ意匠ハ之ヲ應用スヘキ物品ト全然離レテ存在シ一旦或意匠ニ付意匠權ヲ取得シタルトキハ各種ノ物品ニ對シテ該意匠ヲ應用スルノ權利ヲ排他的ニ享有スルモノノ如キ誤解ヲ生スルノ虞アルヲ以テ改正法律案ニ於テハ意匠ハ物品ト離レテ存スルモノニ非ス必ズヤ物品ト關係ニ於テノ觀念シ得ルモノナルト爲シ法文上明ニシタリ

三 登錄拒絕ノ理由ヲ出願人ニ示シ意見申出ノ機會ヲ與ヘタルコト(第二十五條、特許法改正法律案第七十二條、特許法(三)ノ趣旨ニ同シ)

四 登錄出願ニ對スル再審査ノ制度ヲ廢止シ直接抗告審判ヲ請求スルコトヲ得セシメ更ニ最終ノ許否決定ノ爲大審院ニ出訴シ得ルコトヲ爲シタルコト(第二十四條、第二十五條、特許法改正法律案第一百五條、特許法(四)ノ趣旨ニ同シ)

五 職務上又ハ契約上爲シタル意匠ニ付登錄ヲ受クルノ權利ノ歸屬規定ヲ改正シタルコト(第二十五條、特許法改正法律案第十四條、特許法(五)ノ趣旨ニ同シ)

六 登錄無効ノ審判ハ原則トシテ口頭審理ニ依ルコトト爲シタルコト(第二十五條、特許法改正法律案第九十七條、特許法(九)ノ趣旨ニ同シ)

七 審査官除斥ノ規定ヲ新設シ審判官除斥ノ規定ヲ擴充シ尚審判官ニ付テハ忌避ノ規定ヲ新設シタルコト(第二十五條、特許法改正法律案第七十一條、第九十一條乃至第九十六條、特許法(十)ノ趣旨ニ同シ)

八 意匠權ト商標權トノ關係ヲ規定シタルコト(第八條、第三項)

九 現行法ニ依リテハ意匠權ト實用新案權トノ關係ニ付規定スル所アリト雖意匠權ト商標權トノ關係ニ付テハ何等規定スル所ナシ改正法律案ニ於テハ此ノ場合ニ處スル爲意匠權者其ノ意匠ヲ實施スルニハ先願登錄ニ係ル商標權者ノ許諾ヲ要スル旨ヲ定メタリ

十 強制實施許諾ノ規定ヲ設ケタルコト(第十三條、第十四條、特許法(七)ノ趣旨ニ同シ)

十一 民事訴訟ニ依リテ審判、抗告審判又ハ出訴ニ關シ再審ノ制度ヲ設ケタルコト(第二十五條、特許法改正法律案第二百一十一條乃至第二百二十八條、特許法(十一)ノ趣旨ニ同シ)

〔參照〕

一 商標法改正ノ要點

二 商標法改正ノ要點

三 商標法改正ノ要點

四 商標法改正ノ要點

五 商標法改正ノ要點

六 商標法改正ノ要點

七 商標法改正ノ要點

八 商標法改正ノ要點

九 商標法改正ノ要點

十 商標法改正ノ要點

十一 商標法改正ノ要點

十二 商標法改正ノ要點

十三 商標法改正ノ要點

十四 商標法改正ノ要點

十五 商標法改正ノ要點

十六 商標法改正ノ要點

十七 商標法改正ノ要點

十八 商標法改正ノ要點

十九 商標法改正ノ要點

二十 商標法改正ノ要點

二十一 商標法改正ノ要點

二十二 商標法改正ノ要點

二十三 商標法改正ノ要點

二十四 商標法改正ノ要點

二十五 商標法改正ノ要點

二十六 商標法改正ノ要點

二十七 商標法改正ノ要點

二十八 商標法改正ノ要點

二十九 商標法改正ノ要點

三十 商標法改正ノ要點

三十一 商標法改正ノ要點

三十二 商標法改正ノ要點

三十三 商標法改正ノ要點

三十四 商標法改正ノ要點

三十五 商標法改正ノ要點

三十六 商標法改正ノ要點

三十七 商標法改正ノ要點

三十八 商標法改正ノ要點

三十九 商標法改正ノ要點

四十 商標法改正ノ要點

四十一 商標法改正ノ要點

四十二 商標法改正ノ要點

四十三 商標法改正ノ要點

四十四 商標法改正ノ要點

四十五 商標法改正ノ要點

四十六 商標法改正ノ要點

四十七 商標法改正ノ要點

四十八 商標法改正ノ要點

四十九 商標法改正ノ要點

五十 商標法改正ノ要點

五十一 商標法改正ノ要點

五十二 商標法改正ノ要點

五十三 商標法改正ノ要點

五十四 商標法改正ノ要點

五十五 商標法改正ノ要點

五十六 商標法改正ノ要點

五十七 商標法改正ノ要點

五十八 商標法改正ノ要點

五十九 商標法改正ノ要點

六十 商標法改正ノ要點

六十一 商標法改正ノ要點

六十二 商標法改正ノ要點

六十三 商標法改正ノ要點

六十四 商標法改正ノ要點

六十五 商標法改正ノ要點

六十六 商標法改正ノ要點

六十七 商標法改正ノ要點

六十八 商標法改正ノ要點

六十九 商標法改正ノ要點

七十 商標法改正ノ要點

七十一 商標法改正ノ要點

七十二 商標法改正ノ要點

七十三 商標法改正ノ要點

七十四 商標法改正ノ要點

七十五 商標法改正ノ要點

七十六 商標法改正ノ要點

七十七 商標法改正ノ要點

七十八 商標法改正ノ要點

七十九 商標法改正ノ要點

八十 商標法改正ノ要點

八十一 商標法改正ノ要點

八十二 商標法改正ノ要點

八十三 商標法改正ノ要點

八十四 商標法改正ノ要點

八十五 商標法改正ノ要點

八十六 商標法改正ノ要點

八十七 商標法改正ノ要點

八十八 商標法改正ノ要點

八十九 商標法改正ノ要點

九十 商標法改正ノ要點

九十一 商標法改正ノ要點

九十二 商標法改正ノ要點

九十三 商標法改正ノ要點

九十四 商標法改正ノ要點

九十五 商標法改正ノ要點

九十六 商標法改正ノ要點

九十七 商標法改正ノ要點

九十八 商標法改正ノ要點

九十九 商標法改正ノ要點

一百 商標法改正ノ要點

認識セラレタル標章ノ使用者ハ此ノ標章ニ抵觸スル商標ノ登録アリタル場合ニハ審判ニ依リ其ノ商標登録ヲ無効ト爲スコトヲ得ルニ止マレトモ自己ノ標章ヲ認識スルニ至ラシメタル者ノ保護ハ之ヲ以テ十分ナラト認メ改正法律案ニ於テハ登録無効審決ノ確定前ト雖引續キ自己ノ標章ヲ使用スルコトトシ且期間満了ニ依リ登録無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得サルニ至リタル後ト雖尙自己ノ標章ノ使用ヲ繼續スルヲ得ルコトト爲シタリ

十 團體標章ニ關スル規定ヲ設ケタルコト(第二十七條乃至第三十三條)
 現行法ニ依レハ團體標章ニ關スル規定ナキモ改正法律案ニ於テハ産業組合、同業組合、地域團體等ノ團體法人カ自ラ標章ヲ使用セシメテ各團體員ノミヲシテ同一ノ標章ヲ使用セシメントスル場合ニ團體ヲシテ其ノ標章ニ付團體標章ノ登録ヲ受ケ商標ニ準シ其ノ保護ヲ受ケ以テ團體員共同ノ利益ヲ増進スルヲ得セシムルコトト爲シタリ

十一 商標權侵害ノ罪ヲ非親告罪ト爲シタルコト(第三十四條)
 商標權ノ侵害ハ單ニ商標權者ノ利益ヲ害スルノミナラス一般ニ商品需要者ノ利益ヲ害スルモノナルヲ以テ商標權者ノ告訴ヲ俟テ之ヲ論スルハ當ヲ得タルモノニアラスト認メ商標權者ノ告訴ヲ俟タルコトト爲シタリ

十二 商標ノ要部ト認メラルルノ虞アル部分カ分離シテハ特別顯著ナラサルカ又ハ慣用標章ト同一又ハ類カ其部分自體ニ付權利ヲ要求セサル場合ト雖出願トキハ其商標ヲ登録スルノ制度ヲ採用シタルコト(第二條第二項第八條第二項)
 商標ノ要部ト認メラルルノ虞アル部分カ商品ノ普通名稱其ノ他特別顯著ナラサルモノ又ハ慣用標章ト同一又ハ類似ナルトキハ其ノ商標ニ付登録ヲ受クルコトヲ得サルモノナルトモ其ノ商標カ何ノ點ニ於テ特別顯著ナルモノナルトモ其ノ商標ヲ受クルヲ得セシムルヲ便宜トスルニ於テ其ノ儘登録ヲ爲スコトキハ商標權ノ範圍ニ付爭ヲ生スルノ虞アリ仍テ豫メ其ノ部分ニ付專用權ヲ要求セサルコトヲ明カニシ以テ紛爭ヲ未然ニ防止スルコトト爲シタリ

十三 商標權ト先願登録ニ係ル意匠權トノ關係ヲ規定シタルコト(第七條第三項)
 商標ハ其ノ使用ノ態様ニ於テ實際上意匠ト相抵觸スル場合アリ改正法律案ニ於テハ此ノ場合ニ處スル爲商標權者ハ先願登録ニ係ル意匠權者ノ實施許諾アルニ非サレハ其ノ態様ニ於テ登録商標ヲ使用スルヲ得サルコトト爲シタリ

十四 商標權者其ノ登録商標ニ商品ノ誤認又ハ混同

ヲ生セシムルノ虞アル附記又ハ變更ヲ爲シテ之ヲ使用シタル場合ニ於ケル登録ノ取消ハ審判ニ依ルコトト爲シタルコト(第十五條第一項)
 現行法ニ依レハ商標登録ノ取消ハ總テ特許局長ニ於テ之ヲ爲スヘキモノト爲シタリ商標權者カ其ノ登録商標ニ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ虞アル附記又ハ變更ヲ爲シテ之ヲ使用シタルコトヲ理由トスル商標登録ノ取消ニ付テハ事實又證據ノ調査ヲ爲スノ必要多キヲ以テ審判ノ手續ニ依ルコトト爲シタリ

十五 世人ヲ欺瞞スルノ虞アル商標ノ登録ヲ拒絕スルハ其ノ欺瞞ノ原因カ商標自體ニ存スル場合ニ限ラサルコトヲ明シタルコト(第二條第一項第十一號)
 現行法ニ依レハ世人ヲ欺瞞スルノ虞アル商標ハ之ヲ登録セサル旨ヲ規定セルモノ世人欺瞞ノ原因カ商標自體ニ存スル場合ニ限リ適用アルモノナルヤ否ハ從來議論ノ存スル所ナリ改正法律案ニ於テハ世人欺瞞ノ原因カ商標自體ニ存スル場合ノミニ限ラス其ノ商標ノ爲商品ノ混同ヲ生セシムルノ虞アル場合ニモ其ノ登録ヲ拒絕スルノ趣旨ヲ明白ナラシメタリ

十六 世人ノ周知スル商標ノ意義ヲ明シタルコト(第二條第一項第八號)
 現行法ニ依レハ世人ノ周知スル他人ノ商標ニ抵觸スル商標ハ之ヲ登録セサル旨ヲ規定セルモノ世人ノ範圍及周知ノ程度明ナラスト批難アリタルヲ以テ改正法律案ニ於テハ之ヲ取引者又ハ需要者ノ間ニ廣ク認識セラレタル商標ト改メ其ノ意義ヲ明瞭ニシタリ

十七 明治三十一年七月一日前ヨリ善意ニ使用スル商標ニ關スル保護ノ規定ヲ廢止シタルコト
 現行法ニ依レハ明治三十二年七月一日前ヨリ善意ニ使用スル商標ハ他人ノ先願登録商標又ハ世人ノ周知スル他人ノ商標ニ抵觸スルモノト雖尙登録ヲ受クルコトヲ得ヘキモノト爲セリ爲ルニ現行法施行以來既二十有二年ヲ經過スルヲ以テ右ノ制度ニ依リ保護ヲ受クルヲ得ヘキ商標ノ使用者ハ此ノ間ニ於テ既ニ登録ヲ受ケタルヘク又此ノ間ニ於テ尙登録ヲ出願セサルモノノ如キハ最早之ヲ保護スルノ必要ナシト認メ改正法律案ニ於テハ此ノ制度ヲ廢止シタリ

十八 商標權存續期間更新登録ノ性質ヲ明シタルコト(第十一條第十六條第二項)
 商標權存續期間更新ノ登録ハ單ニ其ノ存續期間ヲ延長スルニ止マルモノナルヤ又ハ新ナル商標權ヲ發生セシムルモノナルヤ從來議論ノ存シタル所ナリ改正法律案ニ於テハ更新登録ハ存續期間ヲ延長セシムルニ止マルモノナルトモ主義ノ原則トシテ採用シ公益ニ關スル特定期間ニ限リ出願ノ對シ審査ヲ爲シ更新登録カ其ノ審査事項ニ關スル規定ニ違反シタル場合ニ限リ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘキコトト爲シタリ

十九 商標登録證ヲ廢止シタルコト
 從來商標登録證ヲ下付スルノ規定アリト雖商標登録證ハ特許證ノ加ク重要ナルモノニアラサルヲ以テ改正法律案ニ於テハ之ヲ廢止スルコトト爲シタリ

〔參照〕
 特許辦理士令改正ノ要點
 一 辦理士會設立ヲ強制シ且辦理士ハ辦理士會ニ加入スルニ非サレハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ザラシメタルコト(第九條、第十五條)
 二 辦理士ヲシテ必ス辦理士會ヲ設立セシメ且辦理士ハ辦理士會ニ加入シタル後ニ非サレハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ザラシムルハ辦理士ノ風紀ヲ保持シ業務ノ發達ヲ圖ラシムル爲メ緊要ニシテ自治ニ依リ相互ノ監督ヲ爲サシムルニ裨益スルヲ以テ辯護士法ニ倣ヒ此ノ制度ヲ採用シタリ

三 辦理士タル資格ニ付テハ銓衡ノ制度ヲ廢止シタルコト(第二條)
 特許辦理士令ニ依レハ學位ヲ有スル者及帝國大學分科大學又ハ之ト學科程度同等以上ト認ムル内外國ノ學校ニ於テ定規ノ課業ヲ卒ヘタル者ニ對シ特許辦理士試驗委員ノ銓衡ニ依リ試驗ヲ要セシメテ辦理士タルコトヲ得セシメタルモノ既ニ辦理士試驗ノ制度ヲ存スル以上ハ銓衡ノ如キ例外ヲ設ケザルヲ可ナリト認メ銓衡ノ制度ヲ全廢シ前掲ノ如キ者ニ對シシテモ凡テ試驗ニ合格スルコトヲ要スルコトト爲セリ

四 辦理士ヲシテ通常裁判所ニ於テ本人ノ爲意見ヲ述フルコトヲ得セシメタルコト(第八條)
 現行ノ制度ニ於テハ辦理士ハ單ニ特許局ニ對シ爲スヘキ事項ノ代理業ヲ爲スコトヲ得ルニ過キス然ルニ辦理士ヲシテ特許局ノ抗告審判ノ審決ニ對スル不服ノ出訴ニ止マラス廣ク民事ノ事件ニ關シ通常裁判所ニ於テ意見ヲ陳述スルヲ得セシムルハ工業所有權ニ關スル事件ノ如キ特殊專門ノ智識ヲ要スルモノニ在リテハ特ニ其ノ必要アルヲ以テ改正法律案ニ於テハ此ノ制度ヲ認メタリ

五 勅令ヲ法律ニ改メタルコト
 如上ノ改正ニ伴ヒ且改正法律案ハ其ノ他ノ點ニ於テモ多ク範ヲ辯護士法ニ採リタルヲ以テ舊規則ハ勅令ヲ以テシタルモノヲ法律ニ依ルコトト爲シタリ

○議長(與繁三郎君) 本案ニ就テ贊成ノ通告ガアリマス
 清瀨一郎君

官報號外 大正十年三月六日 衆議院議事速記錄第二十二號 特許法改正法律案外四件(參照)

〔清瀨一郎君登壇、拍手起ル〕

○清瀨一郎君 我ガ立憲國民黨ハ、産業立國ト云フコトヲ重要ナル政策ノ一ト致シテ居リマス、殊ニ又理化學ノ研究發達ニ依リマシテ、我國ノ天然資源ノ缺乏ヲ補フヘキコトヲ主張致シテ居リマス、隨テ之ニ重大ナル關係ヲ有スル發明特許ノ制度、之ニ就キマシテハ、格段ナル注意ヲ拂ヒツ、アルノデアリマス、我國ノ特許制度ガ完全ナル效果ヲ收メツ、アラザルコトハ、是ハ若明ナ事實デアリマス、其原因ノ一ツハ我國ノ特許局ノ事務ノ板ノ缺陷ト云フコトガ、是ガ一ツニ相違ナイケレドモ、他ノ一ツハ矢張現行特許法ニ缺點ガアルト云フコトモ明瞭デアリマス、ソレ故ニ大正六年第四十議會ニ於キマシテ、議院ヨリ特許法改正ノ法律案ガ提出サレタノデアリマス、此時ニ政府ハ直チニ引續イテ政府案トシテ完全ナル特許法案ヲ議會ニ提出スルコトヲ言明サレタ、是ガ大正六年デアリマス、爾來四年間ノ研鑽ヲ以テ提出サレタノガ、即チ今回ノ特許法外四件ノ政府案デアリマス、以上ノ次第ヲ承知致シテ居リマス、先月二十二日ニ政府ノ特許法原案ガ吾々ニ配付サレタ際ニ、私ハ非常ナル期待ヲ以テ此原案ニ接シタノデアリマス、四年間ノ推敲ヲ積マレ多額ノ人ニ委員ヲ囑託シテ編成サレタ特許法デアリカ、無論是ハ完全ナルモノデアラウト思フテ、之ニ接シタノデアリマス、所ガ實際之ヲ讀ムニ至テ希望ノ大ナルダケ、ソレダケ落膽モ大デアタ、元々特許法ヲ改正シナケレバナラヌト言出シタ理由ハ二ツアル、其一ツハ特許事務ノ簡捷デアル、速ニ特許ヲ片付ケネバナラヌ、現ニ又審査ノ請求ヲシテモ、一年モ二年モ放シアルノモアルシ、現ニ又審査ノ請求ノ如キ三年五年、長キハ七年ニ至テ片ノ附カヌ審判ガアル、斯様ナル現象デアリカラ、事務ヲ早ク片付ケル、敏速ト云フコトガ第一ノ主義デアランデアリマス、(原案ニ贊成ナラバ簡單ニ願ヒマス)ト呼フ者アリ)モウ一ツハ今日特許局ニ與ヘタル實用新案、若クハ或種ノ特許ハ甚ダ粗末デアル、之ガ爲メニ非常ナル弊害ヲ醸ス、殊ニ農具トカ、或ハ手工業ノ一手工細工ノ道具ニ至テハ、極メテ粗末ナル物ニ特許ヲ與ヘタ結果、論議百出、甚シクニ至テハ一郷一郡ヲ悉ク被告トシテ實用新案ノ告訴ヲシタ、然ルニ内容ヲ審査シテ見ルト云フト、決シテ權利ヲ與フヘキ物デナカッタト云フ例ガ比々アルノデアリマス、斯ノ如キ審査ノ疎漏ヲ防イテ、完全ナル實用新案、若クハ特許ヲ與フヘシ——此主義デアリマス、即チ事務ノ敏速ガ一ツ、審査ノ適正ガ一ツ、此ノ二ツノ主義ガ抑ヘ特許法ノ改正ノ大眼目デアル、所ガ政府案ハ成程色々ナ規則ヲ澤山作リマシタ、法條ノ教モ殖シテ居リマス、文章モ長クシテ居リマスガ、實際ハ此二眼目ガ全ク外レテ居ル、何トナレバ從

來ノ通り、上訴期間ハ矢張六十日ニシテ居ル、世間ノ輿論ハ三十日デアアルニモ拘ラズ六十日ニシテ居ル、其ノ上ニ公告ト云フ法ヲ執テ居リマス結果、審査ハ今迄ヨリハ長クナクテモ、短クナル氣遣ハナイ、反對ノ立法ニ相成テ居ル、今迄非難ノアツタモノハ實用新案デアアル、若シモ公衆ニ公告スル必要デアレバ、實用新案ノ附與前ニ公告ヲ必要トスルニ拘ラズ、實用新案ニハ公告ヲセズシテ、却テ特許ノ方ニ公告制度ヲ與ヘテ居ル、文章典章ハ即チ備ハレリト雖モ、其内容ニ至テハ、大正六年來四年間世間ガ希望シタ所ノ眼目ハ全ク外レテ居リマスルガ故ニ、爰ニ修正ノ義ガ起タノデアリマス、此趣意ヨリシテ委員長ノ今報告サレタ修正ノ箇條ノ中、先ヅ六十日ノ上訴、期間ヲ之ヲ三十日ニ改メルコトニ依テ、事務ノ簡捷ヲ圖ルト云フ途ヲ開イタノデアリマス、(アレカラ又公告ハ特許ノミナラズ、實用新案ニ向テ公告ヲスル、世間一般ニ告ゲテ後ニ實用新案ヲ與ヘルト云フ構造ヲ採リマシテ、權利ノ適正ト云フコトヲ圖タノデアリマス、此二箇條ノ修正ガ無カッタナラバ、政府ノ原案ト云フモノハ、到底目的ノ達成ヲ期シ難イモノデアリマス、此意味ニ於キマシテ私ハ修正ノ特許法實用新案法ニ贊成ヲスルノデアリマス、以上ハ特許實用新案ニ就テ主トシテ著眼ヲ致シマシタガ、商標法ニ就キマシテモ、商標ノ改正ヲ要スルノハ、不正競争ヲ防ギタイト云フ趣意デアタ、殊ニ戰爭以來現レタ所ノ不正競争ノ一ツハ、自ら使用セザル所ノ商標ノ登錄ヲ受ケテ、長ク之ヲ抛テ置イテ、實際使用スル所ノ商標權者、商賣人ニ迷惑ヲ被ラスト云フコト、之ニ對スル救済方法ハ現行ノ規則ニモアルノデアアル、斯ノ如キ場合ニ於テハ、特許局長ガ其商標ノ取消ヲ爲セト云フコトガアル、隨テ特許局ニ向テ此意味ノ取消ノ申請モ出テ居ルノデアリマス、實際其取消ガ行ハレテ居ラヌ、行ハレルニシテモ甚ダ遲延シテ居ル、ソレハ譯ノアル事デ、特許局長ニ斯ノ如キ事實問題ヲ判斷セト云フノガ無理デアアル、何トナレバ局長ガ證據調ノ權能ナキガ故ニ、甲ハ彼ガ不正競争ヲ爲スト云フテモ、必ズシモ片言信ヲ難シ、然ルニ乙ヲ呼付ケテ之ヲ調ヘルト云フコトハ無論出來ナイ、躊躇遠慮決スルコトハ無イノデアリマス、是ニ於キマシテ今適ノ委員會ニ於テハ、是ハ即チ本來改正ヲ願フ所ノ趣旨ニ適テ居ラヌ、斯ノ如キ場合ニ於テハ審判ニ依テ取消ス途ヲ開キ、利害關係人ハ證據調ノ請求ヲシテ一刀兩斷惡イ所ノ商標ハ取消スト云フ途ヲ與ヘルト云フ改革ヲ致シタノデアリマス、此外政府ノ原案ニ向テハ、吾等同志ハ甚ダ満足セザル所ガ多々アルノデアリマス、殊ニ根本的ニ研究ヲ要スル事ハ、從來ノ通りニ特許ノ審判ヲ法律的ノ構成ヲ有タザル行政官ニ委ネテ宜イカドウカ、憲法ノ

第二十四條ヲ研究スルト云フト、今日ノ特許局ノ構成ハ、明カニ違憲ナルコトガ明瞭デアアル、是ハ審判制度ガ明治二十一年、丁度憲法實施前ニ構成サレタノヲ吾々ハ傳承シテ居ルカラデアアル、之ガ爲メニ生ジテ居ル弊害モ現ニアルノデアリマス、此問題ガ一ツ、ソレカラ特許權ガ十五年ヲ消滅シテカラ後ニ特許ノ延長ヲ許ス制度、特許法ノ第四十三條、此制度ヲ維持スベキカドウカ、之ニ關シテハ從來種々ナル農商務省ニ係リ恐シキ世評ガアルノデアリマス、是ハ世間ニ顯若ノ事デアアル、一體特許ノ延長ト云フ事ハ、特許權者以外ノ營業ノ自由ニ關シマスルガ故ニ、夙ニ特許法ノ母タル英吉利ニ於テハ、特許ノ延長ハ特ニ議會ノ特別法律ヲ以テ許シテ來テ居ル、其後千八百八十三年ニ之ヲ樞密院ノ權限トシ、更ニ千九百七年ノ改正ニ於テハ、最高裁判所ノ權限ニ移シテ居ルノデアアル、佛蘭西ノ特許法ニ於テハ、其第十五條ニ於テハ、特許權ハ法律ニ依ルニ非サレハ延長スルコトヲ得ズト云フ性質ニナシテ居ル、是ガ營業ノ自由ヲ以テ構成サレテ居ル憲法國デハ當然ノ事デアアル、然ルニモ拘ラズ日本ノ特許法第四十三條ハ、勅令ヲ以テ定ムル官廳ニ之ヲ委ネテ居ルノデアアル、如何ニ官權萬能ノ國ト云フヘ、特許權ノ延長ヲ行政廳ニ許スト云フコトハ日本ダケデアアル、併ナガラ是等ノ根本問題ニ觸レ出シマスルト云フト、逆モ今回ノ案ハ成立ノ見込ガ無イ、其故ニ吾々ハ最善ヲ得ルノハ、暫ク距離ガアリマスルガ故ニ、第二ノ善——次善ノ積リデ以テ、本案ニ對シ四箇ノ大修正ヲ加ヘタノデアリマス、即チ期間ノ短縮ト、實用新案ノ公告ト、及商標法ノ取消審判、並ニ特許局ヲシテ今日ノ如ク農商務省内ノ一局トセズシテ、之ニ獨立ノ體面ヲ有ツ特許局長官ナル者ヲ設ケル、此四箇ノ修正ガアレバ、下ウツカウツ吾々ノ希望ノ一端ハ達セラレト云フ目的ガ付キマスル故ニ、此四箇ノ大修正ヲ以テ原案ヲ維持スル積リデアリマス、終リニ此際壇上ヨリ世間ニ告ゲたい事ガアルノデアリマス、今度ノ特許法乃至實用新案法ガ目的ヲ達スルヤ否ヤハ、是ハ今日ハ特許局デナクシテ、世間ノ人ノ責任ニナシテ居ル、特許乃至實用新案ヲ與ヘル以前ニ公告ヲシテ、世間ノ人ニ異議ノ機會ヲ與ヘテ、異議ノ無イモノヲ確定ノ權利ト致スコトニナシテ居リマスルガ故ニ、一般世人ハ爾後ハ今マデト違フテ、特許附與ノ審査三十與スル機會ヲ得テ居ルノデアリカラ、十分ニ此機會ヲ利用シ、例ヘバ各學校各產業組合、同業組合ノ如キニ至テハ、始終特許局ノ公告ニ注意シテ、異議權ヲ行使スル機會ノ失セラレザランコトヲ希望スルノデアリマス、之ヲヤルニ非ザレバ、此度ノ原案若クハ吾々ノ修正案ハ、到底效能ヲ發揮スルコトハ出來ナイノデアリマス、斯様ナ次第ヲ以テマシテ、委員長ノ

報告ノ修正意見ニ賛成ノ意ヲ表スルノアリマス(拍手起ル)

○議長(奥繁三郎君) 直ニ各案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤ御諮リ致シマス

〔第二讀會ヲ開クニ異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(奥繁三郎君) 第二讀會ヲ開クニ御異議ナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○岩崎勳君 日程第二十一乃至第二十五ノ五案ヲ一括議題トシテ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り、即チ委員會ニ於テ修正議決ノ通り可決確定アラシコトヲ望ミマス

〔賛成ト呼フ者アリ〕
○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(奥繁三郎君) 御異議ガ無ケレバ直ニ各案ノ第二讀會ヲ開キマス

特許法改正法律案 第二讀會(確定讀)

實用新案法改正法律案 第二讀會(確定讀)

意匠法改正法律案 第二讀會(確定讀)

商標法改正法律案 第二讀會(確定讀)

辦理士法案 第二讀會(確定讀)

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ

○議長(奥繁三郎君) 日程第二十六乃至第二十八、是ハ同一委員ニ付託シタル議案デアリマスカラ、一括シテ議題ト致シマス、委員長山本悌二郎君

第二十六 米穀法案(政府提出) 第一讀會(續)(委員長報告)

報告書

一米穀法案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月四日

米穀法案委員長

山本悌二郎

衆議院議長奥繁三郎殿

第二十七 米穀需給調節特別會計法案(政府提出) 第一讀會(續)(委員長報告)

報告書

一米穀需給調節特別會計法案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月四日

米穀需給調節特別會計法案委員長

山本悌二郎

衆議院議長奥繁三郎殿

第二十八 罹災救助基金法中改正法律案(政府提出) 第一讀會(續)(委員長報告)

報告書

一罹災救助基金法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月四日

罹災救助基金法中改正法律案委員長

山本悌二郎

衆議院議長奥繁三郎殿

〔山本悌二郎君登壇、拍手起ル〕

○山本悌二郎君 米穀法案、米穀需給調節特別會計法案、罹災救助基金法中改正法律案、本委員會ニ付託セラレタ所ノ議案ハ此三案デアリマス、食糧ヲ充實シ、並ニ其價格ノ平準ヲ保タシメテ、以テ國民生活ノ安定ヲ圖ルト云フコトハ、近時益々其必要ヲ加ヘテ來タノデアリマス、此問題ニ就テハ數年來官民共非常ナル熱心ヲ以テ、研究調査ヲ重ネ來タタノデアリマス、此際ニ於テ政府ヨリ此重大ナル問題ヲ解決スル最初心ヲ試ミトシテ、此立法ヲ提出サレタノデアリマス、故ニ委員會ノ諸君ハ、此問題ノ頗ル重大ナルニ鑑ミラレテ、委員會開催以來非常ナル熱心ヲ以テ、勵精密議ニ當ラレタノデアリマス、連日委員會ヲ開キマシテ、午前ヨリ日没ニ至テ熱心研究ヲ致シタノデアリマス、其結果ト致シテ、此議案ノ頗ル内容重大ナル割合ニハ、比較的短時日ノ間ニ於テ委員會ヲ終了致シテ、爰ニ經過及結果ヲ報告スルニ至リマシタ、此委員諸君ノ熱心ニ對シテハ、委員長トシテ感謝ノ意ヲ表スルト同時ニ、此事柄ハ特ニ本會ニ報告ヲ致シテ置キマス、委員會ノ間ニ起リマシタ質疑應答及討論ノ經過ニ就テハ、其詳細ハ之ヲ速記録ニ讓ルコト、致シマシテ、私ハ爰ニ此本案ニ現ハレザル所ノ、而モ委員會ノ

質疑應答ノ間ニ判明致シタル事柄ノ二三ニ就テ、御報告致シテ置キマス、第一ハ此米穀法ノ第一條ニ掲ゲラレタ所ノ本案ノ目的ニ就テデアリマス、是ハ米穀ノ需給ヲ調節スルト云フコトガ目的トナリ、居リマス、所ガ是ハ米穀ノ數量ノ需給ノミデアラテ、價格ト云フコトニハ毫モ關係ガ無イノデアアルカ、價格ノ點ニ付テハ、此法案ハ別段考慮スル所ガ無イノデアアルカト云フヤウナ質問モ起リマシタ、政府ハ國民生活ノ安定ヲ圖ル、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ、生産者消費者孰レトヲ問ハズ、全體ニ互テ此食糧問題ヲ解決スル爲メニハ、數量ノ調節ト云フコトヲ主トシナケレバ、ナラナイノデアアル、價格ノ變動ハ多ク場合ニ於テ、數量ノ過不足ヨリ起ルノデアアルカラ致シテ、此數量ノ調節ト云フコトヲ致セバ、總テ是ガ即チ價格ノ平準ヲ期スル目的ヲ達スルコトヲ得ルト思フノデアアル、故ニ特ニ此所ニ價格云々ト云フコトヲ掲ゲテ置カズトモ、此法案實施ノ結果ハ、即チ價格ノ調節ト云フコトニモナルノデアアル、斯様ナ答辯デゴザイマシタ、此米穀ノ買入賣却等ノ方法等ハドウスルカト云フ質問ニ對シマシテハ、政府ノ考フル所デハ、米穀調節委員ト云フモノヲ設ケル積リデアアル、ソレハ官吏及民間ノ斯道ニ堪能ナル所ノ人士ヲ網羅シテ委員會ヲ組織シテ、之ヲ諮問機關トシテ、此機關ニ總テ細カナ事ヲ諮問ヲ致シテ實行スル積リデアアル、之ニ對シテハ委員會ノ中カラモ、斯様ナ委員會ト云フヤウナモノヲ設ケテ、到底米ノ買入賣放ト云フヤウナ仕事ニ向テ、機敏ナル行動ヲ執ルコトハ出來ナイノデアナイカ、ソレヨリモ寧ろ當局ガ責任ヲ負ウテ、當局ノ專斷ヲ以テ、之ヲ行ク方ガ宜シイデハナイカト云フ意見モアリマシタ、政府當局ガ之ニ對スル答辯トシテハ、元來非常ニ困難ナル六ヶケシイ仕事デアアル、斯様ナル問題ハ、寧ろ隱微ニシテ機敏ナランヨリハ、公明ニシテ不器用ナル方ガ適當デアルト考ヘル、故ニ委員會ノヤウナモノニ諮問シテ、然ル後ニ實行ヲスルト云フコトニ致シテハ如何ニモ重苦シイヤウニ考ヘルカモ知ラセセヌガ、斯ノ如キ問題ヲ處理シテ行クニ就テハ、寧ろ其方法ヲ適當ニ信ズルト云フヤウナコトデアリマシタ、デ買入方法ノ細目ニ至リマシテハ、例ヘバ買入ノ場所ノ如キ、或ハ買入ノ價格ノ定メ方ノ如キ是等ハドウスルカト云フ質問ニ對シマシテハ、政府ハ大體斯様ナ問題ハ、此調査委員會ニ諮問シテ結果デナケレバ分ラナイケレドモ、政府ノ目下考ヘテ居ル所デハ、先ツ場所ハ全國樞要ノ米穀ノ集散地ノ數箇所ヲ選定シ、其所ニ於テ買收ヲスル積リデアアル、又價格ハ其時ニ依テ違ヒマセウケレドモ、其基準トスル所ハ、要スルニ米穀ノ生産費及米穀ノ時價、是等ノ點ヲ參酌シテ適當ニ定メル積リデアアルノレカラ本年度ニ於テハ、凡ソドレダケヲ買入レルカト云

フ問ニ對シテハ、先ヅ大體三百萬石ト云フ積リテアル、價格ノ點ハ今ヨリ何ト申シ兼ネルト云フコトデアリマシタ、デ此買入レタル所ノ米穀ヲ收容スル所ノ倉庫、是ハ建築ヲシナケレバナラヌカ、若又新築シナケレバナラヌモノデアリナラバ、其費用ハ何レヨリ支出スルカト云フ斯様ナ質疑ニ對シマシテ、政府ノ答フル所ニ依レバ、倉庫ハ追々新設ヲシテ行ク積リテアル、サリナガラ現在米ノ收容ニ適スル所ノ倉庫ヲ、全國ニ互テ調査シテ結果ニ依レバ、凡ソ三百二十萬石内外ノモノハ、今日現在ノ設備ニ於テ收容シ得ルト云フコトヲ認メ得タ、故ニ之ヲ以テ差詰メ間ニ合セテ置イテ、必要ニ應ジテ追々新ナル倉庫ヲ建設シテ行ク積リテアルガ之ニ就テハ米ノ收容ニ適スル技術上ノ調査モ必要デアリシ、且又俄ニ一時ニ新ナル倉庫ヲ建増スト云フ考ハ無イト云フコトデアリマシタ、而シテ此新設倉庫ニ要スル經費ハドウスルカト云ヘバ、是ハ此特別會計ニ許サレテ居ル所ノ二億圓、此資金ノ中デア建設スルト云フコトデアリマシタ、此二億圓ハ特別會計ト致シマシテ、借入金若クハ證券ニ依テ二億圓マデハ働ラヌコトガ出來ルヤウニ、此特別會計ニ依テテナルデアリマシタ、議員ノ中カラハ二億圓ト限定スルコトハ少ナキニ過ギハセヌカ、豊年ガ二箇年モ續イタナラバ、而シテ一箇年ニ米ノ三百石モ四百石モ五百石モ、買入レナケレバナラヌコトニナラナラバ、又斯様ナ年柄ガ二年モ更ニ三年モ續クト云フコトガアッタナラバ、到底二億圓デハ足ラナイノデハナイカ、足ラナイトスレバ即チ投機商ノ乘ズル所トナシテ、米ノ需給ノ安定ヲ脅ス結果ニナリハセヌカト云フ意見モアリマシタ、政府ノ説明ニ依リマシタ、前ニ財政經濟調査會ニ於テ、此案ヲ所謂常平倉ト名ヅケテ討議サレタ、當時ニ於テハ一億圓カ精々一億五千萬圓位デ十分デアルト云フ説デアッタケレドモ、政府ハ特ニ二億圓ノ場合ヲ慮テ、更ニ之ニ五千萬圓ヲ增加シテ二億圓ト致シテアルカラ、先ヅ二億圓ト限定致シテ置ケバ、大體ニ於テ差支ナイノデアアル、若シ二年モ三年モ豊作ガ續イテ、述モ是デハヤリ切レヌト云フ時ニナラヌ、其時ハ法律ノ改正ナリ何ナリ、便宜ノ方法ヲ以テ之ニ應ズルコトガ出來ルノデアラウ、先ヅ平時ニ於テハ大體此位デ宜カラウト考ヘル、斯様ナ説明デアリマシタ、而シテ此米穀法ヲ運用スルガ爲メニ、二億圓ノ特別會計ノ外ニ、更ニ地方ノ罹災救助基金ヲ用井ルコトノ出來ルヤウニ法律ヲ改正致シタト云フコトガ、即チ罹災救助基金改正法案デアリマス、所デ地方ノ罹災救助基金ト云フモノハ、大部分既ニ有價證券其他ニ固定シテ居リマシテ、現今トシテ殘存シテ居ル所ノモノハ、僅カ數百萬圓ニ過ギナイノデアアル、故ニ愈、法ヲ實施スルト云フ時ニナラヌ、地方ニ於テ罹災救

助基金ヲ運用シテ、米穀ノ買入ヲサント欲スル場合ニハ、何レモ其所持スル有價證券ヲ處分シテ、其資金ニ充テナケレバナラヌト云フコトニナルガ、ソレハサセテモ宜イカ、即チ米穀ヲ買入ノ爲メニ、此地方ノ有價證券ト變形シテ、居ル罹災救助基金ヲ現金ニ戻シテ此ノ資源ニ充テシメルコトハ、差支ナイカト云フ質問ニ對シテハ、ソレハ原則トシテハ差支ナイ、即チ此法ハサウニ云フ事ニナルノデアアル、サリナガラ此法案ガ實施サレタカラト云フテモ、直チニ地方ノ罹災救助金ノ中ノ有價證券ヲ片端カラ賣拂テ、ソレデ盛ニ米ヲ買入レシムルト云フ考ハ、政府トシテハ持テ居ラヌノデアアテ、單ニ此法ノ改正ニ依テ罹災救助基金ノ中カラ、米ヲ買フ資金ヲ運用スルト途ヲ開イテ置クト云フコトダケニ承知シテ居テ貴ヒタイ、斯様ナ事デアリマシタ、大體斯様ナ點ガ御聽ニ達スベキ要點デアルト考ヘマス、討論ニ入りマシテ憲政會ノ齋藤守一郎君ヨリ、修正ガ二點ニ就テ提出サレタノデアリマシタ、其修正ハ少數ヲ以テ否決サレマシテ、此委員會ニ付託サレマシタル三案ハ、原案ノ通り大多數ヲ以テ可決サレタ次第デゴザイマス、此段報告致シマス、(拍手起ル)

○議長(與繁三郎君) 本案ニ就テ齋藤守一郎君外六名ヨリ修正意見ガ出テ居リマシタ、是ハ二讀會ノ場合ニ此意見ノ陳述ヲ許シマス、又本案ニ就テハ贊成反對ノ通告ガアリマス、此場合通告順ニ依テ討論ヲ許シマス、反對意見ノ通告者小菅劍之助君

〔小菅劍之助君登壇、拍手〕

○小菅劍之助君 私ハ庚申俱樂部ノ多數ノ贊成ヲ得マシテ、米穀法案ニ對スル反對ノ意見ヲ開陳スルノ光榮ヲ得マシタ、爰ニ其理由ヲ聊カ一言致シマシテ、諸君ノ御清聴ヲ煩シマス、食糧政策ハ直チニ國民ノ生活ニ影響スル大問題デアリマス、故ニ是ガ(分ラヌ分ラヌ)大聲ニ願ヒマス、ト呼フ者アリ、施設方法ニ至リマシテハ、深甚ナル注意ヲ拂ヒ周到ナル用意ヲ以テ、國家百年ノ長計ヲ立ツルト云フコトガ、最モ必要ナ事ト存ジマス然レニ今回政府ガ御提案ニナリマシタ米穀法案ナルモノハ、其内容極メテ杜撰ニシテ(ノウノウ)且ツ缺點ガ多イノデアリマス、(大聲ヲ發シ給ヘト)呼フ者アリ、斯ノ如キ法案ヲ以テ我國ノ食糧政策ヲ解決セントスルハ、得テ望ムベカラザル事デアリマス、(ノウノウ)「ヒヤヒヤ」第一政府ハ二億圓ヲ以テ、如何ナル場合ニ於テモ救濟ノ資金ハ十分ナリト言ハル、モ、本員ハ之ヲ信ズルコトハ出來ナイノデアリマス、假リニ豊作ノ場合ガ二三年モ續クトスレバ、前年ニ買入レシ三百萬石ハ其儘ニナリ、又更ニ三百萬石ヲ買ハネバナラヌト云フコトニナリマス、其場合ニ於テ前年ノ證券ヲ引換ヘバナラヌコトニナリマス、カルガ故ニ直

チ資金ニ不足ヲ生ズルノデアリマス、又凶作ノ場合ニ於キマシテ(分ラヌ分ラヌ)論旨不徹底ト呼フ者アリ)外米ノ買入ニ對シ、二三年モ凶作ガ續ケバ、是亦忽チ資金ノ不十分ヲ生ズルコトニナリマス、隨テ是ガ運用上ニ多大ノ蹉跌ヲ來スコトニナリマス、(ミナラズ、之ニ要スル政府ノ損害ハ八年莫大ナ額ニ上ルノデアリマス、今日ノ如キ財政窮乏ノ時ニ方テ、何ニ依テ之ガ財源ヲ捻出セラレ、カハ知ラザレドモ、直接間接ニ國民ノ負擔ニ係ハルト云フコトハ、爭フベカラザル事實デアリマス、此點ニ就テハ二、考慮セネバナラヌコト、存ジマス、次ニ政府ガ多額ノ米ヲ買上ゲンストスルノニハ其期間ニ於テ相當ノ時日ヲ要スルコトデアリマス、故ニ世間ノ投機者流ハ政府ノ其舉動ヲ察シテ、忽チ米穀取引所ヲ利用致シマシテ定期米ヲ買付クルコト、ナリマス、定期米ハ正米トハ遊ヒマシテ一日ニ數百萬石ヲ買入ル、コトガ出來ルノデアリマス、而シテ政府ガ或ル程度マデ米ヲ買上ゲタル場合、機ヲ見ルニ敏キ投機者流ハ、自由ニ之ヲ轉賣買戻ラシテ、暴利ヲ博スルコト、ナルノデアリマス、其度毎ニ我が經濟界ニ動搖ヲ及ボスコト、ナリマス、又大ニ考慮ヲセネバナラヌ點ガアルノデアリマス、ソレハ物價ト細民トノ關係デアリマス、今日我國ノ重要品タル米、生絲、綿絲、金屬等ハ、最高價值ヨリ見レバ半額以下ニモ下落シテ居リマシケレドモ、細民ノ必要タル所ノ物品ハ、未ダ其割合ニ下落マシテ居ラヌノデアリマス、然レニ財界不況ノ爲メニ收入ハ日々減退致シマシタ、一方ナラヌ困難ヲ致シテ居ル次第デアリマス、獨リ米ノ廉イノハ彼等ニ取リマシテ唯一ノ救濟物デアリマス、然レニ此米ヲ政府ガ買上ラシテ値段ガ高クナルニ於テハ、細民ハ尙ホ一層ノ困難ヲ來スコト、ナリマス、生活ヲ脅カスコトニナルノデアリマス、實ニ是等ノ事ニ對シテハ、爲政者タル者ノ大ニ考慮ヲ拂ハネバナラヌ事ト存ズルノデアリマス、延イテハ我が生産貿易ノ發達ヲ阻害スルコト、ナリ、永遠ニ國家ノ不利益ヲ來スコト、ナルノデアリマス、惟フニ斯ノ如キ法案ハ農家ノ利益ノ所トナリマシテ、一般國民ニハ極メテ不利益ナル政策ナルノデアリマス、(ノウノウ)「總テ政治ノ施設ハ總テ政治ト云フモノハ、國民全體ガ公平ニ且ツ齊シク利益ヲ受クル事ヲ施設モナケレバナラヌノデアリマス、故ニ此食糧問題ヲ解決セントスルノニハ、何トシテモ專賣法ニ依ラズンバ得テ出來ナイノデアリマス、然レニ政府ハ弊害多キ米穀法案ナルモノヲ急遽提出セラレマシタノハ、頃來農家ノ猛烈ナル運動ニ動かサレタル嫌ナキヤト、本員ハ疑ハザルヲ得ヌノデアリマス、若シ果シテ然リトセバ實ニ國家國民ノ爲メニ寒心ニ堪ヘヌ次第デアリマス、之ヲ要スルニ其弊害ノ及ボス所ハ極メテ廣汎デアリマス、本案ノ如キハ實ニ國家ノ重

要問題アリマス、故ニ諸君ニ於セラレテモ政黨政派ノ觀念ヲ去テ、黨議ニ拘泥シテ盲從スルコトヲ止メ、眞ニ國家ノ立場ヨリ考慮セラレテ之ガ可否ヲ決セラレンコトヲ切ニ望ム次第アリマス(拍手)

○議長(與繁三郎君) 長田桃藏君
(長田桃藏君登壇、拍手起ル)

○長田桃藏君 米穀法案外二點ニ對シテ、原案賛成ノ意見ヲ述ベタイト考ヘマス、米穀法案ハ恰モ農業生産家ガ米價ノ下落ニ當テ非常ニ困難ヲ感ジテ、彼等生産品ノ下落ヲ防止シテ、相當ノ市價ヲ維持センガ爲メニ、農家ガ今日迄當テ爲サマリシ所ノ英斷ヲ以テ、大團結ヲ致シサウシテ、自己生産品ノ市價ノ維持ヲ努メル状態ニ相成タコトハ、社會ガ特ニ認メテ、非常ナル農家ノ英斷トシテ居タ所デアリマス、府縣農會及郡農會等ガ驟起ヲ致シ、非常ナル熱心ヲ以テ、府下帝國農會ノ建物ノ下ニ集テ有ル方法ヲ以テ自家ノ生産品ノ市價維持ヲ圖ルト云フコトヲ致シタノハ、吾々ノ判斷ヲ以テ致シマスレバ、實ニ農家ノ一大自覺ナリト私ハ信ジテ居ルノデアリマス、固ヨリ農家ノ一大自覺ガ反對ニ消費者ノ脅威トナルコトハ、是ハ免ルベカラザル事デアリマス、生産者ガ満足ヲ得レバ消費者ガ不満足ノ結果ヲ生ズルコトハ當然デアリマス、併ナカラ諸君、大正七年彼ノ米價ノ暴騰ヲ未ダ記憶ヨリ取除クコトガ出来ナイノデアリマス、彼ノ場合ニ於テ所謂食糧ノ不足ノ爲メニ、非常ニ市價ガ騰貴ヲ致シ、國民ガ非常ニ困難ヲ感ジテ、遂ニ米騒動ナルモノヲ惹起シタノデアリマスガ、彼ノ場合ニハ如何デアリマシタラウ米ノ不足ヨリシテ、日本ノ人間トシテハ特有ノ食糧ヲ持テ居テ、歐米各國ノ共通セル麥粉ニ依テ、生活ヲ營ムコトガ出来ナイノデアアル、日本國民特有ノ食糧品ナル物ガ不足ヲ致シテ、ソレガ爲メニ六千万同胞ハ如何ナル高キ代價ヲ拂テモ、其食糧ヲ求メナケレバナラナイ、窮境ト陥リタノデアリマス、此窮境ニ陥ル場合ニ於テ、識者タルト或ハ不識者タルトト問ハズ、ドウニカシテ自己ノ食糧ヲ充實シテ置カネバナラヌト云フ考ハ當然起ルモノデアアル、故ニ當時ノ政府ハ、所在ニ於ケル原野地ヲ開墾シ、其開墾ノタメニハ開墾助成法案等ヲ作テ、大ニ作付段別ノ多カラシコトヲ努メタノデアリマス、又府縣ニ於テハ大ニ熟田ノ改良進歩ヲ圖テ、其收穫ノ増加ヲ努メテ居タノデアリマス、斯様ニシテ米穀ノ增收ヲ圖リ、食糧ノ充實ヲ圖ルト云フコトハ、天下何人モ反對スル者ハ無カトデアリマス、而シテ農家ハ政府ノ指導、府縣ノ指導ニ基キテ、出来得ル限リ作付段別ニ殖スト同時ニ、有ル限リ肥料ノ努力ヲ惜マズ、十二分ニ收穫ノ増加ヲ圖タノデアリマス、圖々結果ガ諸君如何デアリマセ

ウ、只今生産者ノ自覺ガ偶、消費者ノ脅威トナルト云フコトヲ申上ゲマシタガ、即チ米ノ不足ニ依テ脅威セラレタ方ニ慰安ヲ與ヘンガ爲メ、政府及生産者ガ努力ヲ協セテ獻テ得タ所ノ米ノ收穫ガ、終ニハ食料以外ニ剩餘ヲ生ズルト云フ結果ヲ生ジタノデアリマス、此結果ガ終ニハ米穀ノ市價ヲ暴落セシメルニ至ラザラバ、隨テ暴落ニ不足ノ爲メニ消費者ノ脅威サル、ガ如キ大暴騰ヲ生ジ、今日ハ生産者ガ餘剩ノ米ヲ懷イテ泣カネバナラヌ程米價ガ暴落ヲ致シテ居ル其暴落ノ結果ハ諸君如何ニナルデアリマセウ、總テ今日迄作付段別ノ増加シテ、或ハ熟田ニ對シテ肥料努力ヲ惜マズスルト云フコトハ、偶、數量ニ目的ヲ達セシモ、價格ニ於テ反對ノ結果ヲ生ズルモノト農家ガ自覺シタル場合、サウシテ本年ノ植付ガ最早目躰ノ間ニアルト云フコトヲ想像シタナラバ、必ズヤ農家ハ自己ノ居住地ヨリ遠方ニ在ル所ノ田地ニ對シテハ、最早本年ハ作付ヲ廢スル、或ハ高キ肥料、或ハ尊キ努力ヲモ、去年ノソレノ如ク加フルト云フコトハ手控ヘル、是ハ諸君當然ノ結果デアリマス、斯様ニ致シテ本年ノ收穫米ヲ想像シタナラバ、假令天候ガ我國ニ幸ヒ致シマスルモノト假定シテモ、其得ル所ノ收穫ハ私共ハ、豫想ニ反スル大ナルモノアルコトヲ信ジテ疑ハナイノデアリマス(拍手)此理論ノ歸結ガ誤デナケレバ、今消費者ガ呪フ所ノ此米ノ市價ヲ騰ゲルト云フ結果ヲ生ズル所、或ル施設ガ、之ヲ爲サナカッタラバ、總テハ大正七年ト同ジヤウナ自己ノ食糧ニ不足ヲ感ジ、大暴騰ヲ來スト云フコトノ結果ヲ生ズルコトハ明カデアリマセウ(拍手)然ラバ此案ニ對シテ生産者ヲ保護スルコト云フ結果ニ依テ、消費者ガ此案ヲ呪フト云フガ如キハ、全く近視ノ批評デアルコトヲ免レズト思ヒマス(拍手)私共ハ此案ヲ議スルニ當テ、政府ノ説明ヲ悉ク聽取致シマシタ、政府ハ必ズシモ農家ノ聲、帝國農會其他ノ大運動ノ結果ヲ見テ、此案ヲ提出シタノハナイノデアリマス、固ヨリアノ熱烈ナル運動ト、誠意ヲ單メタル主張ト當局ノ心ヲ動かスニ足ルモノアリシハ信ジテ疑ヒマセウ、即チ日本開關以來ノ、私ノ見ル所ヲ以テスルト、斯様ナ農民ノ自覺ハ未ダ會テ無イト感ズル程ノ、アノ尊敬スベキ自覺ガ、此案ヲ早く提出セシムルニ至ラザラバ、原動力タリシハ、私ノ信ジテ疑ハナイ所デアリマセウ、政府ノ説明ニ依レバ、此案ナルモノハ餘程以前ヨリ取調ガ著イテ居テ、サウシテ更ニ經濟財政調査會ノ審議ヲ經テ、常平倉案ナルモノニ近キ或ル一案ヲ得ント欲シテ、漸ク爰ニ成案ヲ得ラレタノデアルト云フ説明デアリマス、成程此説明ヲ見マスト、法案ノ内容ハ委員長ノ説明セラレマシタ通りニ、數量ト云フモノニ依テ食糧ノ調節ヲ圖ルト云フコトニナラセ居ル、農家ノ所謂市價ヲ

釣上ゲテ、目前ノ利益ヲ得ヤウト云フ案ト一致ヲ致シテ居ラナイノデアリマス、此點カラ見マシテモ、消費者側ニ如何ニ現政府ガ甚大ナル注意ヲ拂タカト云フコトヲ見ルニ足ル、決シテ農家ニノミ阿テ、此消費者側、商工業者ノ爲メニハ、少シモ考慮シナカッタト云フ案デアアリマセウ、故ニ此案ノ生レタリシ其動機モ正シク、此案ノ内容モ只今申スガ如キ價格ト云フモノヲ考ヘズニ、數量ヲ專門ニ考ヘタト云フデアリマスカラ、之ニ反對セラル、人ハ私共ハ無イト考ヘテ居ル、固ヨリ市價ナルモノヲ開却シテ調節ノ出來ナイト云フ議論ハ、一面ノ眞理デアリマセウ、今日マデ幾多國家ニ對シテ損害ヲ與ヘナガラモ、其調節ノ目的ヲ達セ得ザリシ歴史ハ明カデアリマス、如何ニ政府ノ力ヲ以テ努力致シマシテモ、物價ノ市價、物價ノ價格ナルモノヲ、人力ニ依テ左右スルト云フコトハ至難ナ事デアリマス、如何ニ致シマシテモ此市價ナルモノハ自然ニ任セテ置クト云フ方ガ、産業發達ノ上ニ於テ利益アリト政府ハ考ヘテ居ルノデアリマス、吾々亦政友會ニ居リマスル者モ、此説ヲ以テ正シキモノナリト考ヘテ居ルノデアリマス、故ニ此米穀ノ調節ヲ致シマスル場合ニ於テモ、數量ヲ土臺ニシテ調節ヲ圖リタガ、即チ農家ガ今八釜シク言ヒ、農會ガ非常ニ叫ンデ居ルガ如ク、此數量ニ於テモ餘剩ノアル大正九年度ノ産米ノ如キ場合ニ於テ、始メテ政府ガ之ニ買上ラスル買上ラシテ之ヲ貯藏シテ置イテ、他日此所謂大正七年度ノ如キ大不作、非常ニ大暴騰ヲスル食糧ニ困難ヲ感ズルト云フヤウナ場合ノ起リタキニ、此貯ヘタル米ヲ賣拂テ、サウシテ消費者ニ向テ廉キ米ヲ與ヘルト同時ニ、其價格ノ暴騰ヲ成ルベク押ヘテ平準ニ近キモノニシヤウト云フ、所謂食糧政策ノ根本ニ觸レタル一大國策ヲ樹立シタノデアリマス、私共ハ此案ニ對シテ敬意ヲ拂テ之ヲ調ベマシタノデアリマスガ、唯ダ委員會ニ於テ憲政會ノ諸君ヨリ、此案自體ニ對シテハ反對デハ少シモナイ、併シ足ラザル所ヲ補足スルト云フ意味ヲ以テ修正案ガ出テ居リマス、(ヒヤ)ソレハ特ニ申シ上ゲテ置カネバナラナイノハ、此米穀法案外三案ニハ反對デハナイノデアアル、足ラザル所ヲ補ウテ、完璧ヲ期センガ爲メニセラレタト云フコトデアリマス、其主體ハ只今申上ゲタ價格ノ調節ト云フコトモ爰ニ掲ゲテ置クト云フコトガ、即チ數量ノ調節ト、價格ノ調節ト併セ行フト云フコトガ、本案ノ目的ヲ達スルノニハ、全キ結果ヲ生ジハセヌカト云フ意味デアリマス、併シ吾々モ左様ニ考ヘル節モナイデアリマセウケレドモ、價格ト云フモノヲ調節ノ目的ニスルト、或點ニ於テハ市場ノ仲買人ト競争ヲシテモ、目的ヲ達センケレバナラヌヤウナ虞アル場合ガ起ルト思フ、故ニ

私共ハ價格ト云フモノハ從タル結果ニ待テ、主タルモノノハ矢張數量ノ調節ニ置クト云フノガ、正シキ議論ハナカラウカト考ヘルノデアリマス、此意味ニ於テ私共ハ修正案ニハ贊成ヲセザリシ者デアリマス、ソレカラ今一ツハ國民黨ヨリ出デマシタ案デアリマスガ、原案ハ固ヨリ贊成デアレドモ、之ガ運用ハ最モ大切ニシテケレバナラヌト云フ議論、是ハ私モ全然同感デ、政友會黨員全部此案ニハ異論ハ無いノデアリマス、併ナガラ政府ガ此食糧政策ニ對シテ、今日ヲ以テ最モ大切ナル時機ト認メテ、歴代ノ内閣之ヲ行ハザリシヲ、一大英斷ヲ以テ此案ヲ既ニ出シテデアリマス、政府各決スル所アテ出シテ居ルノデアアル、サウシテ本年ノ産米ハ、最モ此案ヲ施行スルノニ適當ナル時機ナリト答辯ヲ致シテ居ルノデアリマス、故ニ此法律案ノ效力發生スルト同時ニ、政府ガ之ヲ行フニ於テハ、相當ナル熟慮審議ヲ以テ致スモノト、吾ガ解釋シテ差支ナイト考ヘマス、況ヤ憲政會ノ方カラ修正案ノ出テ居リマス所ノ此法案ノ運用ニ對シテハ、米穀ノ需給調節委員會ト云フモノヲ設ケテ、委員會ニ諮問ヲシテ行カウト云フコトデアアル、是ハ法律ニ之ヲ設ケルト云フコトデアリマスケレドモ、政府ハ之ヲ法律ニ書カズトモ、明カニ勅令ヲ以テ米穀ノ調節委員會ナルモノヲ造ル、其組織モ勅令ヲ以テ之ヲ定メル、ソウシテソレニ對シテ買上モ或ハ賣渡モ、貯藏モ、代價モ、時機モ、數量モ全部協議ヲシテスルト云フコトヲ、委員會ニ於テ言明ヲ致シテ居ルノデアリマス、既ニ此言明ガアリマス以上ハ、政府ハ十二分ニ此案ノ實行ニ對シテ考慮ヲ拂フト云フコトハ、私ハ誠意ガアリテ之ヲ言明スルモノナリト認メテ差支ナイト考ヘルノデアリマス、隨テ此案ニ之ヲ掲ゲネバナラヌト云フ必要ヲモ私共ハ認メナイ、況ヤ政府ノ説明ニ依ルト、此委員會ナルモノハ全ク所管大臣ノ諮問ニ應ヘルノ府デアルト云フコトデアリマス、即チ責任ハ最モ輕キ意味ニ於ケル——國民ニ對スル直接ノ責任ハ最モ輕キ意味ニ於ケルトモ勅令ニ定メテ、大臣ノ所謂智能ヲ啓發シ、能ク十二分ノ事ヲ裁量スルコトノ出來ルヤウナ材料、及智識ヲ提供スル所ノ府ト見テ、私共ハ置イテ差支ナイト考ヘルノデアリマス、故ニ是モ亦憲政會ノ諸君、最モ御注意深キ法律案ノ修正デアリマスケレドモ、之ニ贊成ヲセザリシ譯デアリマス、唯ダ此場合ニ於テ申上ゲテ置キマス事ハ國民黨ノ諸君ヨリ、此案ノ實行ニ對シテハ、最モ注意ニ注意ヲ加ヘネバナラヌト云フ御警告ノ御言葉デアアル、是ハ政府モ吾モ特ニ尊重シテ居ルノデアリマスソレカラ今一ツ本問題ニ對シテ申上ゲテ置カナケレバナラナイノハ此罹災救助基金ナルモノガ六千万圓程ゴザイマ

シテ其中今日原因ニナテテ居リマスモノハ、政府ノ説明ニ依ルヤト三百万圓程ゴザイマス、之ヲ直チ半ノ買上ノ資本ニ供シテモ宜シト云フコトデア、本案ノ改正ガ出來タノデアリマスルガ、之ニ對シテ憲政會ヨリハ、米ノ買上モ宜イケレドモ、或ハ農業倉庫、或ハ産業組合ト云フモノニ對シテ、其罹災救助組合ナルモノヲ流用サセル、所謂低利資金ヲ以テ流用サセルト云フコトニ修正シテハドウカト云フ、修正案ガ出タノデアリマスケレドモ、之ニ對シテ政府ノ意見トシテハ、此罹災救助基金ト云フモノヲ、其罹災救助ノ目的ノヤウニ諒解シ、釋明シテ言ヘバ米ヲ買テ置クト云フコトモ、其目的ノ一部ニ副場合モアルノデアリマス、斯様ナ考カラ、此立法ノ改正ガ出來タト云フコトデアリマシテ、憲政會諸君ノ言ハル、如ク、假令三百万五百万ノ金デモ、農業倉庫若クハ産業組合ニ低利資金ヲ貸出サレルコトハ、吾モ最モ是ハ贊成スル所デアリマスケレドモ、又左様ニアリタキコトヲ希望スルノデアリマスケレドモ、此罹災救助基金ノ目的ガ達スルノ代ニテ、其罹災ノ場合ニ於ケル救助ノ目的ヲ達スルノガ、是ガ本基金ノ起テ所ノ原則デアルト云フコトニ鑑ミテ、茲ニ低利資金ヲ以テ、農業倉庫若クハ産業組合ニ貸與ヘルト云フコトガ、或ハ其目的ニ遠ザカリハシナイカト考ヘル、故ニ此農家若クハ農業倉庫、或ハ産業組合等ニ低利ヲ貸出シテ買上ト云フ問題ニ對シテハ、別ニ吾ガ努力ヲ致シテ居ルノデアリマス、先輩ノ力ト相俟テ、此目的ヲ更ニ他ニ求ムルコトニ致シテ、私共ハ此罹災救助基金ノ中カラ之ヲ低利資金ニ流用スルト云フコトノ修正案ニハ反對ヲ致シタノデアリマス、デス様ニ申上ゲマシタナラバ、私共ハ徹底セザリシ——音聲低キガ爲メニ徹底セザリシ小菅君ノ反對ノ御意見ヲ、私共愛ニ辯駁スルコトノ出來ナイコトヲ遺憾トスルノデアリマスガ、私ガ上來申上ゲマシタヤウナ贊成ノ意見ノ下ニ、小菅君ノ御議論ニ對シテ多少ノ反駁ガ出來タコト、私ハ信ズルノデアリマス、唯ダ一言附加ヘテ置クベキハ、小菅君ガ委員會ニ於テ述ベマシタガ、反對理由ガ四箇アリマス、其點ヲ簡略ニ私共ハ反駁シテ置キタイノデアリマス、(一)反駁ハ要ラナイ、(二)反駁ノ必要アリ、(三)是ハ反駁ノ必要ガアリマス、(四)必要ハナイト呼フ者アリ、其必要ハ後カラ言ヒマス、暫ク御聽ナサイ、(一)謹聽、小菅君ハ第一ニ二億萬圓位ノ金デハ豐作ノ場合モ凶作ノ場合モ到底食糧ノ自足自給ノ目的ヲ達スルモノデアナイト云フコトヲ言ハレタノデアアル、是ハ御尤ノ議論デアリマス、政府亦此法案ハ食糧問題ニ對スル國策ノ試デアアル、第一ノ試デアアルカラ之ヲ成ベク巧ミニ官民一致シテ運用ヲ致シテ、サウシテ豐年ガ二年モ三年モ續キ、或ハ凶年ガ二年モ三年モ續クト定メタトキニ

ハ、相當此資本金ノ大ナルコトヲ要求スルコトモアルグラウ、斯様ナ場合ニハ又此資金ヲ殖シテ構ハヌデアナイカト迄、碎々ト説明ヲシテ、居ル點ニ於テ此二億萬圓ト云フコトヲ小菅ニ取テノ反對論ハ、最早根本ノ價值ガ無いト思フノデアリマス、(拍手起ル)ソレカラ仲買人ニ利用セラル、虞ガアルト云フコトデアリマス、此點ニ對シテモ政府ハ極メテ痛切ナル説明ヲ致シテ居タ、定期市場ニ於ケル仲買人ノ受授スルノデアアル、米ナルモノハ、最モ惡キ米ヲ標準米トシテ受授スルノデアアル、故ニ左様ナ米ヲ以テ參テモ、其商人カラ直チニ政府ノ買上ゲル所ノ米ノ品格ニハ、合格シナイグラウト信ズルト云フコトヲ言テ居ラレル、是モ亦事實ニ對シテ最モ痛切ナル説明ヲシテ居ル、更ニ進ミテ小菅君ハ政府ガ米ヲ買フト言フテモ、二百萬石三百萬石ノ米ハ容易ニ買ヘルモノデアナイ、左様ニ色々ノ手段方法ヲ講ジテ居ル中ニ、機敏ナル仲買人ガソレヲ悟テ先ヘ米ヲ買テ米ヲ高クスルカラソレニ服從シテ政府ガ行カネバナラヌ、米ガ買ヘナイト云フコトニナテ、結局商人ノ思フヤウニナルト云フコトノ御批評デアリマシタ、此點ハ私共ハ政府ガ此法律案運用ノ場合ニ於テ、最モ大切ニ調査ヲシ、及實行ヲ爲サネバナラヌ點ナリト云フコトヲ信ジマス、隨テ政府ガ全國農家ノカラ藉リテ此米穀ヲ集メル回收シテ買上ゲルト云フコトモ、其一ツナリ、相當此仲買人若クハ商人ニ、此法律ヲ運用セラレザルヤウニ努メラレト云フコトハ、私共ハ此法律ノ運用ニ於ケル當局ノ、重大ナル責務デアルト云フコトヲ認メマスケレドモ、其結果ヲ豫知シタト云フコトニシテ、此大切ナル法案ニ反對スルト云フコトニハ、私ハナラナイト信ズルノデアアル、(拍手「ヒヤ」)殊ニ只今ノ御言葉ニ依テ存ジマシタ外米ノ問題——外米ノ問題等モ、此法律案ヲ適用スルニ就イテハ大切ナモノデアアル、隨テ本案ニ對シテハ輸入禁止ガ記載シナイ、輸入制限ガ記載シアルノミデハ、甚ダ輕弱デアルト云フ說モアルケレドモ、政府ハ此禁止ト云フコトニ對シテハ、外交上ノ關係等ガアテ、之ヲ直チニ國內法ニ定メルト云フコトハ至難デアルケレドモ、目的ハ禁止ニ近キ制限ヲスルコトガ出來ルノデアアル、故ニ此點ニ於テモ、別ニ心配ナイト云フコトノ言明ヲ得テ居ルノデアリマスカラ、之ニ對シテモ仲買人利用ト云フコトニ依テ本案ニ反對セネバナラナイト云フ理由ヲ私ハ發見スルコトハ出來ナイノデアリマス、(拍手起ル)又此米ヲ今度買上ゲルト云フト、現在ヨリ高クナルグラウト言フガ、左様ニ直チニ大高下ガアルカドウカト云フコトヲ私ハ疑フノデアアルケレドモ、小菅君ハ本案運用ノ場合ニ於テハ、米穀ノ市價ガ非常ニ暴騰スルグラウ、高クナルグラウト言テ居ラレル、高クナラナラバ、下層ノ消費者ニ向テ非常ナル脅威ヲ與フルコ

トニナレハナイカ、是ハ社會政策上由々シキ大事デアルト
 言フ、此點ヲ最モ力説サレタノデアリマス、レドモ、此問題
 ニ對シテハ、前段ノ原案賛成ノ理由ニ依リテ盡キテ居ルノ
 デアラウト思ハレル、現在更ニ米ガ廉イカラシテ、是ガ高クナ
 ルコトニ依リテ、消費者ガ苦情ヲ言フコトガ出來ルケレドモ、
 大正七年ノ從ノ高イ時分ニ五百万石ノ米ヲドウシテ是ガ
 買出サレタト云フ彼時ノ幸福ヲ想像スルナラバ、只今ノ反
 對ナゾハ、全然私ハ道理ノ無イ議論ナリト考ヘルノデアリマ
 ス、(拍手起ル)小菅君モ恐ラク實業家ノ立場カラ斯様ニ言
 ハレルノデアリマセウケレドモ、法律ノ效力ハ悠久デアアルノ
 アリマス、現在ノミヲ思フテ將來反動ノ起ル時ニ、如何ニ消
 費者ニ向テ多大ノ幸福ヲ與ヘル所ノ法律デアアルカト云フ
 コトヲ少シモ考ヘズニ、只今ノ事ヲ考ヘテ反對ナサルト
 云フコトハ、同君ノ爲メニ取ラヌノデアリマス、(拍手起ル)又
 此結果ガ産業貿易ヲ阻害スルト云フコトヲ仰シヤクノデア
 リマス、是ハ申スマデモナク物價ガ徐々ニ廉クナル、此場合ニ
 於テ米モ段々廉クナル、廉クナレバ所謂紡績其他ノ貿易品
 ノ生産費ガ廉クナル、生産費ガ廉クナレバ、始メテ貿易ガ盛
 ナルノデアアルカラ、此生産費ヲ高クスルヤウナ法律案ハ、産業
 ヲ阻害スルト云フ結果ヲ生ズルト云フ御議論ニナツタノデア
 リマスケレドモ、是トテモ餘程ヘナケレバナラヌコト、思フ、私共
 ハ米ナルモノ、價格ガ非常ニ廉クテ、昨年度ニ於テハ施シタ
 肥料ノ代價モ拂ヘズ、昨年度ニ施セル勞銀ノ回收モ出來ヌ、
 肥料モ施サズ、勞働モ吝ムト云フ状態ニシテ置イタナラバ、
 内地ノ購買力ハ零デアリマス、今マデ外國貿易ノ不振ナル
 場合ニ於テ、内地ノ購買力ガ彌ガ上ニモ減少致シマシタ場
 合ニハ、果シテ諸君ガ言ハル、産業貿易ト云フコトガ、其以
 外ニ立テ勢力ヲ逞シウスルコトガ出來ルデアリマセウカト
 私共ハ考ヘマス、産業貿易ニ從事セラル、方々ガ、國家ノ事
 ニ盡力セラル、ノハ結構デアルケレドモ、日本内地ニ於ケル
 過半数ノ農民ガ、自己ノ生産ニ對シテ適當ナル報酬ヲ得ル
 コトガ出來ズ、非常ニ困憊シテ居ル状態ヲ顧ミズシテ、國
 家ノ産業貿易ノ盛ニナラヌコト云ウテモ、國家ニ利益アル
 モノト決シテ考ヘマセヌ、私ハ斯ル場合ニ於テ、産業貿易ニ
 對スル生産費ガ多少高キ値段ニ著イテモ、國家國民ノ生活
 ノ安定ト、其得ル所ノ收穫ガ適當ニ按排セラレテ、而シテ後
 ニ國家ノ大發展ヲスルコトヲ希望シテ燒マナイノデアリマス、
 故ニ此點ニ對シテモ米穀法案以下二案ニ對スル反對ノ理由
 由トハナラナイト考ヘルノデアリマス、斯様ニ愚説ヲ陳述致
 シマスレバ、略、私共ノ意ノ在ル所ハ御諒解下スコトヲ信
 ジテ疑ヒマセヌ、唯々私共ガ最後ニ諸君ニ訴ヘテ置キタイノ
 ハ、此米穀法案ナルモノガ、委員會ノ形勢ニ依ルト、憲政會

モ賛成デアリマス、政友會ハ勿論ノ事、國民黨モ賛成デアリ
 マス、唯々小菅君一人ガ委員會反對デアッタカラ、小菅君
 若クハ小菅君ト同意見ヲ有スル僅ナ方ダケガ、本案ニ反對
 セラル、モノト私ハ信ジテ居ル、隨テ米穀法案ナルモノハ、
 政府ガ一大英斷ヲ以テ食糧ノ自足自給ノ下ニ立テテ此大
 法案ハ、苟モ政黨ト名ノ付クモノハ、殆ド黨ヲ擧ゲテ大賛成
 ノ案デアルト云フコトデアリマス、若シ政黨ト云フモノガ全
 部此案ニ賛成シテ居ルト云フコトデアレバ、委員會ヲ通ジテ
 何人モ議論ナカリシコトハ、本案ノ效力發生以前デモ構ハ
 スカラ、成ベク早く本案ノ目的ニ適フヤウニ米ノ買入ヲシテ
 費ヒタイト云フ希望デアリマシタ、此希望ガ既ニ委員會ニ
 於テ全會一致ノ状態デアリマス、本案ニ對シテハ全部ドノ
 政黨モ賛成デアルト云フコトガ議論デアナイ、事實デアッタノ
 デアリマス、既ニ是ガ事實デアッタトスレバ、ドウカ此目ノ適
 フヤウニ努メタイノデアリマス、勿論本會ニ於テモ滿場一致
 ノ御賛成ヲ望ムト同時ニ、貴族院ニ於テモ、此國民ノ意思
 ト、此議院内ニ於ケル空氣ヲ能ク諒解セラレテ、一日モ早く
 本案ノ效力ヲ發生スルヤウニ、原案ヲ可決セラレンコトヲ希
 望シテ此壇ヲ降ルコトニ致シマス、(拍手起ル)

〔前川虎造君登壇〕

○前川虎造君 此問題ニ於テ居ル三案ニ大賛成ヲ
 致ス一人デアリマス、賛成スルナラバ、今長田君ガ大分述
 ベラレタノデアアルカラ、私ノ述ベル必要ハ無イノデアリマス、
 元來此法律上カラ見レバ極メテ無味乾燥ノ案デアリマス、
 實際ノ働ハ何所ニ在ルカト云ヘバ、法文ハ陰ニ隠レテ居ルノ
 デアリマス、ドウ云フ事ガ隠レテ居ルカト云フト、即チ需給調
 節委員會ヲ組織シテ是價價格ヲ定メ、又買入ノ石數モ
 定メ、ソレカラ買入ノ場所モ之ニ依リテ定メ、斯ウ云フノ
 デアリマスカラ、法文ノ上ヨリハ、此運用上ニ於テ多大ノ關
 係ヲ持ツ案ニナツテ居ルノデアリマス、是ニ於テ吾々ハ勢ヒ運
 用上ニ就テ、政府ニ多少ノ注文ヲシナケレバナラナイ、即チ
 吾々ノ賛成スルニ就テ警告ガ件ヲ所以デアリマス、元來米
 ナル物ハ特殊ノ物ニ相違ナイ、日本デ作テ日本デ食フ、外
 國ニ賣レナイト云フ性質ノ物デアアルガ、外國デ作テ米ハ吾々
 ハ食フノデアリマス、故ニ米ハ外國カラ來易イ物デアッテ、
 外國ヘハ賣レ難イ物デアルト云フコトハ諸君モ御存ジノ事
 デアル、殊ニ此委員會ニ於テ朝鮮ハ生産費ガ廉イ故ニ朝鮮
 米ノ移入ト云フコトニ就テハ、内地米ガ非常ニ壓迫ヲ受ケ
 ルト云フコトヲ言ハレタ諸君ガ大分アリマシタ、併ナガラ一
 歩前ニ進ンデ、西貢米ハ如何ナル有様ニ依リテ依ラレテ居ル
 カ、殆ド耕作ヲ要セズ、肥料ヲ施サズシテ自然ニ出來ル米デ
 アリマス、此生産費ノ方ガドノ位廉イカ知レヌ、朝鮮ヤ臺灣

ノ比デアリマセヌ、故ニ現在ニ於テモ西貢米ガ總テノ費用
 ヲ差引キ、關稅ヲ拂ツテ、橫濱等ノ商人ノ手ニ渡ルノガ一石
 十五圓内外ト云フコトデアリマス、十五圓内外ト云ヘバ、今
 廉イト言フテ居ル日本ノ二十五圓ニ比シテ、其價值ガ十圓
 デアリマス、斯様ナ外米ノ輸入ヲ自然ニ抛テ置イテ、サウシ
 テ内地米ノ需給ノ調節ヲシヤウトシテモ、ソレハ實ニ至難ト
 事ト吾々ハ考ヘルノデアアル、ソレノミナラズ一言諸君ニ申上ダ
 ナケレバト云フコトヲ思フ、買入レルト云フコトニ就テモサウデ
 ル、唯ダ買入レルト云フコトハ、勿論政府ガ三百万石或ハ五
 百万石ノ石數ヲ買入レルト云フコトハ、何等御苦心デアリマ
 スマイ、今日地方ニ米ヲ持テ苦シシテ居ル者ガ澤山デアリマ
 スカラ、是等ニ向テ政府ハ直接買入ノ方法ヲ御執リニナレ
 バ、買フコトハ樂ニ出來ル、併ナガラ此米ヲ政府ガ買換ヲ致ス
 カ、或ハ又市場ニ賣下ゲルト云フコトニハ、ドウ云フ關係ニナ
 ルカ政府ハ各米ノ需要者ニ向テ、直接需要者ニ御賣リニ
 ナルカ需要者ハ五升或ハ三升ノ米ヲ買ニ行クニ、一地方一
 地方ノ集散地ニ出掛ケテ行テ買フト云フコトガ出來マス
 カ、必ズ地方々々ノ米ノ小賣人ノ手ヲ經テ賣ルヨリ外仕方ガ
 ナイ、サウ云フ場合ニ此米ヲ賣ルトキハ非常ニ混雜ヲシテ、
 商人ニ乘セラレルト云フ虞ガアルノデアリマス、ソレカラ之ヲ
 買換ヘルトキモサウデアリマス、別ニ豫告モセズ、政府ガ不知
 不識ノ間ニ買換ヲ致スト云フノデアアルガ、買入レル時
 期ニ果シテ市場ヲ壓迫セザルヤ否ヤ遺方ニ依レバ、壓迫
 セヌ方法モアリマセウガ、遺り方ニ依レバ非常ニ壓迫ヲ受ケ
 ルノデアリマス、是等ノ運用ノ妙ノ存スル所ハ即チ調節委員
 會デアアル、故ニ調節委員會ハ實ニ重大ナル責任ヲ有シテ居
 ル、ソレデ只今委員長ノ報告モアリマシタガ、此案ハ經濟調
 査會ニ諮問サレタル、常平制度ノ變化シ來タモノデアルト
 云フコトヲ言ハレタガ、吾々モサウ思フ、所ガ經濟調査會ハ諮
 問サレタノハ常平制度バカリデアリマセヌ、詰リ食糧政策
 如何ト云フ中ニ、常平制度ガアルノデアリマス、其中ニハ低
 利資金ヲ供給シト云フ一箇條モアルノデアアル、又此水利
 ノ便ヲ著ケテ、少シデモ米ノ餘計出來ルヤウナ方法ヲセヨ
 ト云フ一箇條モアルノデアアル、又開墾助成法ニ補助金ヲ増
 シテ、(ドン)開墾ヲ盛ニセヨト云フコトモアルノデアリマ
 ス、ソレカラ取引機關ノ改善ト云フコトモアルノデアリマス、
 然ルニ此食糧問題ト云フコトヲ財政經濟調査會ヘ御諮問
 ニナツタ、其中特ニ此一問題ガ切實シテ政府ガ御出シニ
 ナツタト云フコトヲ、私ハ非常ニ遺憾ニ感ズルノデアアル、此法
 案ト共ニ何故ニ取引所ノ改正ヲナサヌカ、取引機關ノ改
 善ヲ爲サナカッタナラバ、ドウシテモ完全ニ米ノ調節ガ出來
 ナイト云フコトヲ政府自ラ御認ニナツテ、經濟調査會ニ御諮

問ナニテ居ルノデアアル、又經濟調査會モ是デハイケマセヌ改善ヲ致サナケレバナラヌト云フコトヲ答申シテ居ルノデアアル然ルニ唯ダ其中ノ一箇條、彼ノ食糧問題デアアル——澤山ア中ノ一箇條此一箇條ノ常平制度ト云フモノヲ米穀法案ト云フ形ニ現シテ御提案ニナラセ、數多ノ之ニ伴フ所ノ案ハ今日御提出ガ無イノデアリマス、是カラ先キ議會ハマダ二十日程アリマスカラ、御提出ニナルカモ知ラナイガ、今日見ナイノデアアル、私共甚ダ遺憾ニ思フノデアアル、若シ一面ニ低利資金ヲ貸ストカ、或ハ又取引機關ヲ改善スルト云フヤウナコトガ之ニ伴フテ來テアリマスレバ、此案ヲ議スル上ニ於テ、吾モハ大ナル參考ニナルノデアリマス、然ルニ此等ハ皆無シニシテ、唯ダ常平倉ヲ御出シニナラセト云フコトハ、私ハ甚ダ感テ居ルノデアリマス、併ナガラ今日地方ノ狀態ヲ見マスレバ、如何ニモ生産費ニ苦シンデ居ルカ云フコトハ、吾モハ夙ニ承知致シテ居ル、承知致シテ居ルカラ是ダケデモ御出シニナラセト云フコトハ、私共ハ尙ホ爲サ、ルニ優ルト云フ考デ、此案ニハ賛成ヲ致スノデアアル、致スノデアアルガ、曩ニモ申上ダク通り、是ハ此法案ノ蔭ニ隱レテ居ル所ノ機關ガ重大ナル作用ヲ爲スノデ、其作用如何ニ依ッテハ、百害アリテ一理ナキ所ノ案ニナルノデアアル、又此働キ如何ニ依ッテハ、總テノ害ヲ除イテ非常ナリ有效ノモノニナルノデアアル、ソコデ斯ウサタナラバ、是ハ必ズ宜カラウト云フ吾モガ聊カ心付キ、又此案ハ斯ウ云フ缺點ガアリマスント云フコトヲ、此所デア政府ニ御注意迄ニ警告スル必要ガアルノデアリマス故ニ其警告致ス次第ヲ私ハ是カラ此所デア申上ダテ、此案ニ賛成ヲスル趣意ノ一ツニ致サウト思フノデアリマス、食糧政策ヲ根本的ニ確立シ、之ニ對スル一般ノ國民ノ不安ヲ除去スルコトハ、帝國刻下ノ現狀ニ鑑ミ、一日モ忽ニスベカラザル緊急ノ問題デアアルト云フコトハ固ヨリデアリマス、今回政府ノ提案ニ係ル米穀法案ハ、果シテ此問題ヲ解決スルノ價值アリヤ否ヤ、吾人ハ多大ノ疑ヲ持ッテ居ル、其疑ノ次第ト云フモノハ、第一番ニ本法案ニ於テハ其需給調節ノ手段トシテ、國家自ラ之ヲ管理スルノ方法ヲ避ケテ居リマス、避ケテ居テサウシテ、換言スレバ需給調節ノ方法ニ關シ、直接ノ手段ヲ排シテ、間接ノ手段ヲ執ッテ居ルノデアリマス、然レドモ本法ノ施行ニ關シテハ、二箇ノ大ナル障害ノアルコトヲ知ラナケレバナラヌ、其一ツハ開墾助成法ニシテ他ノ一ハ低廉ナル價格ヲ以テ内地ノ市場ニ現レ來ルベキ、外米ノ輸入即チ是レデアリマス、開墾助成法施行ノ結果、米穀ノ生産量ガ年々

増大シツ、アルト云フコトハ、爭フベカラザルノ事實デアリマス、果シテ然ラバ近キ將來ニ於テ、豐年ノ時ニ際シテハ、一時生産制限ノ方法ヲ講ズルニ非サレバ、需給調節ノ目的ヲ達スルコトヲ得ザルニ至ルト思フノデアリマス、而モ斯ノ如キ手段ハ、食糧政策上自給自足ノ理想トスル帝國將來ノ爲メニ、斷ジテ許容ハ出來ナイノデアリマス、故ニ是ハ考ヘナケレバナラヌ、ソレカラ又外米ノ輸入ニ關シマシテモ、本法案ノ目的ヲ達セント欲セバ、生産過剩ノ時期ニ際シテハ、全然輸入ヲ禁止スルカ然ラザレバ輸入防止ト同一ノ效果ヲ生ジテ來ルノデアリマス、然ラザレバ此同一ノ效果ヲ生ジセシムベキダケノ、過大ノ關稅ヲ之ニ課スルノ覺悟ガナケレバ、ドウシテモ目的ハ達セラレナイノデアリマス、然レドモ斯ノ如キ行爲ハ、國際情誼ノ上ヨリ見ルモ、將又凶年ノ時ニ於テ其供給ヲ仰ガザルベカラザル帝國ノ立場ヨリ見ルヤ、決シテ事實トシテ斷行ノ出來ナイト云フコトモ、考ヘテ置カナケレバナラナイノデアアル、本法ノ施行ニ關シテハ、既ニ斯ノ如ク防止シ得ベカラザル大ナル障害ノ有スルアルノデアリマス、然ルニ政府當局ハ之ニ對シテ何等ノ考慮ヲ費スコトナク漫然本法案ノ施行ニ依リ、所期ノ目的ヲ達シ得ベシト聲明致シテ居ル、隨分大膽ナ遣リ方デアラウト吾モハ思フノデアアルカラ、之ヲ御考慮ヲ願ヒタイト云フノデアリマス、ソレカラ第二ハ米穀需給ノ眞ノ調節ハ、其市場ニ於ケル價格ノ如何ニ關セズ、高カラウガ廉カラウガ、ソナナ事ニ關係セズシテ、其生産量ト人口ノ割合トヲ基礎ニシテカラニ、割出サナケレバナラナイノデアアル、然ルニ本法案ハ米穀需給ノ調節ニ在ルト名ハ藉テ居ルケレドモ、其實ハ低落セル現下ノ時價ヲ昂騰セシメントスル、一種ノ姑息ノ手段ノヤウニ見エル、既ニ此法案ガ眞ノ需給ノ調節ヲ度外視シ、價格ノ調節ヲ其主要ノ目的ト爲スコトニナラセテ來タ時分ニハ、種々ノ事情ノ下ニ發生シ來ルベキ價格ノ變動ニ際シテ、買入賣渡ヲ實行シテ其價格ノ調節ヲ計ラザルベカラザルヤウナ工合ニナラセ來ルカラ、果シテ然リトスレバ、凶年時ニ於テ貯藏米ヲ有セズ豐年時ニ於テ買入ニ先タチ其倉庫ニ在米ガ充満シタ所ノ奇觀ガ出來テ來テ、後トデ作ル米ヲ買フコトガ出來ナイト云フヤウナコトニモ場合ニ依レバナラナイノデアリマス、ソレデアアルカラ是等ノ弊害ト云フモノヲドウシテモ御考ニナラヌト云フコト、需給調節ト云フモノト相容レナイ現象ニナラヌテ、終ニハ澤山ナ米ヲ持ッテ政府ガ苦マナケレバナラヌト云フコトニナル虞ガアリマスカラ、此點ニモ十分ノ御注意ヲ願ヒタイ、ソレカラ第三ニ

ハ本法ノ運用ニ關シ、第三條ハ原則トシテ買入賣渡ノ價格ハ豫メ之ヲ告示スルコトヲ命ジテ居ルガ、同條但書ハ之ヲ除外致シテ居リマス、此實行ニ際シテハ慎重ナル考慮ヲ加ヘザルトキハ、却テ之ガ爲メニ市價ノ動搖ヲ來シテ、價格ノ均衡ヲ保ツコトガ出來ナイ、狀態ニ陥ルト吾モハ思フノデアリマス、之ヲ要スルニ本法案ハ需給調節ノ眞諦ヲ離レテ、食糧政策ノ根本義ニ觸レルトシテハ、餘リニ不徹底デアハナカラウカト吾モハ思フノデアリマス、隨テ我黨ノ理想トスル直接ノ手段ト相距ルコトガ甚ダ遠イノデアリマスケレドモ、一面此農家ノ窮狀ヲ顧ミルトキニハ、是非トモ此儘デ抛ッテ置クト云フコトモ出來マセヌカラ、現下ノ狀況ニ顧ミレバ、轉タ農家ニ同情ニ堪ヘザル所モアルカラ、一時應急ノ手段トシテ本法案ニ賛成ヲ致スノデアアル、故ニ我黨ノ立場ト致シマシテハ、政府ニ對シテ本法案ノ運用ニ關シ多大ノ注意ヲ促スト同時ニ、モウ少シ徹底シタル所ノ需給案ヲ立テラレテサウシテ更メテ此議會ノ協賛ヲ得ラレバヤウニ願ヒタイト云フコトヲ茲ニ警告シテ、此案ニ賛成スル次第デアリマス、(拍手起ル)ソレデ唯タ一言此場合申上ダテ置キマスルガ、吾モハ小菅君ガ此所ニ述ベラレタ反對意見ト云フモノヲ全然之ヲ無視スルノデアリマセヌノデ、今述べタ所ニ依ッテ政府ガ注意ヲサレ、バ、隨テ此反對ノ議論モ消滅スル譯デアリマス、併ナガラ之ヲ遣リ放シヤルト云フコトニナレバ小菅君ガ言ハレタヤウニ、或ハ中間者ノ爲メニ利用サレル、色々ノ弊害ガ起ッテ來ルノデアリマス、終リニ臨ンデ一言申シマスガ、一體今日此米ヲ買入レルト云フコトニ就テハ、非常ニ吾モハ政府ニ於テ、尙ホ一箇條ヲ御注意ヲ願ハナケレバナラヌ事ガアル、何故カト云フト内地デモ一言申シマスレバ、兒島灣ノ開墾ノ如キハ、殆下今日デハ三千町歩ト言ヒマスガ、確ニ二千三百町歩ノ藤田某ノ一個ノ所有トシテ、此米ヲ五六万石取ルノデアリマス、ソレカラ朝鮮ニ於キマシテハ東山農場、之ニ次イデ色々ナル大地主ガ百万石、五十万石、山十方石ト云フ米ヲ持ッテ居ラレマス、左様ナ米ニ若シ目ヲ呉レテ、政府カ直チニ之ヲ買取ルト云フコトデアリマシタトキニハ、地方ノ小農小作人ハ、何等ノ恩惠ヲ被ルコトガ出來ナイノデアリマス、故ニドウカ此買入ノ上ニ於キマシテ成ベク此五十万石トカ百万石トカ云フヤウナ大キナ數字ヲ經ズニ出來得ラル、丈ヶ程度ノ小サクシテ、十石トカ十五石トカ云フヤウナモノデモ、成ベク地方ノ米ヲ直接小サイ生産者ノ手カラ御買取リニナルヤウニ願メバ、幾分カ今日ノ此地方ノ小農者

ノ苦痛ヲ減ズルコトガ出來ルト思フノデアリマス、(拍手起ル)此點ニ於テハ政府ニ私ハ尙警告ヲ併セテ致シマス、是デ私共ノ此案ニ賛成スル理由ト致シマス(拍手起ル)

○議長(奧繁三郎君) 荒川五郎君

○荒川五郎君 諸君此米穀法案ニ對シテ吾々ハ大體ニ於テ、滿腔ノ誠意ヲ以テ賛成ヲ致ス者デアリマス、隨テ今爰ニ賛成ノ演說ヲスル必要ヲ考ヘテ居ラナカトデアリマス、然ルニ長田君ノ御演說中ニ、吾々ノ主張ニ向テ種々御論辯モアリマシタ、秀、爰ニ私ハ大體吾々ノ主張シ、又賛成スル理由ヲ述ベナケレバナラヌコトニナク、デアリマス、暫ク諸君ノ御清聴ヲ祈リマス、諸君、米ヲ主要食糧寧ろ専用食糧ト致ス所ノ我國ニ於キマシテ、實ニ米ノ問題ハ國民生命ノ問題デアリマス、國民全般ノ大多數ニ大ニ關係スル所ノ、實ニ至重至大ノ問題デアリマス、然ルニ近ク數年來米ノ亂高下ハ、非常ニ國民全般ノ生活ヲ脅威致シマシタ、吾々ヲシテ想

出ダニ戰慄ヲ禁ジナイ所デアリマス、明治ノ終リ明治大帝ガ神去リマシテ、世ハ常暗ノ諒暗トナリ、サナキダニ不景氣ノ中ニ在リマシテ、米價ガ非常ナル暴落ヲ致シマシタ、其當時大隈内閣ニ於テハ、何トカシテ之ヲ救済シナケレバナラヌト云フノデ、ソレガ爲メニ非常ナ處置ヲ執テ、剩餘金ノ責任支出ヲ致シタノデアリマス、而シテ此米價問題ニ大ニ力ヲ盡シタノデアリマス、然ルニ時恰モ歐洲ノ大戦亂ガ勃發致シテ爲メニ、我國モ膠州港、或ハ南洋、地中海マデモ、我陸海軍ヲ出サナケレバナラヌコトニナリマシタ、此非常ノ場合ニ増稅モ致サズシテ、サウシテ國家非常ノ料理ニ當ラウトスル其場合ニ、是等米ノ問題ニモ大ニ其力ヲ揮フコトガ出來ナカトハ、國民ノ共ニ時勢已ムヲ得ヌコト、致シテ甚ダ遺憾ト致シテ居ルノデアリマス、當時米價非常ニ暴落ノ爲メニ、生産者タル農民ガ、生産上殊ニ肥料其他ニ力ヲ加フルコトガ出來ナカトカ、ソレヨリ米ノ收穫ハ非常ニ減額致シテ、ソレガ爲メニ終ニハ米暴動ヲ起スニ至ラ、瑞穂ノ國米ノ國ト稱ヘラレル我日本ニ、斯ル米暴動ガ起キタト云フコトハ、實ニ吾々ノ共ニ遺憾ト致ス所デアリマス、然ルニ其戰爭ニ伴レテノ好景氣、其好景氣ニ伴レテ米價ガ暴騰致シマスルヤ、彼レ生産者ハ全力ヲ擧ゲテ米ノ生産ニ力ヲ用井ルニ至リマシタ、所ガ其結果ハ今ヤ今日茲ニ米價ノ暴落ヲ見テ、生産者タル農民ハ、當ニ生産費ヲ償フコトガ出來ナイノミナラス、各自ノ一家ヲスラ、如何ニシテ維持スルカト云

フヤウナ窮況ニマデ陥ラタノデアリマス、斯ル僅カ數年ノ間ニ或ハ暴騰シテ、消費者タル國民ヲ脅威シ又間モナク茲ニ暴落シテ、生産者タル農業家ヲ如ク窮苦ニ陥ラシメ、一高一低一騰一落斯ノ如ク致シテ、常ニ或ハ生産者ヲ脅威シ、或ハ消費者ヲ脅威スルト云フヤウニ、各自ノ不安定ガ相轉換シテ、順次前途永久ニ至ラウト云フコトハ、苟モ國家ヲ念ヒ經世ニ任スル者ノ、決シテ寸時モ看過スベカラザル重大事デアルト思フノデアリマス、(拍手起ル)故ニ爰ニ此國民生活資料ノ重大問題デアル米其物ニ向テ、根本的の政策ヲ打立テルト云フコトハ、今ヤ此時ヲ措テ復タ無イ大事ノ時デアリマス、凡ソ米ニハ年ニ豐凶ガアリマスカラ、多少ノ波瀾高低ハ常ニ免レヌノデアリマスガ、西洋大戦亂ノ勃發ノ影響ヲ受ケテ、其澎湃タル怒濤ハ、颶風ト共ニ斯ノ如キ大波瀾亂高下ヲ生ズルニ至ラタノデアリマス、此波瀾此高低ガ常ニ吾々生産者又ハ消費者ヲ、順次轉換脅威迫スルト云フヤウナコトガアテハ、是レ國民自立進歩ノ目的ヲ達スル所以デナイノデアリマス、故ニ凡ソ米價米量ノ調節ヲ圓リ常平ノ法ヲ設ケテ、國民其據ル所ヲ知ルヤウニ致シタイト云フコトハ、大隈内閣ノ當時ニ於テモ、既ニ常平倉案ニ就テ調査若手致シタノデアリマス、殊ニ今日ノ時節ニナリマシテハ、黨派ヲ超越シテ農家ノ救済米價ノ調節タル此根本的問題ガ、議會ニモ現ハル、ニ至ラタノデアリマシテ、遂ニ茲ニ此法案ガ提出セラレ、今ヲ審議ノ域ニ達シタト云フコトハ、吾々ノ最も深ク喜ブ所デアリマス、併シ此米價米量ノハ、申サデモナク我國ノ米ハ、國際融通ノ經濟物件ニ非ズシテ孤立致シテ居ル日本内地のノ物デアリマスカラ、普通ノ經濟物件トシテ同様ニ視ルコトガ出來ナイノデアリマス、又農家ノ最も重大ナル負擔タル地租ナルモノハ、他ノ營業所得稅等ト違ウテ是ハ財產稅デアリマス、收益ニ依テ伸縮シナイ財產稅デアリマシテ、農家ハ如何ニ不景氣デモ、又米ハ如何ニ廉クテモ、如何ニ生産ヲ償フコトガ出來ナイデモ、農家ノ最も主ナル負擔タル地租伸縮ナク其定メタル稅額ヲ納メナケレバナラヌノデアリマス、斯ウ云フ譯デアリマスカラ、隨テ此農業政策ナルモノハ、普通ノ經濟政策トハ其根本ヲ異ニシナケレバナラヌノデアリマス、(何ノ爲メノ演說カ分ラナイ「分ル」ト呼フ者アリ)御聽ナサレバ分ル人ハ分リマセウ)「能ク別ル」謹聽ト呼フ者アリ)況ヤ我日本ハ大都會ヲ除イタ小都市ノ商業ハ多クハ、國民ノ大部分ヲ占メル所ノ農業家ヲ對手デアリマス、隨テ農業ノ救済、米價ヲ維持スルト云フコトハ、當ニ農業家自身ノミノ問題ニ非ラズシテ

國民全般ニ關スル大問題デアルノデアリマス、殊ニ米ハ主要食糧デアリマスルカラ、政府ハ常ニ多收法ヲ獎勵シ又開墾ヲ獎勵シ、其他有ル手段ヲ以テ、或ハ農學ノ獎勵進歩ヲ助ケテ、サウシテ米ノ多收改良多獲ヲ圖リナガラ、其生産者タル農家ガ立行カナイ程、其生産米ノ下落モ顧ミヌト云フコトハ、最も矛盾ノ甚シキモノデアリマセウガ(「簡單ニヤリ給ヘ」ト呼フ者アリ)多收ヲ獎勵スル以上ハ、多收ニ努力スル效果ヲ得セシメナクテハナラヌ、然ルニ多收ヲ致スダケソレダケ米價下落シテ、農家ハ困苦ニ陥ラナケレバナラヌ有様デアリノデアリマス、其他是等ノ事情ガ、農業家ノ救済スルト云フコトソレ自身ガ國家ノ大問題デアル、況ヤ米ノ問題ハ決シテ農業家ノ問題デアナイノデアリマス、此事ニ就テハ既ニ辯明ガアリマシタカラ、今更之ニ更ニ附加ヘルノ必要ハアリマセウ、農業家ガ立行カナケレバ米ノ生産ガ減ジ、米ノ生産ガ減ズレバ米ノ價格ハ騰貴致シ、其結果ガ消費者ノ困難ヲ來スト云フコトハ明カナ次第デアリマス、(今更說明ヲ要セズ)「黙テ居レ」ト呼フ者アリ)デアリマスカラ農業家直接トシテモ、苟モ經國ノ綸ヲ立テル以上ハ、ソレニ相當ノ途ヲ講ゼナケレバナラヌ、況ヤ決レテ農業生産家ソレノミヲ保護スルモノデアナイ以上ハ、此米ノ問題ニ向テ十分ノ努力ヲ致スト云フコトハ、吾々國民ノ代表者タル者ノ最も大ナル責任ヲ感ズル所以デアル(「ヒヤ」)「駭辯」ト呼フ者アリ)以上ノ理由ニ依リマシテ爰ニ米穀法案ガ成立スルト云フコトハ、吾々ノ大體ニ於テ最も贊成スル次第デゴザイマス、併シ此大憲法典ノ如何ニ活用シテ行クカ、如何ニシテ此法ノ目的ヲ達スルカト云フコトハ、此法律ソレ自體ガ重大デアルト同時ニ、更ニ又其點ニ向テノ注意ヲ要スルコトハ重大デアリマス、政府案ニ依ルト米ノ數量ノ調節ヲ主トスル、數量ヲ調節スレバ、數ニ依テテ一數ノ供給需要ノ關係ニ依テテ、自然ニ價格ガ上下致スノデアル、隨テ數ノ調節ヲ主トシテ此案ヲ立テタノダト説明シ、又其法案ニモ其箇條ガアルニモ拘ラズ、即チ第一條ニハ米ノ需給ヲ調節スルトアルニモ拘ラズ、第三條ニ於テハ價格ヤ期間ハ公示スルケレドモ、其數量ハ公示シナイ、數量ヲ示サスハ價格ヲ主トスルヤウニ見エ、隨テ第三條ハ此法案ノ精神ヲ裏切テ居ルト云フヤウニナルノデアリマス、デアリマスカラ當ニ農業家ヲ助ケルノミナラス、消費者總テ全般ニ重大ナル此影響ヲ考フル以上ハ、此法案ノ精神ヲ當ニ數量ノミナラス、價格ヲモ合セテ重要ナルモノトシテ、之ヲ調節スルコトヲ考慮ニ置カナケレバナラヌ、(拍手起ル)若シ數量主義ニ

致セバ、數量ハ例ヘバ三百万石買ハナケレバナラヌト致セバ如何ニ高クナリテモ三百万石買ハナケレバナラヌト云フコトニナル、ソレガ消費者ヲ保護スル所以デアリマセウカ、故ニ數量ノ上ニ注意ヲ要スルハ勿論、其價格ニ於テモ之ヲ調節スル、其標準ノ本ヲ茲ニ置クト云フコトガ、最モ本案ノ精神ヲシテ意義アラシムル所以ダト考ヘルノデアリマス、(拍手起リ「ヒヤ」)「其通り」ト呼フ者アリ)隨テ吾々ハ此本案ノ精神ソレ自體、大體ニ於テ反對ハ無イノデアリマスケレドモ之ヲ完壁ナラシムルニ於テハ、價格ト數量ハ爰ニ同ジ位置ニ置イテ之ヲ見定メルコトガ、最モ大切デアルト思フノデアリマス、次ニ又凡ソ如何ナル善法モ、之ヲ運用スルハ人ニ在ルノデアリマス、(「判」テ居ル「簡單」ト呼フ者アリ)

○議長(奥繁三郎君) 靜カニ……

○荒川五郎君(續) 本案ノ如キハ最モ運用如何ガ此案ノ生命デアアルノデアリマス、隨テ其案ヲ運用スベキ、運用ニ重大ナル關係ノアル需給調節委員會ノ規定ヲ此法律ノ本文ニ掲ゲテ置クト云フコトハ、本案ガ大切デアルト同様ニ、且又本案ノ精神ヲ貫徹スル上ニ於テ、極メテ必要ト思フノデアリマス、故ニ吾々ハ此本案ノ精神、ソレヲ運用スル其大ナル機關、其機關ノ職責ト、サウシテ其組織トヲ此案ニ明記スルコトハ、本案ノ大切ト同ジヤウニ大切デアルト認メテ、此箇條ヲ入レルコトヲ希望スル所以デアリマス、凡ソ多クノ法律ニ此ノ如キ運用機關ノ大體ヲ規定スルト云フコトハ、總テニ於テアルノデアリマス、所得稅法、營業稅法等ニ於テモ、所得稅審査會、營業稅ノ調査會ト云フヤウナコトガ、皆ナ其法律ニ規定シテアルノデアリマス、近ク前年制定セラレタル軍需工業動員法ノ如キモ、丁度是レト同ジヤウナモノデアリマスガ、ソレニモ軍需評議會ナルモノガ規定シテアルノデアリマス、斯ノ如ク之ヲ規定シテ置クト云フコトハ必要デアリマス、デ今ノ政府ハ此箇條ガ無クテモ、委員會ヲ設ケルト云フノデアリマスケレドモ、設ケナクテモ法律上差支ナイ事ニナル、此大憲法ノ原則トシテハ、必ズ設ケルト云フコトニ定メテ置クトハ、國民ヲシテ由ラシムル所以ノ途ニ於テ最モ重大デアルト思フノデア、吾々ハ此箇條ヲ入レルコトヲ希望致スノデアリマス、是等ノ事ハ今茲ニ吾々ノ説明ヲ要シナイノデアリマス、是ハ二讀會デノ意見デアリマスケレドモ、本案自體ノ大體ニ關係スルモノデアリ、又政友會ノ長田君ガ之ニ就テ批判ヲ試ラレタルガ爲メニ、已ムヲ得ズ爰ニ大體ヲ辯明セザルヲ得ヌコトニナシタノデアリマス、尙ホ罹災救助基金

法ニ於テ、農業倉庫並ニ産業組合ニ融通スルコトヲ得ルト云フ途ヲ開クノハ、即チ此問題ヲ完壁ナラシムル所以ニ於テ、更ニ百尺竿頭一歩ヲ進メタルモノト思フノデアリマス、斯クシテ始メテ生産者タル農業者ハ之ニ依テ安心シテ、其生業タル農事農業ニ努力シテ、米穀ノ改良收穫ノ多收ト云フコトニ向テ努力シ、而シテ、之ヲ消費スル國民ハ、更ニソレニ依テ、恩恵ヲ受ケルト云フコトニナリ、爰ニ始メテ國民生活ノ安定ヲ期スルモノトナルト思フノデアリマス、爰ニ賛成ノ大體ノ理由、並ニ吾々ノ希望スル要點ヲ申上ダク次第デアリマス

(拍手起ル)

○議長(奥繁三郎君) 討論ノ通告者ハアリマセウカラ採決シマス、第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ諮リマス、反對ノ意見モ出マシタカラ起立ニ依テ決シマス、第二讀會ヲ開クベシトノ意見ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

(賛成者 起立)

○議長(奥繁三郎君) 大多數仍テ第二讀會ヲ開クコトニ決シマシタ

○岩崎勳君 日程第二十六乃至第二十八、此三案ヲ一括シテ、直チニ此二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

(「贊成々々」ト呼フ者アリ)

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ハアリマセウカ

(「異議ナシ」異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ此三案ノ一讀會ヲ開キマス、修正意見ガ出テ居リマス、其意見ノ主旨辯明ヲ許シマス、齋藤宇一郎君

米穀法案

米穀需給調節特別會計法案

罹災救助基金法中改正法律案

(齋藤宇一郎君登壇、拍手)

第二讀會
第二讀會

○齋藤宇一郎君 私ハ米穀法案及罹災救助基金法中改正法案ニ對シテ、修正ノ箇條ヲ説明致シマス(「簡單」ト呼フ者アリ)極ク簡單ニ申シマス、既ニ第一讀會ニ於テ、政友會ノ長田君カラ御賛成ヲ得マシタ程ノ同情アル修正デアリマスカラ、暫ク御清聴ヲ願ヒマス、御手許ニ御廻シテテ置キマシク通りニ、米穀法案中第一條及第二條中ノ「米穀ノ需給」ノ下ニ「及價格」ヲ加フト云フコトデアリマス、此

「及價格」ト云フコトヲ加ヘナケレバナラヌコトニナリマシタノハ、是ハ既ニ速記録等ニ於テ十分御承知ノコト、思ヒマスガ、政府ノ本案運用ニ關スル説明ヲ承リマスルト云フト、法文ニハ需給ノ事トミガ書イテアリマスケレドモ、其際ニ至リマスト、矢張價格ヲ考慮シナケレバナラヌコトニナルノデアリマス、若夫少量ノ問題ノミヲ以テ本法ヲ運用致シマスレバ剩テ居ルト見マシタ所ノ米ハ、價格ニ拘ラズ買ハナケレバナラヌト云フ理濟的ノ窮地ニ陥ルト云フコトハ、是ハ當然ノ事デアリマス、果シテ然リトスレバ、此法ノ運用上甚ダ困タ事トナルノデアリマシテ、隨テ買進ムト云フ上カラ價格ガ騰ッテ來ル、價格ガ騰ッテ參リマスレバ、消費者ガ困ルト云フコトニナルノデアリマス、故ニ政府ハ彼ノ第三條ニ於テ價格問題ニ論及シ、又量ノ問題ヲ如何ニスルカト云フトノ質問ニ對シテ、政府ハ或一定ノ量ヲ買ハウトスルガ、若シ買ッテ居ル上ニ價格ガ騰リ過ギルト云フコトニナレバ、其分量ヲ打切ッテ、サウシテ見込ハ付ケタケレドモ、買ハナイノデアルト云フコトヲ言明シテ居ルノデアリマス、果シテ然リトスレバ矢張價格ト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌト云フコトニナル、又此問題ハ一言價格ニ觸レ、バ、唯ダ米ヲ高クスルト云フコトヲ直覺シマス爲メニ、非常ニ是ハ奇異ナル文字ニ見ラレルノデアリマスケレドモ、吾々ノ爰ニ「價格」ト云フ文字ヲ入レナケレバナラヌ、所謂兩本位主義ニシテ置カナケレバト云フコトハ、萬一價格ガ高クナルト云フコトニナリマスレバ是ハ生産者ハ喜ブカモ知レマセウケレドモ、消費者ガ困ル、又價格ガ非常ニ廉クナレバ、消費者ハ歡ブカモ知レマセウガ、價格ノ下落ニ依テ生産ガ減ルト云フコトハ、先刻皆サンガ御述ベニナシタ通りデアリマス、若シ生産ガ減ルト云フコトニナレバ、價格ガ騰貴シ、消費者ガ困ルト云フコトニナルノデアリマスカラ、矢張價格ト云フモノモ、或一定ノ適當ナル程度ヲ保ツシメナケレバナラヌノデアリマスカラ、此運用ノ上カラ價格ヲ考慮シナケレバナラヌト云フコトハ、多ク辯明ヲ要シナイノデアリマス、故ニ法ニ其目的ヲ明カニ書イテ置クト云フコトハ、最モ大切ナ事デアルト考ヘルノデアリマス、此所ニ「及價格」ト云フ文字ヲ加ヘマシテ、此法律ノ斯ノ如キ目的ヲ以テ、生産者モ消費者モ安心ヲシテ行クコトノ出來ルヤウニスルト云フコトハ、洵ニ大切ナ事ト考ヘマスノデア、此修正ヲ致シタノデアリマス、又第三條ノ次ニ第四條ヲ加ヘマシテ、前條ノ場合ニ於テハ米穀需給調節委員會ノ諮詢ヲ經ルコトヲ要ス、米穀需給調節委員會ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ

定ム此箇條ヲ新ニ挿入致シマスノハ、是亦多ク辯明ヲ要シマセヌノデアリマスガ、政府ガ此法律ノ運用ノ點ニ就テ説明ヲ致シマス所ヲ聽キマスニ、多クノ重要ナル事柄ニ就テハ悉ク需給調節委員會ニ諮ラレテアルノデアルト云フコトヲ申シテ居ルノデアリマス、殊ニ此點ニ就テハ先刻國民黨ノ前川君ガ、此法ノ運用ハ最モ公明正大ニシテ、其美果ヲ收メルヤウニシナケレバナラヌト云フ熱心ナル警告ヲ加ヘラレタノデアリマス、而シテ其警告ガ、主トシテ此需給調節委員會ニ重キヲ置イテ論ゼラレタノデアリマス、又政府モ之ニ依テ此法ノ運用ヲ完全ニシテ行カウト云フ考ガアルナラバ、必ズ是ハ法ノ上ニ書カナケレバ國民ガ安心ヲ致シマセヌ、私ハ委員會ヲ通ジテ最モ貴重ナル言葉トシテ承リマシタ事ハ、先刻委員長カラモ報告ニナリマシタ通りニ、農商務大臣ハ政府ノ方針ト致シマシテ、隱微ニシテ巧妙ナラシヨリハ、寧ロ公明ニシテ不器用ナルコトヲ尙フ、斯ウ云フコトヲ言ウタノデアリマス、果シテサウ云フ精神デヤルト云フコトデアレバ、此需給調節委員會ナルモノヲ必ズ設ケルコトニシテ、此組織ヲ完全ニシ、以テ公明正大ナル遺方ヲスルト云フコトハ、六ヶシキ色ニ疑問ノアリ、又弊害ノ或ハ起ラントスル所ノ此法律ノ上ニ於テ、是ハ大切ナル箇條デアルト吾々ハ信ズルノデアリマス、政府ガ之ヲ需給調節委員會ノ事ヲ本法ニ規定シナイト云フコトニ就テノ質問ニ對シテ、是ハ勅令ニ依テ決定メルノデアル、勅令デアルカラシテ、時ノ政府ノ考次第或ハ設ケナクトモ宜イノデアル、斯様ナ辯明ヲ政府委員ガ致シタノデアリマス、吾々ハ説明ヲ聽イテ見マス、勅令ニ讓レバ是ハ行政官ノ手ニ依テ決スルノデアリマスカラ、或ハ重キヲ置カナイ人モアルカモ知レヌ、現政府カ多ク之ニ重キヲ置イテ、本法ヲ運用スルノデアルト云フコトデアラナラバ、最初ノ立法者タル所ノ現政府ハ、必ズ之ヲ法律上ニ現ハシテ、此大切ナル機關ハ是非設ケルト云フコトヲ規定スルノガ當然デアラウト思フノデアリマスガ、如何ナル譯デアルカ之ヲ揭ゲナイノデアリマス、我々參考書トシテ配付セラレタ所ノ、又此案ニ依テ生レル所ノ根源デアアル所ノ財政經濟調査會ノ答申ヲ見マスト云フト、常平倉ニ關スル立法ノ骨子ヲ揭ゲテアルノデアリマス、其中ニハ需給調節委員會ヲ設ケルコトニ就テ澤山ノ箇條ヲ揭ゲテ、重要ナル事柄ニシテアルノデアリマス、デ財政經濟調査會ノ答申ノ趣旨ヲ重ズル上カラ申シマシテモ、只今述ベマシタ通りニ、此委員會ト云フモノハ非常ニ重イモノデアラ、權威アラシメナケレバナラヌト云フ上カラ申シマシテモ、

是ハ本法ニ明カニ掲ゲテ置ケルト云フコトハ、大切ナル事デアルト考ヘマス、第四條ニ米穀需給ノ下ニ及價格ト云フコトヲ加ヘタノハ、即チ第一條第二條ノ修正案ト同ジ意味ニ於テ、即チ是ハ法文ノ整理ノ上カラ、自然ニ此所ニ加ヘルコトニナタノデアリマス、罹災救助基金法改正法律案ニ對シマシテ、第十七條第一項第一號中「公共團體」ノ下ニ「産業組合及農業倉庫」ヲ加フ、同條第二項中「公共團體」ノ下ニ「産業組合及農業倉庫」ヲ加フト云フ修正案ヲ提出致シマス、此修正ノ必要ナル理由ハ、政府ノ提案ニ依リマスレバ、第十一條ノ中ニ第五號ヲ加ヘテ、米ヲ買フコトノ途ヲ開イタノデアリマス、私共ハ此食糧問題ノ八釜シキ場合ニ於キマシテ、有ユル方法ヲ講ジテ其目的ヲ達セント努メラレル點ニ於テ、此五號追加ノ事ニ就テハ異議ハアリマセヌノデス、併ナガラ吾々ハ其效力ニ於テドレダケニ結果ヲ生ムカ、是ハ甚タ疑問デアリマス、即チ政府委員ノ説明ニ依リマスレバ現在各縣デ持テ居リマス所ノ現金ヲ合計シテ見マスト、三百五十萬圓位シカ無イ、而モ是ハ各縣ニ僅カ許リツ、分配ヲシテ持テ居ルノデアリマスカラ、其力ガ甚ダ少ナイノデアリマス、而モ是ガ實際各縣デ米ヲ買フト云フコトニナリマスレバ、色々ノ設備モ必要デアリマスルシ、又色々ノ決議機關ヲ通サナケレバナラヌノデアリマスカラ、果シテドレダケノ働ヲ爲シ得ルカト云フコトハ、餘程私共ハ疑問ニ思ウテ居リマス然ルニ一方ニ於キマシテ今日農村ノ狀況ヲ見、農家ノ現狀ニ鑑ミマスレバ、低利資金ノ要求ト云フコトノ聲ハ非常ニ高イノデアリマス、既ニ御同様ニ滿場一致ヲ以テ決議致シマシタ所ノ、食糧ノ充實及農家經濟維持確立ニ關スル建議案ノ場合ニ於テ、御同様ハ非常ニ力ヲ籠メテ四個ノ希望條件ヲ付ケタノデアリマス、其一事項ニ低利資金ヲ最モ簡單ナル所ノ方法ニ依テ、融通スルヤウニト云フ事ガアッタノデアリマスケレドモ、然ルニ今日ニ至ルマデ、此低利資金ノ出ル方法ハ無イヤウデアリマス、大藏大臣モ屢、此預金部等ノ現金ノ少ナキコトヲ、委員會ニ於テ説明セラレテ居ル位デアリマシタ、中ニ是ハ目的ヲ達シナイ、達シナイカラト云ウテ構ハヌデ置ク譯ニハ行キマセヌ、若夫レ此罹災救助基金等ニ於テ、多少デモ融通スル所ノ金ガアリトスレバ、各縣ニ於テ適當ニ之ヲ按排シテ、斯ノ如キ必要ナル機會、即チ産業組合及農業倉庫等ニ於テノ資金トシテ、適當ニ融通スルコトニ努メマシタナラバ、是ハ餘程效力ヲ現ハシテ、即チ今日ノ農村ノ窮狀ヲ救フ一ツノ方法ニナラウト考ヘルノデアリマス

故ニ前述ベマシタ通りニ、此産業組合及農業倉庫ニ融通スル所ノ途ヲ開クベキ、第一項及第二項ニ修正ヲ加ヘタ譯デアリマス、之ニ對シテ委員會ニ於テ政府委員ハ、此挿入ニ對シテハ敢テ反對ハ無カッタノデアリマスケレドモ、唯ダ政府ノ解釋ト政府ノ考ヲ述ベルト云フコトデ、最後ニ述ベラレタ意見ガアリマス、ソレハ折角之ヲ修正シテ産業組合及農業倉庫ニ融通スルコトニシテモ、金が無イカラ何ニモナラヌデハナイカ、即チ之ヲ評シテ羊頭ヲ懸ケテ狗肉ヲ賣ル案デハナイカト云フヤウナ、甚ダ亂暴ナル批評ヲ加ヘラレタノデアリマスソレハ私共モ金ガ少ナイト云フコトハ知テ居ル、既ニ政府ノ參考書ニモアリマスカラ知テ居リマスガ、私共ノ見ル所ニ依リマスレバ、此第十七條ノ第一項ヲ讀ンデ見マスト云フト國債證券、地方債證券勸業債券、日本興業銀行債權、北海道拓殖銀行債券、農工債券、其他ノ府縣公共團體等ニ貸シテ居ルノデアリマス、是等ノ金ハ永久ニ還テ來ナイモノデハナイ、相當期間ニ於テ返済モアリマセウ、或ハ又適當ノ時期ニ於テヨリ以上ノ必要アレバ、之ヲ賣テ現金ニスルコトモ出來ルノデアリマス、故ニ金が絶對ニ無イト云フコトハ言ヘナイノデアルカラ、唯ダ今日三百五十萬圓シカ無イト云フコトニ過ギナイノデアル、サウスレバ此農村振興ノ爲メニ、又農業維持ノ爲メニ、斯ウ云フ必要ナル機關ヲ今日國家ガ獎勵シテ居テ、而シテ之ニ對スル補助ノ力ガ甚ダ少ナイノデアリマス、故ニ唯ダ政府ノ力ニ依ラズシテ、地方ニ斯ウ云フ金ガアルナラバ、之ヲ有利ナ方面ニ運用スルコトニ努メルコトハ、地方團體トシテモ是非努メナケレバナラヌ事ト考ヘルノデアリマス、政府ノ説明ハ此罹災救助基金ト云フモノハ、使途ガ定テ居ルノデアラ、何時デモ使ヘルヤウニシテ置カナケレバナラヌ故ニサウ云フモノヲ挿入スルト云フコトハ、甚ダ面白クナイト云フ意味ノ話モアッタノデアリマスケレドモ、斯ウ云フ色々ノ債券ヲ持チ、公共團體等ニ貸スコトヲ許シテ居ル以上ハ、是ト似寄タ所ノ必要ナ所ニ貸スコト云フコトハ、少シモ法ノ上ニ於テ差支ナイ、寧ロ斯ウ云フ所ニ貸スノハ、政府ノ提案タル所ノ第五項ヨリハ尙ホヨリ以上安全ニシテ、而シテ何時デモ回收ガ出來ル途デアナイカト私ハ考ヘルノデアリマス、何トナレバ此米ヲ買テ持テ居ルト、色々ナ入換モシナケレバナラヌ、或場合ニ於テハ賣ラナケレバナラヌ、其間ニ損ヲシナケレバナラヌト云フコトガ起ルコトハ、此米穀法ニ於テモ吾々ハ決心シテ贊成シテ居ルノデアリマス、ザウシテ見レバダス、此米ヲ買フト云フコトニ——米ヲ持ツト

云フコトニ就テ、若シ損ヲスル場合アリト致シマヌレバ、是コソ此罹災基金ノ根柢ニ影響スル所ノ事柄デハナイカ、斯様ニ考ヘルノデアリマス、若シ米ヲ買フコトヲ許ス位デアラナラバ、何故此産業組合及農業倉庫ニ貸スト云フコトニ反對ヲスルカ、其理由ガ明カニナラナイデアリマス、故ニ私ハ政府ノ私ノ修正ニ對スル批評ハ反對ニ非ズシテ、唯ダ一ノ金ノ高ニ於テノ注意デアッタト斯様ニ善意ニ解釋シテ、而シテ此修正案ノ維持ニ私ハ努メルデアリマス、私ノ修正ハ此二法案ニ對スル修正デアリマシテ、而モ私ノ最も快感ニ堪ヘナイ事ハ、私ノ修正ニ對シテ、殊ニ米穀法ニ對シテ、委員會ニ於キマシテハ政友會ノ代表者デアル所ノ東武君ガ、頗ル適當ノ修正デアッテ、吾モ賛成シタイ考ヲ持ツ位デアル、斯ウ云フ御同情ノ御辯明ガアッタノデアアル、又本日ハ此壇上ニ於テ、長田君カラシテ最も深切ナル、所ノ修正デアアル斯様ナ讀辭ヲ述ベラレタノデアリマス、私ハ此御二人ガ揃モ揃ッテ大政黨ノ代表者トシテ、私ノ修正ニ斯ノ如ク同情シ、讀辭ヲ呈セラル、位デアラナラバ、此第二讀會ニ於テハ、必ズ此修正案ガ通過スルモノト信ジマス、(拍手起ル)若シ此修正ガ通過シナケレバ、政府モ此法ノ運用ニ於テ非常ニ困ル事ガアルデアラウシ、國民モ色ニナ方面ニ於テ、此法案ニ不安ヲ抱クデアラウト考ヘルノデアリマス、(ノウ)若シ抱カズシテ此法案ヲ信ズルト云フ方モアルカモ知レマセヌケレドモ、吾モノ見ル所ニ依レバ、矢張此意義ヲ明カニシ、國民ガ大ニ信賴スルコトノ出來ルヤウナ法文ニ修正ヲシテ、以テ衆議院ヲ通過セシムルコトハ、上院ニ對シテモ最も有力ナル決議ト信ジマスカラシテ、ドウカ滿場ノ御賛成ヲ願ヒマス、(拍手起ル)

○議長(與繁三郎君) 扶亮君

○扶亮君 諸君只今憲政會ノ齋藤君ヨリ、米穀法並ニ罹災救助基金法ニ就テ修正ノ御意見ヲ提出シナリマシタ、本員ハ不幸ニシテ此修正ニ同意スルコトガ出來ヌノデアリマス、米穀法案外二件ハ、諸君モ御承知ノ通り數年來我國ノ都市ト云ハズ、農村ト云ハズ、國民一般ノ頭ヲ痛メタル所ノ重大ナル案件デアッテ、此重大ナル案件ヲ、今回ノ米穀法外二件ニ依ッテ茲ニ解決セントスル一大鐵案デアリマス、吾人ハ斯ノ如キ案ニ對シマシテハ、憲政會諸公ニシテ多少ノ御不滿ガアッテモ、此米穀法案ヲ速ニ實施センガ爲メニ、滿場一致ヲ以テ之ヲ可決シ、本案ヲシテ權威アラシムルコトヲ眞ニ希望シテ止ミマセヌ(ヒヤ)私ハ憲政會ノ齋藤君ノ御修正ニハ敬意ヲ表シマス、併ナガラ先ヅ其第一ノ御修

正ノ處ハ、第一條乃至第二條、恐ラク是ハ第四條モサウデアリマセウ、米穀ノ需給ヲ調節スルト云フ間ニ「及價格」ノ文字ヲ入レナケレバ本案ガ不徹底デアル、サウシテ數量ト價格ト兩本位ニシナケレバ、本法ノ目的ヲ十分ニ達スルコトハ出來ナイト云フ御趣意デアリマス、サウシテ只今此壇上ニ於テ御説明ノ要旨ヲ聽キマヌルト、需給及價格トシテ置カケレバ、米ガ剩リテ市價ノ價格ガ相當ニアル時分ニ於テモ、下シテ買ハナケレバナラヌデヤナイカ、左様ノ事ヲシタラ、價格ガ暴騰スルデヤナイカト云フヤウナ御説明ヲ承ク、本員ハ奇怪ノ念ニ堪ヘナイデアリス、此米穀法ハ政府當局ガ本議場ニ於テ若クハ委員會ニ於テ御説明ニナリマシタ通り、主眼トスル所ハ數量ヲ需要供給スルニ在ルケレドモ、併ナガラ其半面ニハ價格ノコトヲ加味シテ居ルデアアル、斯ウ説明ニナッテ居ルデアアル、又齋藤君モ此法案ヲ見テ、數量ノミナラズ、價格ノコトモアルガ、併シ其數量價格兩本位ニセナケレバナラヌト云フ御主張デアアルヤウニ思ヒマスガ、併ナガラ本員ハサニ非ズ、是ハ本法ノ如キガ最も適當ナルモノデ、元來米穀法ト云フモノハ本員ノ目ヲ以テスレバ、獨リ農村生産者ヲ保護スルノミナラズ、其半面ニ於テハ大ニ消費者ヲ保護シテ居ルデアアル(拍手起ル)試ニ「價格」ト云フ文字ヲ入レタラ如何ヤウニナルカ、「價格」ト云フコトヲ入レルト云フト、數量ト價格ト云フコトニ目ヲ著ケルト云フコトデアアル、而シテ政府當局ノ説明ハ、「價格」ノ文字ヲ入レナクとも、數量ノ裏ニ價格ト云フコトガ加味シテ居ルト云フ説明デアアル、以上ハ先ヅ一段ニ於テ無用ナ文字デアアルト云フコトガ言ハレル、(ノウ)更ニ無用ノミナラバマダ宜イガ「價格」ト云フ文字ヲ加入スルト云フト、是ガ有害ノ結果ヲ生ズル、(ノウ)暫ク聽イテ御在デナサイ、總テノモノハ説明ヲ御聽ニナッテ上ニ御批評下サルコトヲ切望シマス、例ヘバ需要供給ハ數量ノ上ニ於テハ能ク均衡ヲ保ッテ居ル場合ニ於テ、價格ガ暴騰又ハ暴落セバ勿論調節ノ必要アルベキモ、然ラズシテ其價格ガ少シデモ高イカ廉イカ、所謂經濟上ノ平價ヲ少シデモ得ナイ場合ニ諸君ドウスル、此場合ニ於テ少シデモ高ケレバ賣出サナケレバナラヌ、又少シデモ廉ケレバ買ハナケレバナラヌト云フ結果ニナリマセウ、兩本位ノ結果ハ茲ニ一大缺點ガアルデアアル、需要供給數量ニ於テ正ニ權衡ヲ得テ居ルニ拘ラズ、需要供給以外ノ原因ニ依ッテ、米價ハ或ハ高イコトガアル、廉イコトガアリマス、是ハ認メナケレバナリマセヌ、其時分ニ於テ價格ト云フコトヲ爰ニ表示シテ兩本位デアアル以上ハ、少シデモ高イカラ是非賣出シテ呉レ、斯ウ云フ風ニ消費者ハ迫ル、又少シデ

モ廉イ時分ニハ、生産者ハ買上ゲテ呉レト云フコトヲ迫ル此時分ニ於テ斯様ナ事ヲスルト、年々歳々高イトカ廉イトカ云フコトデアリテ、都市ト云ハズ、農村ト云ハズ此問題ニ忙殺セラレ、所謂國家紛亂ノ本ニナルデアアル(ノウ)呼フ者アリ其他發言スル者多シ

○議長(與繁三郎君) 靜ニ...

○扶亮君(續) 第二ハ調節委員ノ事デアリマス、靜ニ御聽ニナレバ能ク分ルモノデ、調節委員ハ米穀法案ノ上ニ明ニシナケレバナラヌト云フ、是モ一應御尤ナ御議論デアアル、併ナガラ吾人ハ現政府ノ説明ヲ信ジマシテ、法文ニ現サナクとも、必ズ需給調節委員ヲ設置セラル、ノデアアルカラ...

〔分ク分ク〕呼フ者アリ其他發言スル者多シ

○議長(與繁三郎君) 金澤君...

○扶亮君(續) 斯ウ云フ説明デアレバ、吾モハ之ヲ信ジテ此所ニ置ク必要ヲ認マセヌ、殊ニ先刻小菅君ノ御演說ニナク通り、或ハ調節委員會杯ト云フモノヲ置クト云フト暇取ル其間ニ奸商ガ乘ジ、其間ニ投機者ガ附込シテ、彼等ノ喰物トナル虞ガアルト云フ説明ヲセラレマシタガ、是ハ半面ノ理由ガアリマス、ソレ故ニ現内閣若クハ現内閣ノ後繼内閣ガ出來タナラバ、其等ノ内閣ハ先ヅ原則トシテ需要調節委員ト云フモノヲ設ケテ、公明正大ニヤルデアリマセウガ、併シ其間ニ奸商ガ出沒シテ繁ニ堪ヘナイ場合ニ於テハ、或ハ國民ノ多數ハ政府專斷ヲ希望スル時期ナシトモ限ラヌノデアリマス、ソレ故ニ緩急宜シキヲ得ル方法トシテハ、政府ノ言明ヲ信賴シテ、本條ヲ其儘ニ存スルト云フコトガ最も適當デアラウト考ヘマス、第三ハ罹災救助基金ノコトデアリマス、罹災救助基金第十七條ノ一項ニ「産業組合及農業倉庫」ト云フ文字ヲ入レテ、サウシテ此方ニ金融ヲシタラ宜カラウト云フコトデアリマス、併ナガラ諸君モ御承知ノ通り、此罹災救助基金ト云フモノハ、府縣ノ全部若クハ一部ニ非常災害ガアッタ時分ニ、ソレヲ以テ有ユル救済ニ任スルモノデアリマスカラ、此罹災救助基金ノ運用ノ範圍ト云フモノハ、之ヲ狭パメル程其目的ヲ達スルニ宜イノデアリマス、政府ガ今回ノ場合ニ總ニ米穀ノ買入ト云フ一項ヲ擴張メマシタガ、是モ見様ニ依ッテハ或ハ擴張メヌ方ガ宜イト云フ議論ガアルカモ知レヌ位ノモノデアアル、況ヤ爰ニ産業組合、農業倉庫、斯ウ云フモノニ運用ノ範圍ヲ擴張ルト云フコトニナリマス、罹災救助基金本來ノ目的ヲ達スルコトガ出來ナイ虞ガアルノデアリマス、今日産業組合ハ澤山アリマセウガ、其中ニハ必ズシモ信用ヲ置ケルモノ、ミデハナイ、又農業倉庫ノ如キハ、今

日ボツ、出來ツ、アル場合アリマス、此場合ニ於テ
斯ウ云フモノニ貸出スト云フコトニシマス、回收ノ見込ナ
キモノモ生ジ、眞ニ罹災救助基金ヲ危カラシメル虞ガアル此
理由ニ依リマシテ、本官ハ齋藤君ノ御修正ニハ反對ヲ表シ
テ、原案ニ賛成ヲ表スルモノデアリマス(拍手起ル)

○議長(奥繁三郎君) 討論盡キタリト認メマス、依テ採決
致シマス、先ツ齋藤君ノ修正説ニ賛成諸君ノ起立ヲ求メマ
ス
〔賛成者 起立〕

○議長(奥繁三郎君) 少數、仍テ修正案ハ否決ニナリマ
シタ、次イデ委員長ノ報告ニ就テ採決致シマス、委員長ノ報
告ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス
〔賛成者 起立〕

○議長(奥繁三郎君) 多數——多數ト宣言シマモタガ其
通りデス——小菅劍之助ノ外全會一致ト宣告致シマス、本
案ノ第三讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス
○小菅劍之助君 私ヲ除ク外全會一致デアリマセヌ
〔無用々々ト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 議長ノ宣言通りデス——採決シマ
シタ、宣言済デス
〔異議ナシ、其通りト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 本案ノ第三讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御
諮リ致シマス
〔第三讀會ヲ開クヘシ、異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 第三讀會ヲ開クニ御異議ナイト認
メマス
○岩崎勳君 日程第二十六乃至第二十八ニ至ル三案ガ
一括シテ、直チニ第三讀會ヲ開キ、第二讀會議決ノ通り可
決確定セラレントコトヲ望ミマス
〔賛成ト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君勳議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(奥繁三郎君) 御異議ナイト認メマス、仍テ直チニ
各案ノ第三讀會ヲ開キマス

米穀法案 第三讀會
米穀需給調節特別會計法案 第三讀會
罹災救助基金法中改正法律案 第三讀會

〔異議ナシ、異議ナシノ聲起ル〕
○議長(奥繁三郎君) 御異議ガナイト認メマス、仍テ第二
讀會議決ノ通り可決確定致シマシタ

○岩崎勳君 日程變更ニ關スル緊急勳議ヲ提出致シマ
ス、乃チ爰ニ政府提出明治三十八年法律第十七號中改
正法律案ヲ議題トシ、次ニ政府提出執達吏規則中改正法
律案、政府提出民事訴訟費用法中改正法律案、及政府
提出刑事訴訟費用法案ヲ一括議題ト爲シ、逐次其第一
讀會ノ續ヲ開キ、各々委員長ノ報告ヲ求メ且ツ其審議ヲ
進メラレントコトヲ望ミマス
〔賛成々々ト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ勳議ニ御異議アリマセヌ
カ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナイト認メマス、仍テ勳議ノ
如ク日程ヲ變更致シマス、明治三十八年法律第十七號中
改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長櫻内幸雄
君

明治三十八年法律第十七號中改正法律案(政府提出)
第一讀會(續) (委員長報告)

報告書
一 明治三十八年法律第十七號中改正法律案(政府提出)
出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告
候也
大正十年三月五日
明治三十八年法律第十七
號中改正法律案委員長
櫻内 幸雄

衆議院議長奥繁三郎殿
〔櫻内幸雄君登壇、拍手起ル〕
○櫻内幸雄君 明治三十八年法律第十七號中改正法
律案ニ關スル委員會ノ經過、並ニ結果ヲ御報告致シマス、
本案改正ノ要旨ハ、時局ノ關係上製鐵所ノ据置運轉資
本六千万圓ヲ、九千八百萬圓ニ増加スルト云フコトガ主ナ
ル點デアリマス、是ト同時ニ從來大藏省預金部ヨリ借入
爲スコトガ出來タノヲ廢シマシテ、當該年度限り國庫ノ剩

餘金ヲ繰替ヘ使用スルコト、シタノデアリマス、且ツ前回當
議場ニ現ハレマシタ明治三十九年法律第二十四號改正ノ
結果トシテ、大藏省證券條例ノ廢止サレマシタ結果、當法
律案第三條大藏省證券條例準用ノ規定ヲ取除ケタノデア
リマス、而シテ委員會ニ於キマシテハ、數多ノ質問應答ヲ
重ネマシテ、慎重審議ノ上、滿場一致ヲ以テ本案ヲ可決致
シマシタ、願クハ當議場ニ於テモ、此案ハ滿場一致御賛成
アラントコトヲ希望シマス
○議長(奥繁三郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ
御諮リ致シマス
〔第二讀會ヲ開クニ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 第二讀會ヲ開クニ御異議ハ無イト
認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマス
○岩崎勳君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ
省略シテ委員長ノ報告通り可決確定アラントコトヲ望ミマス
〔賛成ト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ勳議ニ御異議ハアリマセ
ヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 御異議ガ無イト認メマス、仍テ直チ
ニ本案ノ第二讀會ヲ開キマス
明治三十八年法律第十七號中改正法律案
(政府提出)
第二讀會(確定議)

報告書
一 執達吏規則中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告
候也
大正十年三月五日

衆議院議長奥繁三郎殿
〔櫻内幸雄君登壇、拍手起ル〕
○議長(奥繁三郎君) 御異議ハナイト認メマス、仍テ勳議
ノ如ク委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ——次ハ執
達吏規則中改正法律案、民事訴訟費用法中改正法律
案、刑事訴訟費用法案ヲ一括シテ其第一讀會ノ續キヲ開
キマス——委員長黒住成章君

執達吏規則中改正法律案(政府提出)
第一讀會(續) (委員長報告)

報告書
一 執達吏規則中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告
候也
大正十年三月五日

執達吏規則中改正法律案委員長 黑住 成章

衆議院議長與繁三郎殿

民事訴訟費用法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一民事訴訟費用法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月五日

民事訴訟費用法中改正法律案委員長 黑住 成章

衆議院議長與繁三郎殿

刑事訴訟費用法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一刑事訴訟費用法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月五日

刑事訴訟費用法案委員長 黑住 成章

衆議院議長與繁三郎殿

○黒住成章君 只今日程ニ上リマシタ各法律案ノ委員

會ノ願未ヲ御報告致シマス、此民事ノ訴訟費用法中改正法律案ノ此提案ノ要旨ハ、搔摺ンデ申上デマスルト、明治二十三年ニ定メラレタル同法、此費額ガ今日ノ經濟事情ニ鑑ミマシテ、甚シク、不合理不自然ナル、實際支拂ヒマシタル所ノ實費ノ半バストラ、償フコトガ出來ナイト云ノ有様デアリマス、斯クテハ實費辨償ノ精神ニ悖リマスルノミナラズ、之ガ爲メニ遠方ノ證人等ハ出頭ヲ避ケマシテ、司法運用ノ上ニ時々支障ヲ生ズルコトガ少ナカラスノデゴザイマス、故此費額ノ増加ヲ爲サントスルコトガ、本案改正ノ骨子デアリノデゴザイマス、委員會ハ廢案ニナリマシタ大道寺君ヨリ御提案ニナリマシタル同法案ト併セテ審議ヲ致シマシタ、

此額ノ事ハ極メテ細カイ事デアリマスカラ、御報告ヲ省畧致シマシテ、委員會ノ速記録ヲ御覽ヲ願フコトニ致シテ、本案ニ關係ヲ持チマスル重要ナル質問應答ノ大體ダケヲ御紹介致シマス、先ヅ大道寺君ノ御提案ニナリマシタ案ト、政府ノ提案トハ、大同小異デゴザイマス、又優劣モ殆ドゴザイマセヌ、ソレ故ニ政府案ダケニ色々ノ點ニ就テ質問ガアッタノデアリマスカラ、政府案ダケニ就テ私ハ是ヨリ一二御紹介ヲ致シマス、現行法ノ一條三條十一條、是ハ改正案ハ單ニ費額ヲ増加シタニ過ギスノデゴザイマスガ、其他十二條、此點ニ就キマシテハ現行法ハ法律ヲ其額ヲ定メテ居ルノデアリマス、然ルニ改正案ハ之ニ對シマシテ、稍、裁判所ニ自由裁量ノ餘地ヲ與ヘマシテ、此點ダケガ先ヅ違フノデゴザイマス、之ニ關シテ委員會ニ於キマシテハ委員ヨリ質問ガ出マシタ、即チ斯ク裁量ノ餘地ヲ存シタル理由如何、之ニ對シマシテ、政府ハ一條ニ規定セズシテ、多少ノ裁量ノ餘地アル方ガ、却テ損害賠償ノ精神ニ適フソレデス改メタノデアアルスウ云フ答辯ヲ致シマシタ、其次ニ委員ノ一人ヨリ、最モ實費支辨ノ關係ニ於テ重要ナル事項トシテ質問ガアリ、マシタソレハ現今大審院ノ判例ニ依リマスルト云フト、辯護士ノ報酬ト云フモノハ、訴訟費用トシテ認メテ居ナイノデアリマス、デス様ナ改正案ガ出マス場合ニ、何故此規定ヲ爲サスカスウ云フ質問ガ出タノデゴザイマス、之ニ對シマシテ政府ハ、不日民事訴訟法ヲ改正ガ行ハレルノデアアルカラ、此御希望ニ副フヤウニナルデアラウ、要スルニ本法ハ單ニ其比較ヲ規定スルニ過ギマセヌデ、寧ロ斯様ナ事ハ、其實體法デアアル民事訴訟法ニ規定スルコトガ適當デアラウト、斯ウ云フ答辯デアリマシタ、ソレカラ更ニ改正案ガ附加致シマシタ、第二條ノ三項デアリマス、此三項ハ從來無カッタモノガ、司法代書人法ト云フモノガ出來マシタノデ、此五條ノ規定ニ一一同法ノ五條ノ規定ニ依リマシテ、地方裁判所長ノ定ムル所ニ從ヒテ司法代書人ニ任拂ヒタル金額ハ前二項ノ定ムルモノト異ナルトキハ其額ニ依ル」ト云フ條項ガ附加セラレタノデアリマス、之ニ對シマシテ委員ノ一人ハ質問ヲ致シマシタ、斯様ナ條項ハ却テ不必要デハナイカ、司法代書人ニ任拂ヒタル金額ト云フモノハ一定ヲ致サナイ、管内ガ違フタリ何カ致シマスルト、斯様ナ場合ニ訴訟費用ノ確定決定ヲ求ムルト云フコトニ至リマスト云フト煩雜ニ堪ヘヌ、即チ裁判所ハ其證據書類ノ提出ヲ求メルト云フコトニナリマスノデ、非常ニ煩雜ニナル、斯様ナモノハ置カヌ方ガ宜イデハナイカ、斯ウ云フ

意見デアリマシタ、若シ是非此規定ヲ存置スル必要ガアルト云フコトニナリマシテモ、任拂ヒタル金額トセズ、「地方裁判所長ノ定メタル金額」ト斯ウ云フ風ニ書イタ方ガ宜クハナイカ、斯ウ云フヤウナ質問ガ出マシタ、之ニ對シマシテ政府ノ答辯ハ、本項ニ司法代書人——此本項ヲ置キマシタノハ、司法代書人ヲ保護スル精神カラ生シタモノデアアル、而シテ現時司法省令ニ於テハ、代書人ハ其作、夕書類ニ記名捺印ヲセシムルコトニナラテ居ルガ今度ハ更ニ其任拂ヒマシタル代書料ヲモ附記セシムル方針ト致スノデアアルカラ、御問ノヤウナ煩雜ハ來タサヌ、斯ウ云フ答辯ガゴザイマシタ、今一ツ事柄ハ小サイ事デアリマスガ、適用上往々疑問ヲ生ズル事項デアリマスカラ御紹介致シマス、改正案ハ現行法ノ十條ヲ削除致シマシテ、第九條ニ當事者證人ヲ併セテ規定ヲ致シマシタ此ノ證人ノ事ニ就キマシテハ前ニ說明致シマシタ如ク、實費辨償趣旨ニ於キマシテ、一定シナイ方ガ却テ宜イ、裁量ノ餘地ノアツタ方ガ實際ニ副フト云フノ判例ニ依リマスルガ當事者本人ノ場合——例ヘバ質問ノ要旨ハ、當事者本人ノ場合ト其代理ヲ致シマスル、即チ辯護士ヲシテ代理人トシテ出願セシムル場合ノ、取扱方法ト云フモノヲ區別スル方針デアアルカドウカ、第二ニ統一セシムル——斯ウ云フモノハドウシテモ統一スル必要ガアラウト思フカラ、統一セシムル方針トシテ、訓令デモ發スル考デアアルカドウカ、此間ニ對シマシテ政府當局ハ、當事者ト辯護士ト區別シテ取扱ハ爲サヌ、第二ノ點ハ各管内ノ相當方法ニ依ッテ、取扱上ニ違算ナキコトヲ期スル積リデアアルト斯ウ云フコトデ、質問應答ノ本案ノ重要ナル點ハ濟ンダノデアリマス、質問ヲ終了致シマシテ採決ニ際シマシテ、大導寺君ヨリ同君、提出ノ案ハ御撤回ニナリマシタ、ソレ故ニ政府案ニ就キマシテ採決ヲリマシタ所ガ、滿場一致デ可決スヘキモノト議決ニ相成リマシタ、次ハ刑事訴訟費用法案、是ハ諸君モ御承知ノ如ク、從來刑法施行法第六十二條以下ニ規定シテアリマシタモノヲ、一ツノ單行法ト致シマシテ、刑事訴訟費用法トシテノ提案ニナラタノデアリマス、サウシテ此大體民事訴訟——民事訴訟費用法ト同ジ精神デアリマス、即チ今日ノ經濟事情ニ鑑ミマシテ、相當ノ即チ實費ヲ辨償スル、不合理ノナキヤウニ努メタ法案デアゴザイマス、是ニハ別ニ質問ガゴザイマセヌデアリマシタガ、一ツ質問ガ出マシタ、是ハ無罪免訴トナ、タ者ニ對シテモ、之ニ對シテノ賠償ヲ同法ノ精神カラ考ヘマシテ、此法律ニ規定スベキモノト思フガドウカ、斯ウ云フ質問ニ對シマシテ政

府ノ答辯ハ費用法ハ、其額ヲ定ムルニ過ギヌノデアリマス、根本ハ是デハ規定ハシナイ、斯ウ云フ一ツノ答辯デゴザイマシタ、ソレカラ今一ツ此重要ナ質問ガ出タノデアリマスガ、確カ

執達吏規則中改正法律案 第二讀會(確定讀)

民事訴訟費用法中改正法律案 第二讀會(確定讀)

刑事訴訟費用法案 第二讀會(確定讀)

〔異議ナシ〕異議ナシノ聲起ル

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ此案ハ岩崎君動議ノ如ク、委員長報告通り可決確定致シマシタ、序ニ此場一寸御諮リヲ致シテ置キマス、此三案ト同

委員ニ付託サレマシタ大道寺慶男君、提出民事訴訟費用法中改正法律案ハ、提出者ヨリ撤回ノ申出ガアリマシタ、之ヲ許可スルニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス

○岩崎勳君 殘餘ノ日程ニ對シテ延期ノ動議ヲ提出致シマス

〔贊成〕贊成ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議——マダ諮問事項ガアリマス、報告ガアリマス岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク、爾餘ノ日程ハ延期ニ決シマシタ——第六部選出決算

委員川原茂輔君、第二部選出決算委員津崎尚武君、兩君ヨリ常任委員辭任ノ申出ガアリマシタ、之ヲ許可スルニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可シマス、報告ガアリマス

〔原田書記官朗讀〕

一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

市制中改正法律案

町村制中改正法律案

大正九年法律第十號中改正法律案

憲兵補ノ恩給ニ關スル法律案

(以上三月五日提出)

○議長(奥繁三郎君) 今日ハ是ニテ散會

午後五時五十五分散會

府ノ答辯ハ費用法ハ、其額ヲ定ムルニ過ギヌノデアリマス、根本ハ是デハ規定ハシナイ、斯ウ云フ一ツノ答辯デゴザイマシタ、ソレカラ今一ツ此重要ナ質問ガ出タノデアリマスガ、確カ

ニ、起訴後ニ於キマシテカ此適用ヲ受ケルガ、起訴前ニ於ケル

ル捜査中ノ場合ニ、檢事局出頭等ニ對スル日當等ハ、之ヲ規定スベキモノデナイト斯ウ云フヤウナ質問デアリマシタ、如何ニモ尤モナ質問デアッタノデアリマスガ、之ニ對シテハ政府

ノ答辯ハ、刑事ノ訴訟費用法デアルカラ、起訴前ノ捜査費用ニ關シテハ、此所ニ規定スルコトハ甚ダ不合理ニナル且ツ

現今ハ大正二年省令ニ依リマシテ、檢事捜査ノ場合ニ任

意出頭致シマシタ者ニ對シテ、相當ノ日當ヲ給與ヲ致シテ

居ル、斯ウ云フ答辯デゴザイマシテ、同案ノ決ヲ採リマシタ所

ガ是亦原案ヲ是認致シマシタ、最後ニ執達吏規則中改正

法律案、是ハ極メテ簡單ナデアリマス、同法ノ第十九條

中ニ、執達吏一年間ニ收入セシ手數料四百五十圓ニ滿タヌ

時ニハ、國庫カラ其不足額ヲ支給スルト云フ規定ニナラテ居

リマスノヲ、之ヲ六百圓ニ改メルト云フ簡單ナ問題デアルノ

デアリマス、即チ近時經濟狀態ノ膨脹ニ伴ヒマシテ、此金額

ヲ六百圓ニ改メルト云フ簡單ナ問題デアルノデアリマス、又

附則ノ但書ハ恩給關係ニ於テ、必然規定ヲ要シマスルニ

至ラターツノ法案ニ過ギヌノデアリマス、是亦委員會ハ滿

場一致デア原案ヲ是認致シマシタ、此段御報告致シマス、(拍

手起ル)

○議長(奥繁三郎君) 此三案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤ

ヲ御諮リシマス

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 御異議ガ無イト認メマス、第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○岩崎勳君 此三案ヲ一括シテ直チニ第二讀會ヲ開キ、

第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決確定セラレン

コトヲ望ミマス

〔贊成〕贊成ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌ

カ

〔異議ナシ〕異議ナシノ聲起ル

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ

第二讀會ヲ開キマス

